（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第53輯

小　田　遺　跡

都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う発掘調査報告書

1990

財団法人　大阪府埋蔵文化財協会

（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第53輯

小田（おだ）遺跡

都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う発掘調査報告書

1990

財団法人　大阪府埋蔵文化財協会

a．007－ＯＳ　遺物出土状況

b．075－ＯＲ　遺物出土状況・出土遺物

序　　文

和泉市と岸和田市の境にある小田遺跡は東山丘陵先端の平地部にあって、松尾川と牛滝川に挟まれた水田地帯に広がっている遺跡です。二つの河川の合流点付近は現在、整然と区画された田畑となっていてかつての地形を容易に想像することはできませんが、その地下には古い時期の河川の跡が複雑な流路を形成していて、暴れ川さながらのようすがみられます。

都市計画道路岸和田南海線建設にともなった今回の調査はこの河川を東西に断ち割るような形で行なわれました。南北約400mの長い調査区内の各所に自然河川や溝の跡がみられ、そこからは縄文時代の土器や当時の食料であったトチの実などが詰った穴が発見されています。また弥生時代から古墳時代にかけての大量の土器も別の溝で発見されています。今回の調査では住居の跡は見つかっておりませんが、出土した遺物からはすぐ近くに居住地があったことはまちがいなく、この地に住み始めた人々の生活のにおいが身近に伝わってきます。この調査成果が当地域の歴史を解明する一助となれば幸いです。

本調査を実施するにあたって、大阪府教育委員会、大阪府土木部鳳土木事務所、和泉市教育委員会、地元自治会をはじめとする関係者各位に多くのご支援とご協力を賜り、深く感謝をしております。今後とも当協会の事業に変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成２年３月

財団法人　大阪府埋蔵文化財協会

理事長　仁賀奈　祐　吉

例　　言

1．本書は、都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設予定地内に所在する小田遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、大阪府土木部鳳土木事務所の委託をうけ、大阪府教育委員会文化財保護課の指導のもとに、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が実施した。

3．現地における調査は、２年度に分けて実施した。第１次調査は昭和63年12月５日に着手し平成元年３月31日に終了し、第２次調査は、平成元年５月11日に着手し平成２年３月14日に終了した。

4．調査は、第１次調査を技師山本　彰・佐々木好直・橋本裕行・虎間英喜、第２次調査を山本　彰・虎間英喜を担当者として実施した。

5．調査の実施にあたっては、地元小田町会をはじめ、大阪府土木部鳳土木事務所・和泉市教育委員会の協力を得た。

6．本書に記載する平面図の位置は、国土座標第Ⅵ系の値をkm単位で表示した。方位は座標北を示す。標高は、東京湾平均海面をm単位で表示した。

7．遺構については、当協会の『発掘調査規程』に基づいて検出した順に番号をふり、種類については、その後ろに略号を示した。本報告書で取り扱う略号は下記のとおりである。

OB：建物　OO：土坑　OP：ピット　OR：自然河川　OS：溝　OX：不明遺構

8．本書で用いた土壌色および土器の色調は、小川正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』５版（1976）による。

9．本書の執筆は、調査担当者および藤田憲司が担当し、文責は文末に記した。編集は、虎間が担当し山本が補佐した。

10．本遺跡では、花粉分析・珪藻分析を実施した。これらの報告書については当協会の資料班において保管している。

11．遺物の写真撮影および焼付は、小倉　勝が担当した。

本　文　目　次

第Ⅰ章　調査の経過と調査の方法……1

第1節　調査の契機と経過……1

第2節　調査の方法……2

第Ⅱ章　小田遺跡の環境……3

第Ⅲ章　調査の成果……5

第1節　層序・包含層遺物……5

第1項　基本層序……5

第2項　包含層遺物……5

第2節　第Ⅰ調査区の調査成果

第1項　概　　要……16

第2項　遺構各説……16

003－OO……16
006－OO……16
009－OO……16
008－OO……17
054－OR……18
002－OS……20
055－OR……20
058－OR……25
115－OB……30
007－OS……35
049－OO……40
050－OO……40
051－OO……42
052－OO……42
053－OO……44
106－OO……44
109－OO……44
114－OO……44
056－OS……44
057－OS……45

第3節　第Ⅱ調査区の調査成果……47

第1項　概　　要……47

第2項　遺構各説……47

075－OR……47
124－OS……53
078－OR……54
081－OR……55

083－OS…… 53

第４節　第Ⅲ調査区の調査成果…… 56

第１項　概　　要…… 56

第２項　遺構各説…… 56

070－OO…… 56
071－OO…… 56
073－OO…… 56
068－OR…… 57
065－OR…… 59
064－OR…… 61
069－OX…… 63
062－OS …… 63

第Ⅳ章　まとめ…… 67

付　　遺物観察表…… 69

挿　図　目　次

第１図　調査区地区名（1/3000）…… 2
第２図　小田遺跡位置図…… 3
第３図　周辺遺跡地図（1/25000）…… 4
第４図　包含層出土遺物１　（1/3）…… 6
第５図　包含層出土遺物２　（1/3）…… 7
第６図　包含層出土遺物３　（1/4・1/2）…… 8
第７図　包含層出土遺物４　（1/2）…… 8
第８図　第Ⅰ調査区平面・断面図（水平1/300、垂直1/60）…… 9・10
第９図　第Ⅱ調査区平面・断面図（水平1/300、垂直1/60）…… 11・12
第10図　第Ⅲ調査区平面・断面図（水平1/300、垂直1/60）…… 13・14
第11図　003・006・009－OO 平面・断面図（1/40）…… 16
第12図　003・008－OO出土遺物（1/2）…… 17
第13図　008－OO断面土層図（1/60）…… 17
第14図　054－OR断面土層図（1/80）…… 18
第15図　054－OR出土遺物（1/4・1/2）…… 19
第16図　002－OS断面土層図（1/40）・出土遺物（1/4）…… 20
第17図　055－OR断面土層図（1/80）…… 20
第18図　055－OR出土遺物１（1/4）…… 21
第19図　055－OR出土遺物２（1/4）…… 22
第20図　055－OR出土遺物３（1/4）…… 23
第21図　054・055－OR出土遺物（1/4）…… 24
第22図　058－OR出土遺物１（1/4）…… 26
第23図　058－OR出土遺物２（1/4）…… 27
第24図　058－OR出土遺物３（1/4）…… 28
第25図　058 －OR出土遺物４（1/4）…… 29
第26図　115－OB平面・断面図（1/40）…… 30
第27図　第Ⅲ調査区上層遺構平面図（1/200）　31・32
第28図　007－OS平面・遺物出土状況図（1/40）…… 33・34
第29図　007－OS断面土層図（1/40）…… 35
第30図　007－OS出土遺物１（1/4）…… 36
第31図　007－OS出土遺物２（1/4）…… 37
第32図　007－OS出土遺物３（1/4）…… 38
第33図　007－OS出土遺物４（1/4）…… 39
第34図　007－OS出土遺物５（1/1・1/2・1/4）…… 40
第35図　049・050・051・052・053－OO 遺物出土状況図（1/20）…… 41
第36図　106・114－OO遺物出土状況図（1/20）…… 42

第37図　049～053・106・109・114－OO
出土遺物（1/4）…… 43
第38図　056－OS出土遺物（1/4）…… 45
第39図　056・057－OS断面土層図（1/40）…… 46
第40図　075－OR断面土層図（1/80）…… 47
第41図　075－OR遺物出土状況図（1/20）…… 48
第42図　075－OR出土遺物１（1/2）…… 48
第43図　075－OR出土遺物２（1/4）…… 49
第44図　075－OR出土遺物３（1/4）…… 50
第45図　075－OR出土遺物４（1/4）…… 51
第46図　075－OR出土遺物５（1/4）…… 52
第47図　124－OS断面土層図（1/40）
・出土遺物（1/4）…… 53
第48図　083－OS断面図（1/80）…… 53
第49図　083－OS出土遺物（1/4）…… 54
第50図　078－OR断面土層図（1/100）…… 54
第51図　078－OR出土遺物（1/4）…… 55
第52図　081－OR出土遺物（1/4）…… 55
第53図　081－OR断面土層図（1/80）…… 55
第54図　070・071・073－OO配置図
（1/100）…… 56
第55図　070・071・073－OO平面
・断面土層図（1/40）…… 57
第56図　068－OR出土遺物（1/3）…… 58
第57図　068・065－OR断面土層図（1/100）…… 59
第58図　065－OR出土遺物１（1/3）…… 60
第59図　065－OR出土遺物２（1/8）…… 61
第60図　065－OR出土遺物３（1/2）…… 61
第61図　064－OR断面土層図（1/60）…… 62
第62図　064－OR出土遺物（1/3）…… 62
第63図　069－OX出土遺物（1/4）…… 63
第64図　062－OS断面土層図（1/40）…… 63
第65図　062－OS遺物出土状況図（1/20）
・出土遺物１（1/4）…… 64
第66図　062－OS出土遺物２（1/4）…… 64
第67図　062－OS出土遺物３（1/3）…… 65
第68図　062－OS出土遺物４（1/2）…… 66
第69図　調査周辺図（1/7500）…… 67

表　目　次

第１表　周辺遺跡地名表

図　版　目　次

巻頭図版ａ　007－OS遺物出土状況
ｂ　075－OR遺物出土状況・出土遺物
図版　１　遺跡全景（航空写真）
図版　２ａ　第Ⅰ調査区全景（航空写真）
ｂ　第Ⅱ調査区全景（航空写真）
ｃ　第Ⅲ調査区全景（航空写真）
図版　３ａ　002－OS近景（西から）
ｂ　008－OO近景（北から）
図版　４ａ　054－OR、055－OR全景（西から）
ｂ　054－OR、055－OR全景（西から）
図版　５　058－OR遺物出土状況
図版　６ａ　007－OS、115－OB全景（航空写真）
ｂ　115－OB、114－OO近景（西から）
図版　７ａ　007－OS近景（西から）
ｂ　007－OS近景（南から）
図版　８ａ　007－OS遺物出土状況
ｂ　007－OS遺物出土状況
図版　９ａ　049－OO遺物出土状況
ｂ　050－OO遺物出土状況
図版　10ａ　051－OO遺物出土状況

b　052－OO遺物出土状況
図版　11 a　053－OO遺物出土状況
b　114－OO遺物出土状況
図版　12 a　054－OR、056－OS、057－OS全景（東から）
b　054－OR断面
図版　13 a　056－OS断面
b　057－OS断面
図版　14 a　075－OR全景（東から）
b　075－OR遺物出土状況
図版　15 a　083－OS、078－OR全景（西から）
b　081－OR断面
図版　16 a　070－OO、071－OO全景（東から）
b　070－OO断面
c　071－OO断面
図版　17 a　065－OR全景（西から）
b　遺物出土状況
c　遺物出土状況
図版　18 a　064－OR、062－OS全景（東から）
b　064－OR近景（南から）
図版　19 a　062－OS近景（南から）
b　062－OS断面
図版　20 a　062－OS遺物出土状況
b　062－OS遺物出土状況
図版　21　054・055・058－OR出土遺物
図版　22　058－OR、007－OS出土遺物
図版　23　007－OS、050・051・052－OO出土遺物
図版　24　053・106・114－OO、056・062－OS、075－OR出土遺物
図版　25 a　包含層出土遺物
b　068－OR、064－OR出土遺物
図版　26 a　065－OR出土遺物
b　062－OS出土遺物
図版　27　包含層出土遺物
図版　28　003・008－OO、054・075・065－OR、007－OS出土遺物
図版　29 a　055－OR出土遺物
b　055－OR出土遺物
図版　30 a　075－OR出土遺物
b　075－OR出土遺物

第Ⅰ章　調査の経過と調査の方法

第１節　調査の契機と経過

都市計画道路大阪岸和田南海線は和泉市舞町を起点とし、和泉市小田町に至る和泉市を南北に縦断する全長6020ｍにおよぶ道路で、昭和41年４月11日に計画決定、昭和59年10月４日に最終決定がなされた。このうち路線の南部地域である槇尾川以南についてみると、周知の遺跡として知られる和気遺跡が存在しており松尾川までのルートについては昭和59年度に大阪府教育委員会によって発掘調査[註1]がなされている。

ところで、松尾川以南の工事が具体化されるにつれ、その後の遺跡の取り扱いが問題となってきた。昭和61年に発行された『大阪府文化財分布図[註2]』では、松尾川以南は軽部池西遺跡まで遺跡は周知されておらず、磯ノ上山直線をはじめとする隣接地区の遺跡の分布密度からみても当然のことながら遺跡の存在が予測された。このため大阪府教育委員会と大阪府土木部は協議を行い当該地区については試掘調査を実施することで合意に達し、昭和62年度に大阪府教育委員会によって実施された。この結果、槇尾川の氾濫原を除いて府道磯ノ上山直線までの区間約460ｍについては小田遺跡として周知されるに至った。

その後、大阪府教育委員会と大阪府土木部は協議を行い遺構および遺物が検出された路線の全域にわたって全面調査を実施することで合意に達するとともに発掘調査事業そのものが関西新空港に関連した事業との位置づけがなされた。このため発掘調査は大阪府土木部鳳土木事務所の委託によって財団法人大阪府埋蔵文化財協会が実施することとなった。

発掘調査は、調査面積が大規模であることから２年度にわたって行うこととなり、第１次調査は、昭和63年12月５日に掘削を着手し、平成元年３月31日に終了した。第２次調査は、平成元年５月11日に着手し、平成２年３月14日に終了した。遺物整理は、発掘調査期間中と併行して実施し、報告書の刊行にこぎつけた。

なお現地での調査では、地元和泉市教育委員会をはじめとして関係各位の絶大なる援助を受けるとともに自然遺物については大阪市立大学教授粉川昭平先生の御指導を得た。

（山本）

註

註１　大阪府教育委員会　『和気遺跡発掘調査概要報告書』　昭和60年
註２　大阪府教育委員会　『大阪府文化財分布図』　昭和61年

第２節　調査の方法

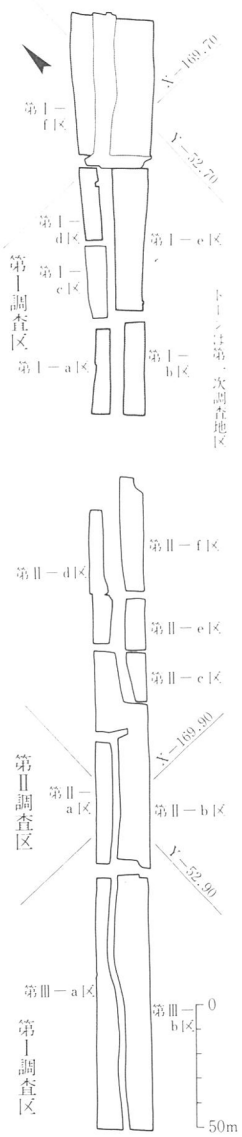
発掘調査は、道路・里道・水路によって数多く分断されている。このため調査にあたっては、第１次調査・第２次調査をそれぞれⅠ・Ⅱと略し、その後ろにアルファベットの小文字を付することによって各々の調査区を呼称することとした。

調査区の地区割は、大阪府発行の1/2500地形図を基本としてこの地図を12等分し500ｍの方形区画をつくり、ＡからＬまでの区画をつくり、次にこの方形区画を25等分して100ｍの方形区画をつくり01～25までの数字によって表記することとした。さらに100ｍ区画を625等分して１辺４ｍの方形区画をつくり縦方向にＡ～Ｙ（北→南）、横方向にＡ～Ｙ（西→東）のアルファベットを与えた。区画を表す場合は縦方向を優先することによって地区名を与えた。詳細については当協会が定める『発掘調査規程』[註]によられたいが、遺物の取り上げや現地における実測作業にあたってはこの最終区画を基本としている。

調査は表土層の機械掘削が終了した後、国土座標法による新平面直角座標系を基本として、３級杭および４級杭を打設して先に示したように４ｍ×４ｍの区画を設定した。

その後、人力掘削に着手したが、まず排水溝の役割を兼ねた断面観察用の側溝をそれぞれの調査区に設定し、土層の堆積状況を確認しながら層毎の掘削を実施した。この間最終遺構面までに検出された遺構については調査担当者および調査補助員が実測し、最終面については、ヘリコプターによる航空撮影を実施し1/20による実測図を作成した。

遺構は検出した順に番号を与え当協会が定める略号を用いて表記した。なお、里道および水路についても大阪府教育委員会が必要と認めた範囲については里道・水路を付け替えることによって調査を実施し、遺漏のないように留意した。　（山本）

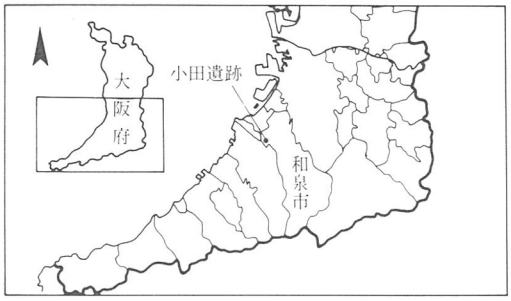


第１図　調査区地区名
(1/3000)

註　財団法人大阪府埋蔵文化財協会　『発掘調査規程』　昭和61年

第II章　小田遺跡の環境

小田遺跡は和泉市小田町に所在する。和泉市は大阪府南部に位置し、南を和歌山県と接している。当遺跡は大阪府と和歌山県の県境を東西に走行する和泉山脈から派生した松尾川と牛滝川が形成した東山丘陵の先端部および河岸段丘上に位置している。標高はおよそ20m前後を測る。



第２図　小田遺跡位置図

小田遺跡は昭和62年に新規発見された遺跡であるが、周辺には従来から多くの遺跡の存在が知られていた。縄紋時代では当遺跡に隣接する軽部池西遺跡において土坑や自然河川跡から縄紋時代後期を中心とする土器が多く検出されている。また山ノ内遺跡（Ｂ地区）においては土器棺墓、土坑等の遺構が検出されるとともにサヌカイト製の石器それらの未製品や剝片が遺構や包含層から多量に検出されている。その他にも後期から晩期にかけての土器や土偶、黒曜石、メノウ、ヒスイ製の石器や石製品等が検出されている。

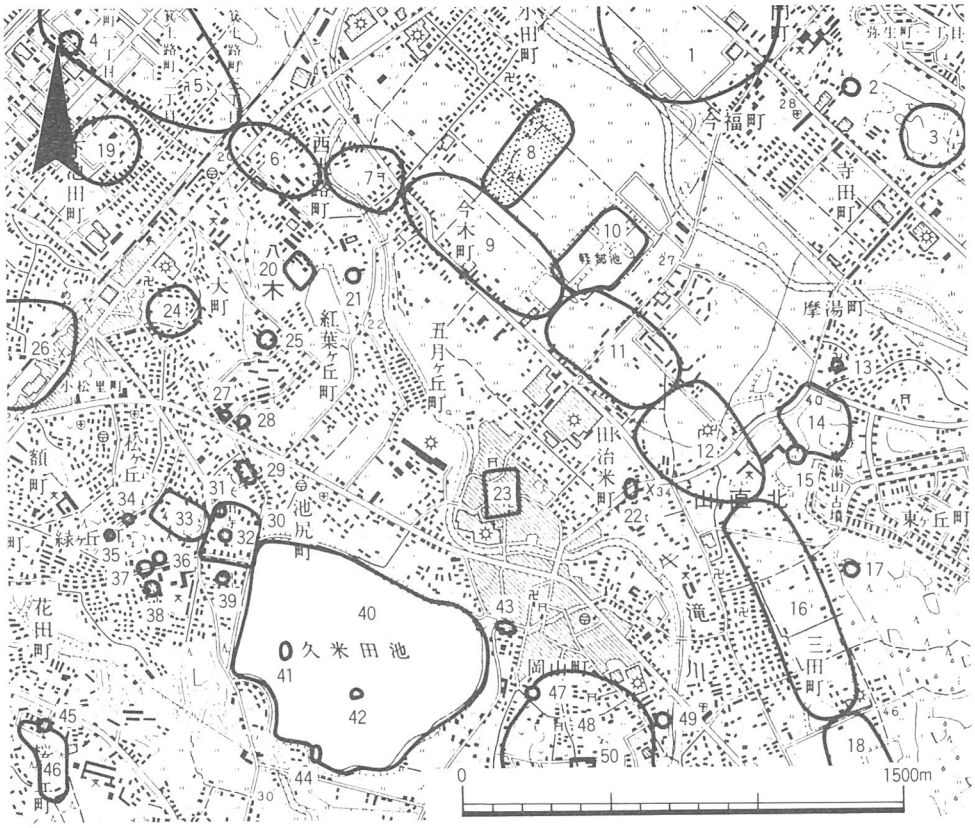
弥生時代では前期から後期にかけての遺物を出土し、長期にわたって集落が営まれたと推測される田治米宮内遺跡が南西方向約１㎞の地点に存在する。弥生時代中期・後期の住居跡は周辺で多く確認されているがいずれも数棟からなる小さな集落であったとみられる。中期のものとしては山ノ内遺跡（Ｂ地区）や松尾川の対岸に位置する和気遺跡において、後期から後期末（庄内期）にかけてのものとしては今木遺跡や山ノ内遺跡（Ａ地区）、西大路遺跡等で検出されている。また和気遺跡においては中期の水田跡も検出されている。

古墳時代前期（布留期）の集落跡はあまり確認されていない。しかし、東山丘陵の先端部には４世紀後半に比定される全長200mを測る前方後円墳の摩湯山古墳が存在し、また同古墳の西側に位置する三田遺跡においては同時期の土坑墓群が検出されており、付近に集落の存在が推測される。古墳時代後期になると集落跡が広範囲に認められるようになる。山直北遺跡、三田遺跡等においては５世紀後半から６世紀前半に比定される竈を設けた竪穴住居跡が検出されている。掘立柱建物も並存し竪穴住居は６世紀後半まで存続している。

飛鳥・奈良時代では山直北遺跡において官衙的色彩の強い遺構が検出されている。また

軽部池は奈良時代の文献にみられる「軽郷六塘」に当たるものと考えられている。

中世の集落跡は和気遺跡、三田遺跡、上フジ遺跡等で検出されている。　　（虎間）



第３図　周辺遺跡地図（1/25000）

第１表　周辺遺跡地名表

1 和気遺跡	14摩湯山古墳	27立鶴羽遺跡	40久米田池
2 狐塚古墳	15馬子塚古墳	28池尻古墳	41久米田池内遺跡
3 寺門古墳・古墓	16三田遺跡	29池尻町遺跡	42久米田池須恵窯跡
4 犬飼堂跡	17東山古墳	30久米田寺跡	43岡山矢取遺跡
5 箕土路遺跡	18上フジ遺跡	31光明塚古墳	44岡山八ツ川遺跡
6 西大路遺跡	19下池田遺跡	32久米田寺境内	45狐塚古墳
7 今木遺跡・今木廃寺	20今木城跡	33貝吹山古墳	46狐塚遺跡
8 小田遺跡	21丸山古墳	34志阿弥法師塚古墳	47狐塚古墳
9 軽部池西遺跡	22田治米宮内遺跡	35長坂古墳	48岡山遺跡
10軽部池	23田治米廃寺	36無名塚古墳	49川原古銭出土地
11山ノ内遺跡	24八木城跡	37風吹山古墳	50岡山御坊跡
12山直北遺跡	25大町遺跡	38女郎塚古墳	
13イナリ古墳	26小松里廃寺	39池尻円筒棺出土地	

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　基本層序・包含層遺物

第１項　基本層序

基本層序は出土遺物による時期を基準に設定した。

第１層は、現代の耕作土および盛土である。

第２層は、近世の耕作土および近世の遺物を含む層である。

第３層は、中世の耕作土および中世の遺物を含む層である。

第４層は、弥生時代中期の遺物を含む層である。第Ⅲ－ａ・ｂ調査区にのみ存在する。約20㎝の堆積が認められる。黄灰色系の砂混じりシルトである。遺構検出面上では不定形な土坑状を呈するが、埋土と第４層に差が認められないことから検出面上のくぼみに堆積したものとみなし、当初現地で遺構出土遺物として取り上げた遺物も今回第４層出土遺物と改めた。

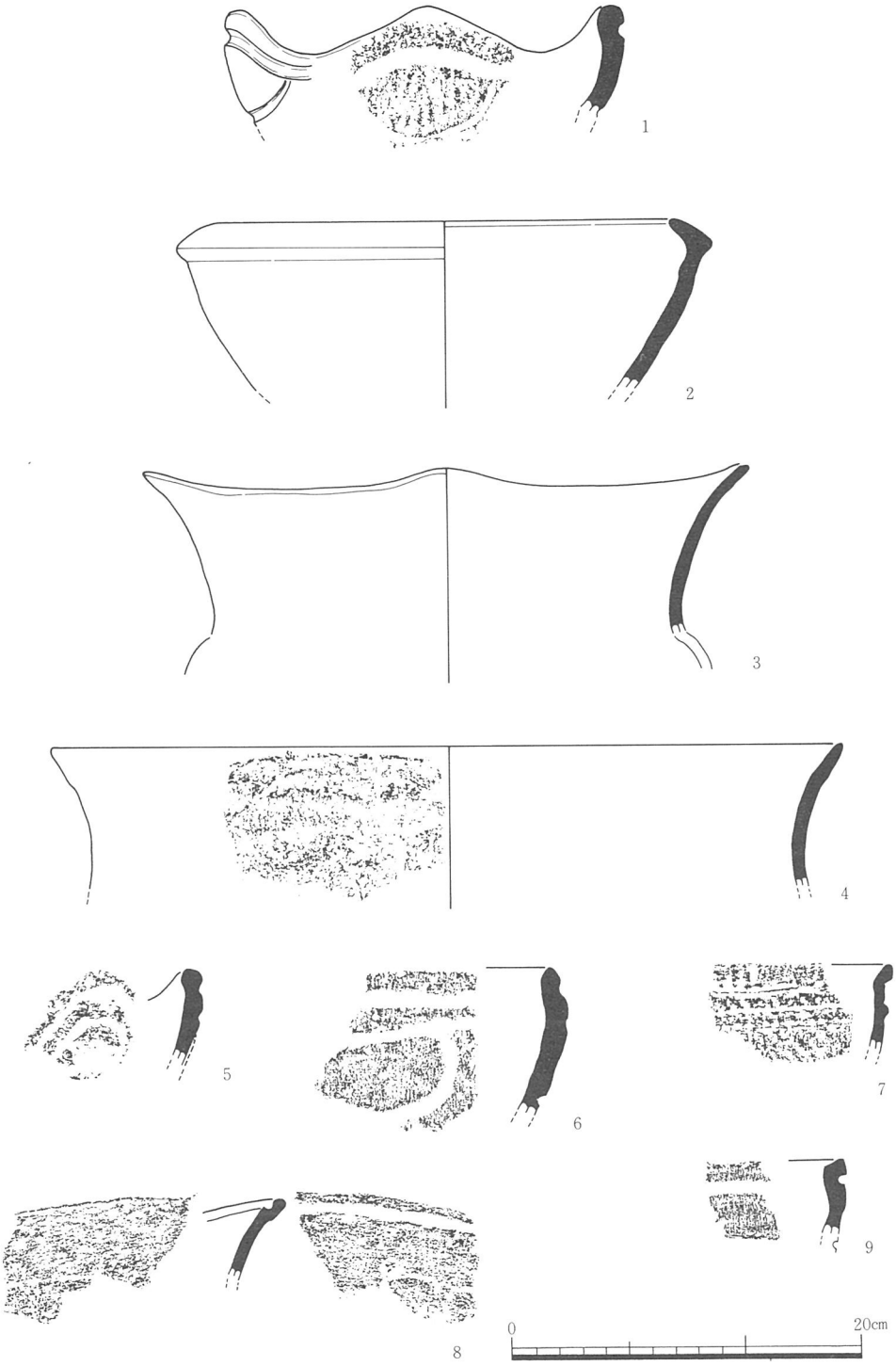
第５層は、縄紋時代晩期の遺物を含む層である。第Ⅲ－ａ調査区にのみ存在する。約10～30㎝の堆積が認められる。黄灰色系の粘質シルトである。

第６層は、第Ⅰ－ｅ調査区のトレンチ調査により検出した層を仮称したものである。炭化物を含む砂層からなる層である。縄紋時代前期末の土器や石器を含んでいる。自然河川や谷地形等の埋土であるかプライマリーな包含層であるかは不明である。　（虎間）

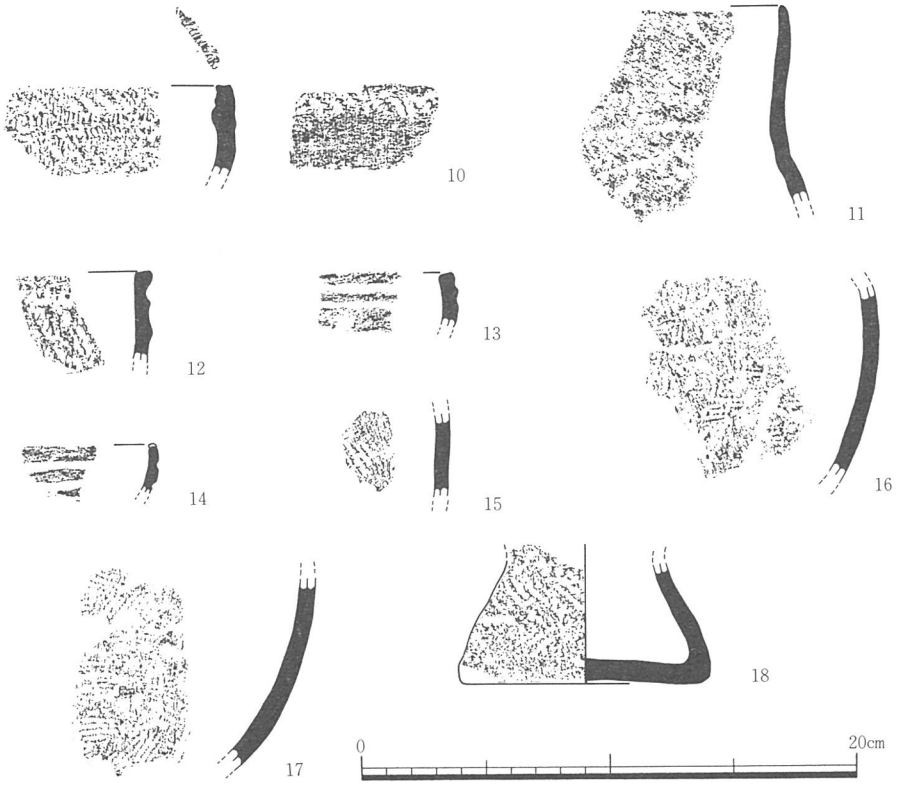
第２項　包含層出土遺物（第４～７図、図版25・27）

包含層出土の縄紋土器は図示資料を含め約30点以上出土している。自然河川部分での出土が多く、とくに前期から中期の資料は第Ⅰ－ｂ・ｅ調査区で、晩期の資料は068・065－OR付近に多く認められた。

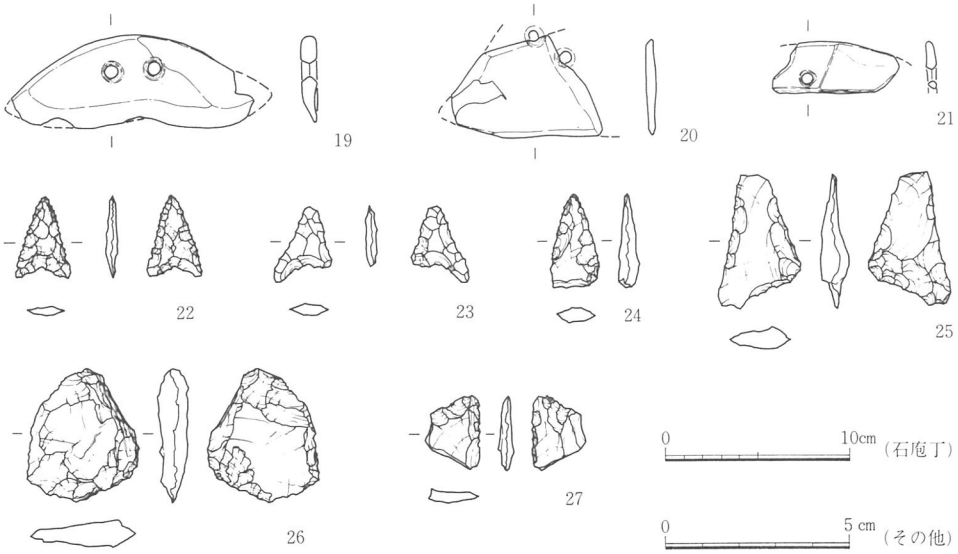
各時期のものがあり、器表面が磨滅しているものが多い。７・10・12・18は第Ⅰ調査区で出土している。７は口縁部外面にキザミを持ち、直下の突帯の上に半裁竹管の押し引きによるキザミを施している。10は口縁部内外面に縄紋を施し、口縁端部上面にキザミを加えている。口縁外面の直下には厚みの薄い突帯をつけ、その上を半裁竹管によるキザミを施している。18の底部は外面に羽状縄紋を施している。以上の土器は前期末および、前期末から中期初頭に位置付けられる。12は撚りの太い縄紋を施した後、口縁直下にキザミを



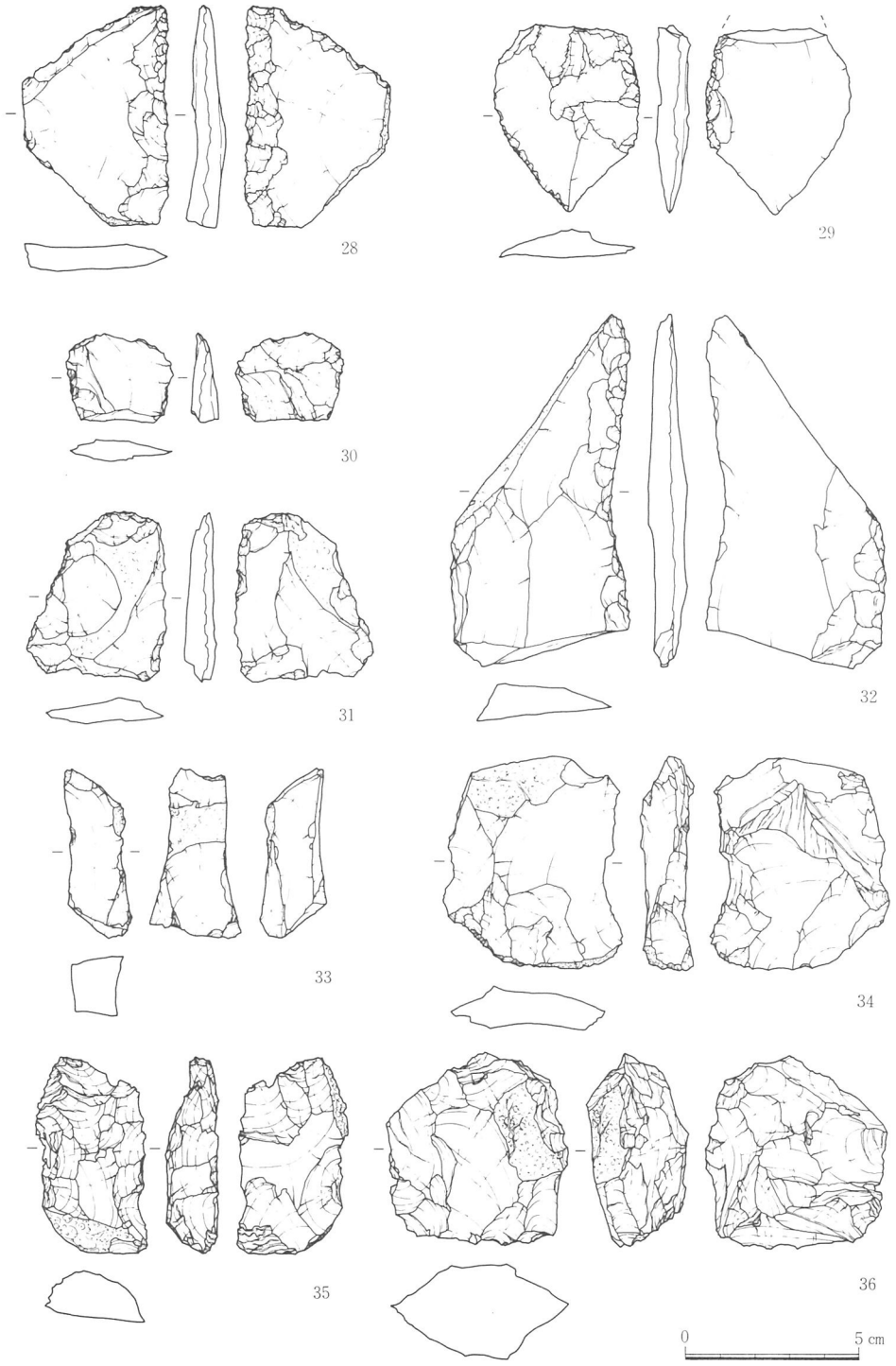
第４図　包含層出土遺物１（1/3）



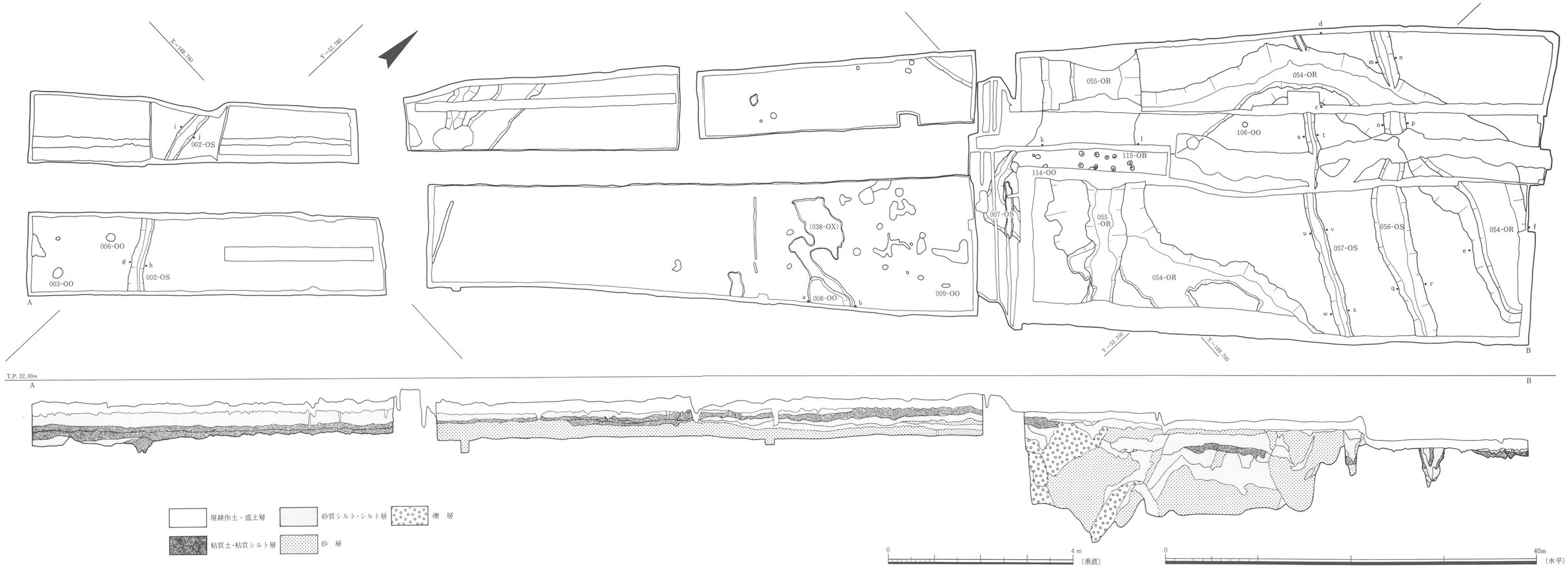
第５図　包含層出土遺物２（1/3）



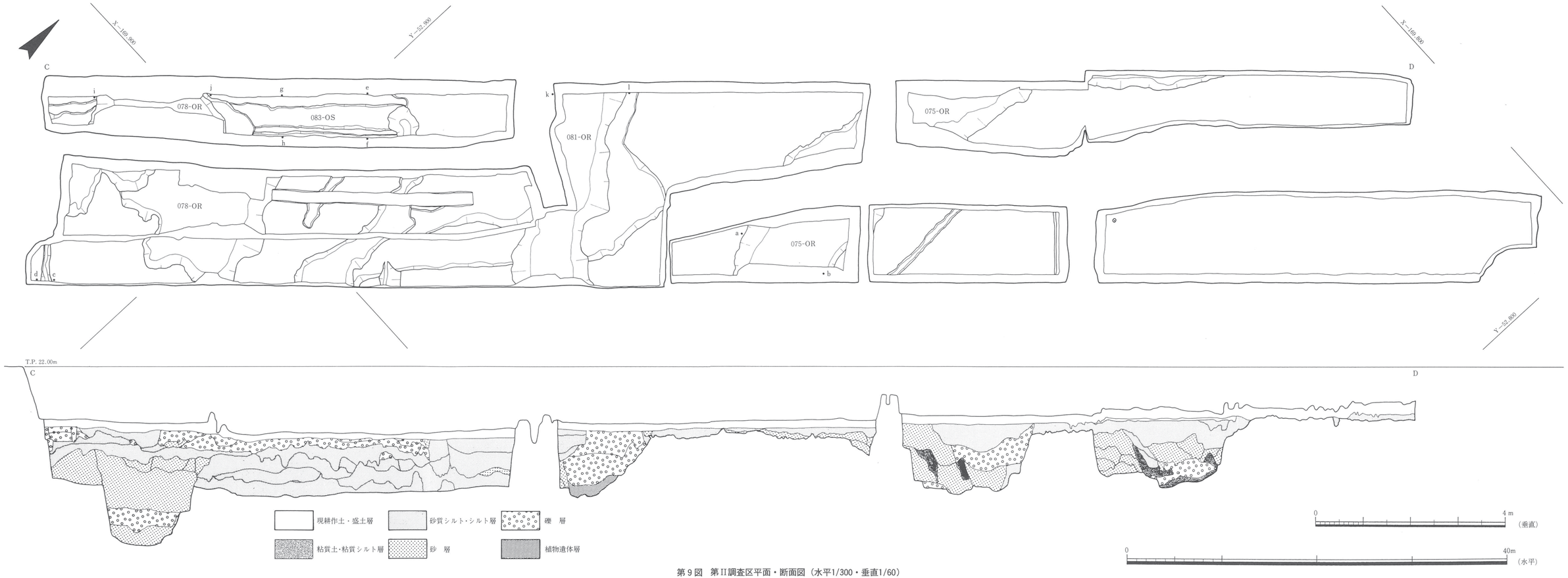
第６図　包含層出土遺物３（1/4・1/2）



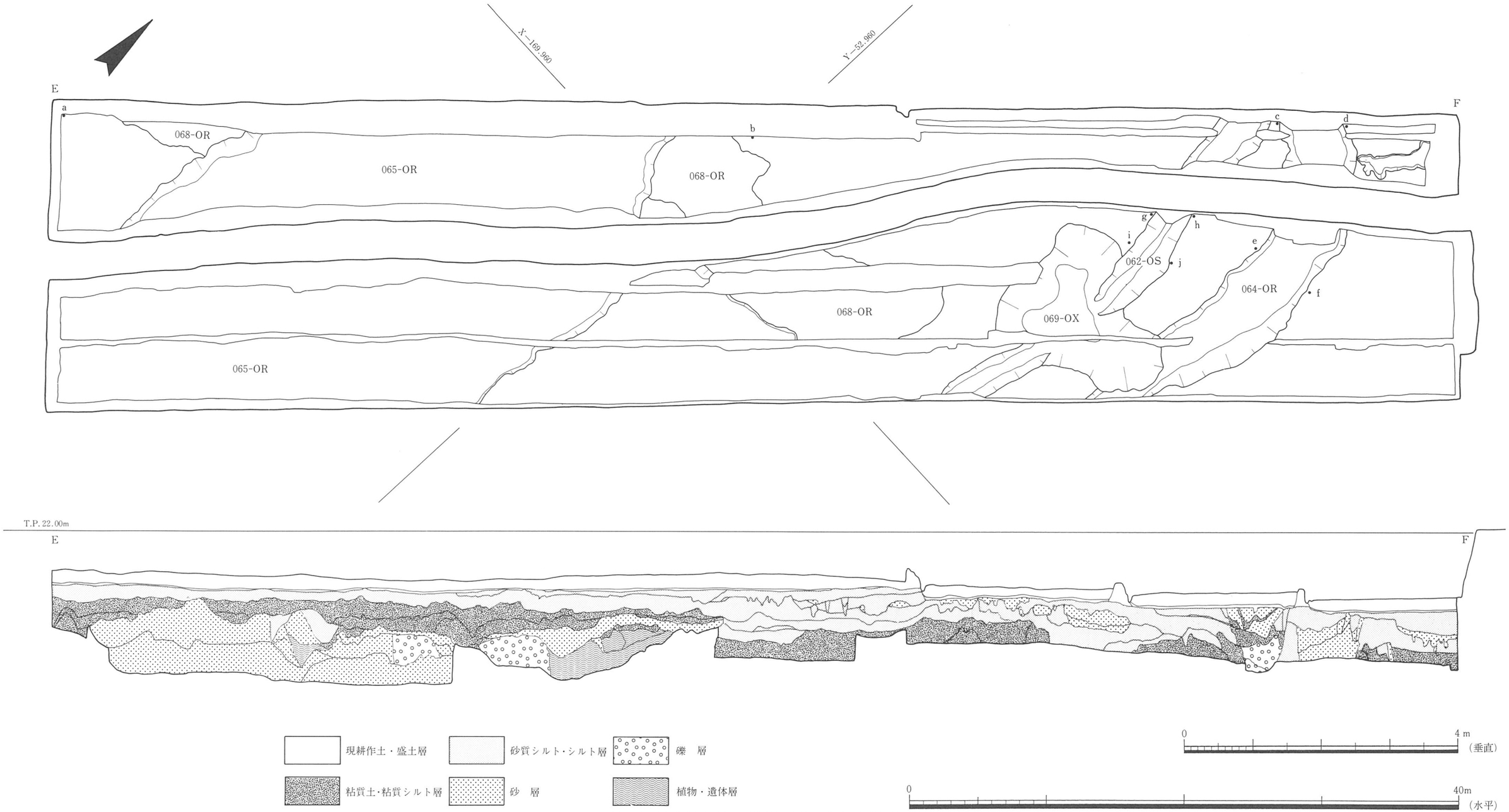
第７図　包含層出土遺物４（1/2）



第8図　第Ⅰ調査区平面・断面図（水平1/300、垂直1/60）



第９図　第Ⅱ調査区平面・断面図（水平1/300・垂直1/60）



第10図　第Ⅲ調査区平面・断面図（水平1/300、垂直1/60）

施している。中期前半の土器である。

1～6・8・9・11・13～17は第Ⅲ調査区の出土で後期および晩期の土器である。1は太い縄紋を施す明褐色の土器で、横方向の太い沈線紋を持つ口縁部とともにやや古い様相を持っている。15～17は細い縄紋を施す。15の縄紋は乾いた器面に浅く施されているもので、前期に属する可能性も持っている。3・11・17は金雲母を顕著に含み、河内系の土器である可能性がある。

弥生土器では第4層の存在から中期の遺物が後期の遺物より多くみられる。前期の遺物は認められない。量的には小量である。

古墳時代の遺物はあまり多く存在しない。特に前期の土師器は認められず、中、後期の須恵器も多くは認められない。

奈良平安時代の遺物も多くは存在しない。

包含層出土遺物の大半が中世に属する遺物である。なかでも瓦器椀・皿が目立って多い。瓦器椀の中でも内面の全体にヘラミガキを施したものや斜格子状のヘラミガキを施したものより、平行線状のものや螺旋状のヘラミガキを施したものの方が多くみられる。各種の羽釜や鉢も多くみられる。

包含層出土石器　包含層から石器および剝片等を多数検出した。旧石器時代に属するとみられるものは認められない。その多くは縄紋時代の所産と考えられる。サヌカイト製石器、剝片は第Ⅰ－b・e区に比較的多くみられた。

19～21は石庖丁である。19・20は直線刃半月型である。ともに片刃である。21は刃部を欠損するが、前2者と同型と思われる。

22～25は石鏃である。22・23は二等辺三角形状の平面を呈する凹基式の石鏃である。両側縁部は、22がやや外湾し、23がやや内湾する。23は剝離面の磨滅が著しい。24は基部の調整がしっかりしていないため未製品の可能性がある。25は積極的には肯定できないものの未製品の可能性を考慮しておく。

28はスクレイパーである。横長剝片を素材とした、台形状の平面形を呈するスクレイパーである。刃部は両面調整でやや内湾気味である。

27・29～32は二次調整のある剝片である。29は左面左側縁部に使用痕が認められる。31は両面に自然面を残す。27は石鏃、32はスクレイパーの未製品の可能性も考えられる。

33～36は石核である。34・35・36は自然面を残す。　（藤田・橋本・虎間）

第2節　第Ⅰ調査区の調査成果

第1項　概　　要

第1調査区はさらに大きく6区に分けて調査を実施した。調査区の呼称は第1図に示す通りである。

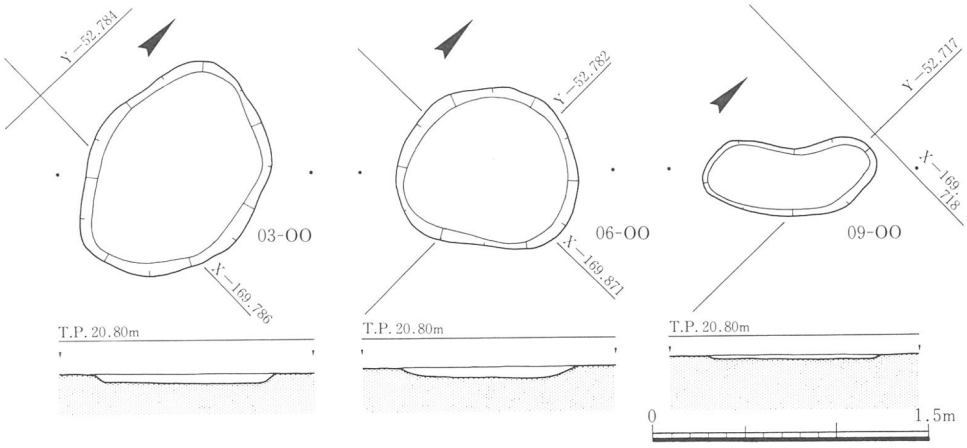
縄紋・弥生時代の遺構はb区の西側やe区の東側において円形や不定形を呈する土坑状の遺構を検出した。しかしe区におけるそれらの中には不定形で掘形が明瞭でなく遺物を含んでいないものも有り、樹根の痕跡とみられるものも存在する。

弥生時代の遺構はb区において溝を、f区においては自然河川を検出した。f区の自然河川は古墳時代前期のものを含め3条を検出した。当初は2条の重複する自然河川という認識のもとに掘削を進めていたが途中、埋土や遺物内容の変化、断面土層の観察から3条の自然河川が重複していることが判明した。そのため遺物の取り上げに一部混同がみられた。今回の報告に際し、出土地点や遺物の時期等を考慮し遺構間の調整を計った。以下次の通りである。弥生時代後期前半の自然河川を054－OR、弥生時代後期後半の自然河川を055－OR、古墳時代前期の自然河川を058－ORとした。

古墳時代の遺構はf区においてのみみられた。掘立柱建物、溝、土坑、自然河川を検出した。　　（虎間）

第2項　遺構各説

003・006・009－OO（第11・12図、図版28）



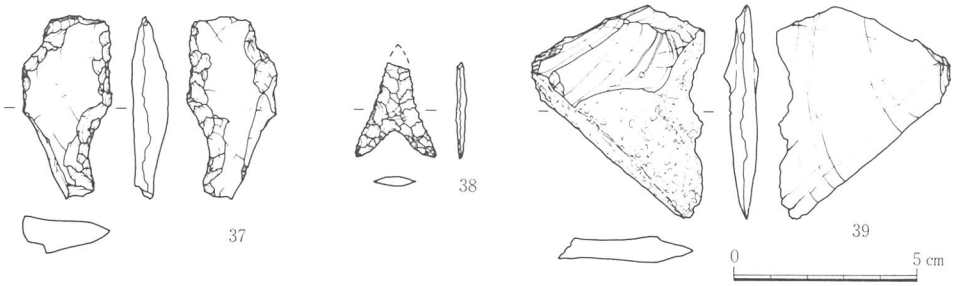
第11図　003・006・009－OO平面・断面図（1/40）

003・006－OOはｂ区、009－OOはｅ区においてそれぞれ検出した土坑である。

いずれも１ｍ前後の円形もしくは不整円形を呈し、深さは0.1ｍを測る。埋土は灰黄褐色砂混じりシルトである。サヌカイト製の石器や剥片を検出した。

37は003－OO出土のサヌカイト製のスクレイパーである。横長剥片を素材として、刃部は交互剥離である。

これらの土坑は、出土遺物から縄紋時代もしくは弥生時代に比定されるものと考えられる。しかし遺構の深さが0.1ｍと浅いことから、微地形やレンズ状の溜り等の自然的な痕跡である可能性も考えられる。



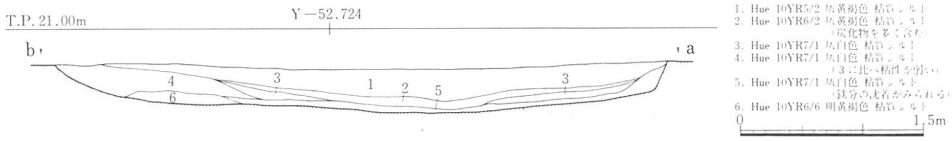
第12図　003・008－OO出土遺物（1/2）

008－OO（第12・13図、図版３）

008－OOはｅ区、C13GS周辺において検出した土坑である。不定形な平面形を呈し一部は調査区外に延びている。検出長11.3ｍ、深さ約0.35ｍを測る。検出当初は008－OOと038－OXの別の遺構としていたが、掘削時の観察により同一遺構内の堆積と認識した。埋土は主に灰黄褐色系の砂質シルトである。埋土には炭化物を多く含み、遺構の最深部には葦科の植物遺体が堆積していた。埋土中よりサヌカイト製石鏃や剥片を検出した。

38はサヌカイト製の石鏃である。二等辺三角形状の平面形を呈し、凹基式である。両側縁部はやや内湾し、細かい押圧剥離が施されている。39はサヌカイトの横長剥片である。

出土遺物より縄紋時代もしくは弥生時代に比定されるものと考えられる。



第13図　008－OO断面土層図（1/60）

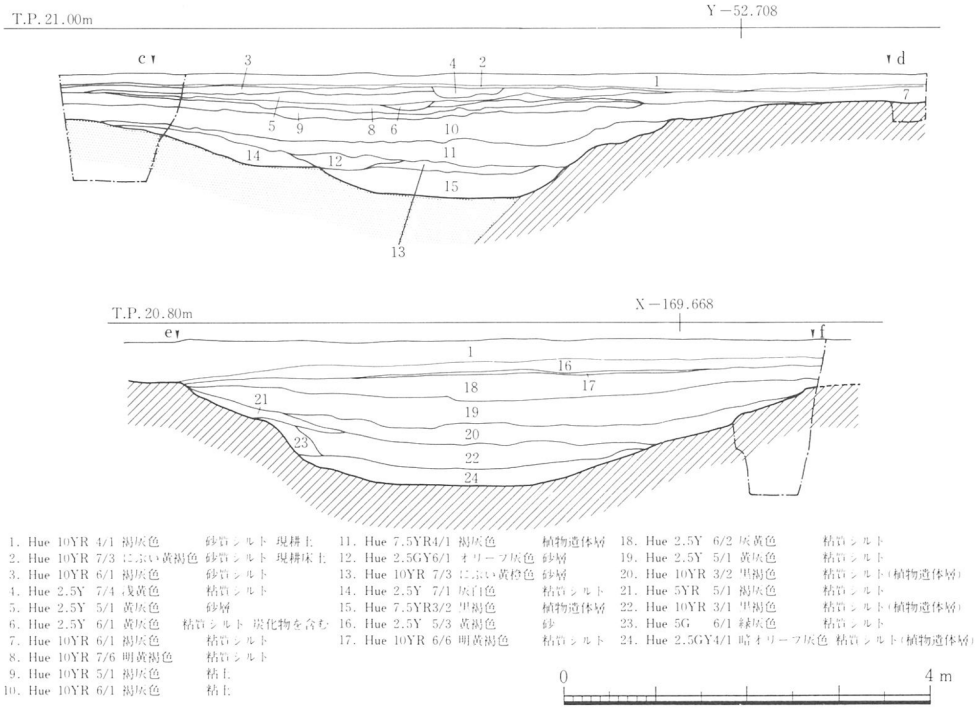
054－OR（第14・15図、図版４・12・21・28）

054－ORはｆ区において検出した自然河川である。幅は5.7～7.0ｍを測り、走行方向はｅ区の東端から西端にかけて「Ｃ」の字状に大きく蛇行している。深さは最深部でおよそ1.6ｍを測る。埋土は大きく２～３層に分かれる。上層は黄灰色系の砂質シルト、中層は植物の種子や葉の堆積、下層は砂層あるいは植物遺体を含む暗灰色系の粘質土である。堆積状況から長期間の流水とともに徐々に堆積したものとみられる。

054－ORは055－OR、058－ORと一部重複しているが、検出状況から054－ORが最も古く、055－OR、058－ORの順と考えられる。

遺物は僅かであるが検出した。40は壺である。口縁部端面に２条の波状紋とその間に角度の狭い扇形紋を配している。弥生時代中期の所産。41は甕である。埋土最上層からの出土である。口縁部は受口状を呈し、体部外面に粗いタタキを施す。暗褐色を呈し、胎土に雲母が観察されることから河内地方からの搬入品とみられる。弥生時代後期前葉の所産。

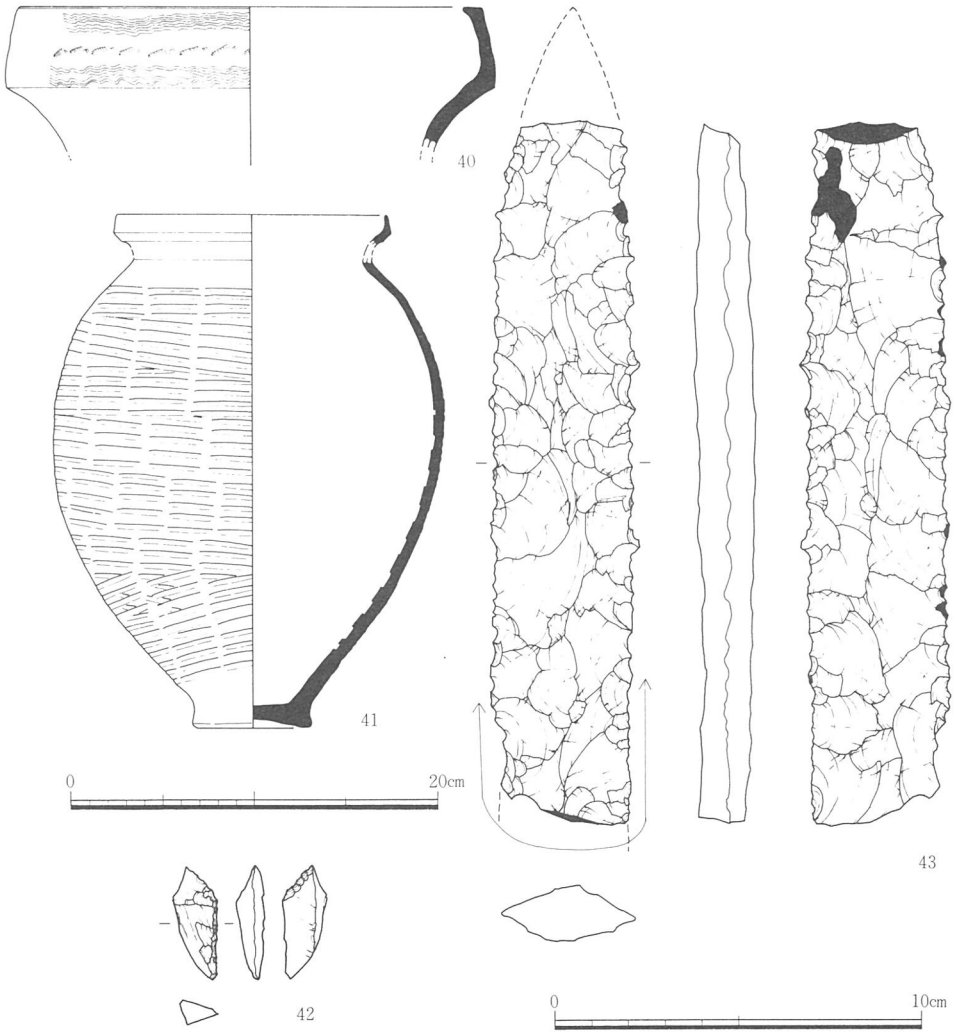
43はサヌカイト製の打製石剣である。現存長19.1㎝、最大幅3.8㎝、厚さ1.5㎝、重量147.6ｇ。先端部を欠損する。両側縁部より比較的大きな剝離面を形成しながら形を整え



第14図　054－OR断面土層図（1/80）

た後、細かい剝離調整を施して刃部を整形している。基部より切先部に向かって長さ4.0㎝の両側縁部には刃が作られていないことから、この部分が柄の装着部分にあたるものと思われる。（矢印の範囲）。刃部は左面右側縁部の凹凸が顕著で鋸歯状を呈している。両面とも縞がとおり、断面は菱形となる。弥生時代中期の所産と考えられる。42はサヌカイト製の刃器である。剣菱形の平面形を呈し、左面右側縁部に刃部を有する。刃部は片面調整で上半部と下半部で剝離調整の方向が異なっている。

054－ORは出土遺物から弥生時代中期に比定される。そして後期前葉にかけて、徐々に埋没したと推測される。（橋本・虎間）



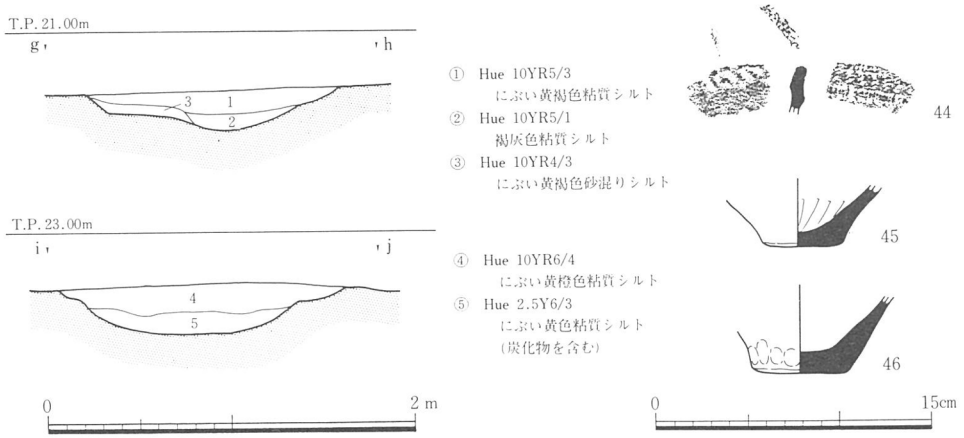
第15図　054－OR出土遺物（1/4・1/2）

002－OS（第16図、図版３）

002－OSはａ・ｂ区において検出した溝である。やや弧を描くように南から北に向かい走行する。幅約1.5m、深さ約0.3mを測る。埋土は主に黄褐色系の粘質土で、炭化物を含む。

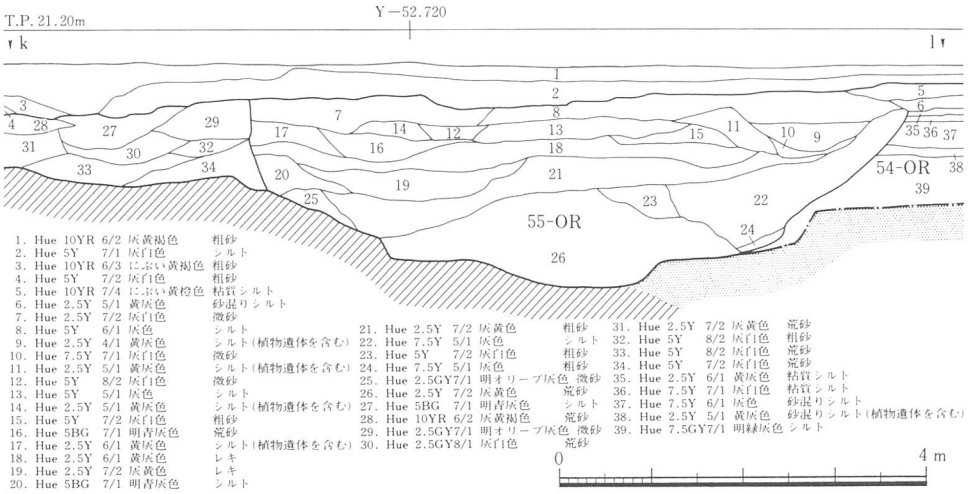
縄紋土器・弥生土器を検出した。44は縄紋時代中期初頭の深鉢の口縁部である。45・46は弥生時代後期の底部片である。図示できなかった遺物の中にはタタキを施した甕の体部片がある。

002－OSは出土遺物から弥生時代後期に比定される。

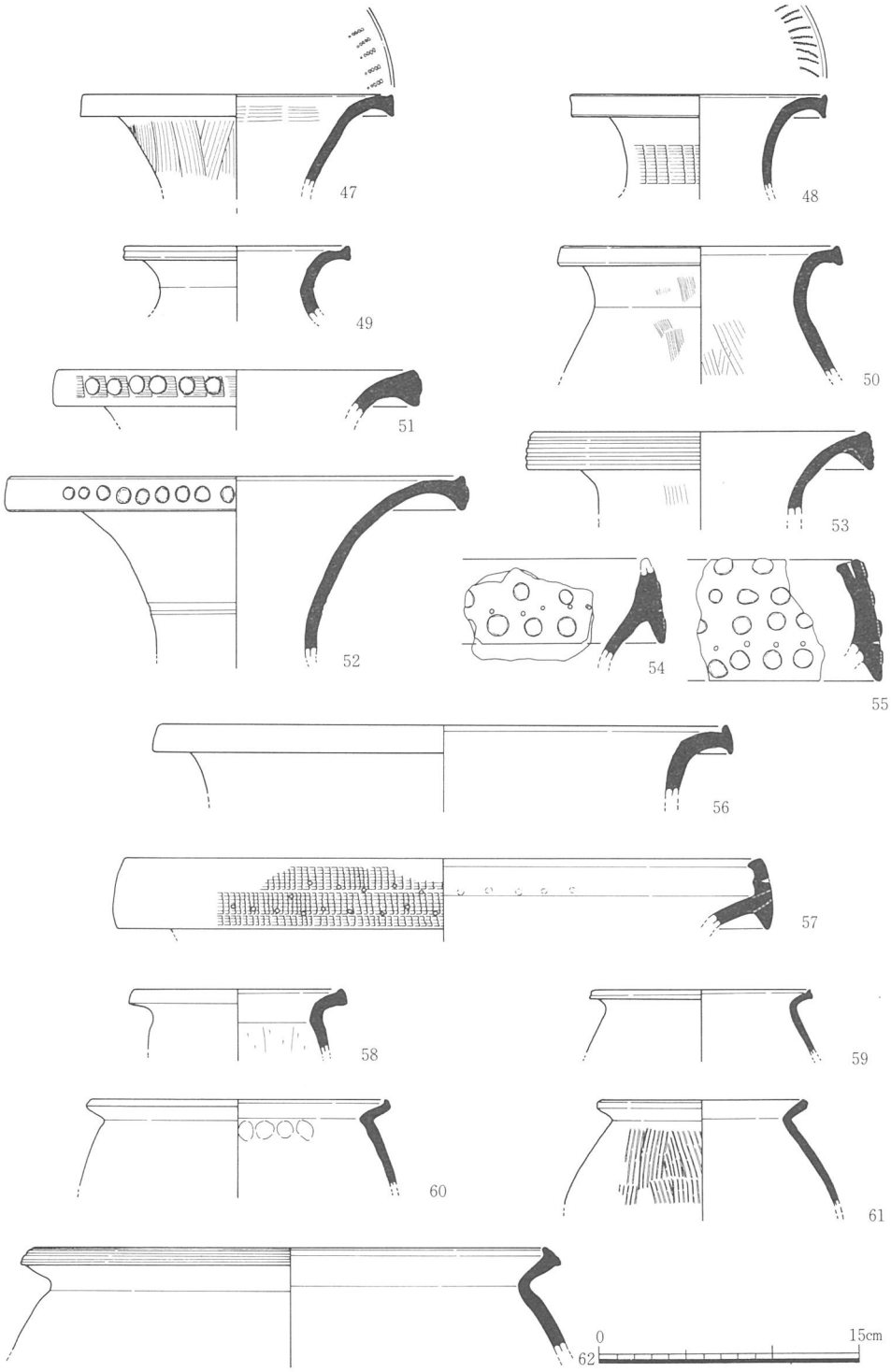


第16図　002－OS断面土層図（1/40）・出土遺物（1/4）

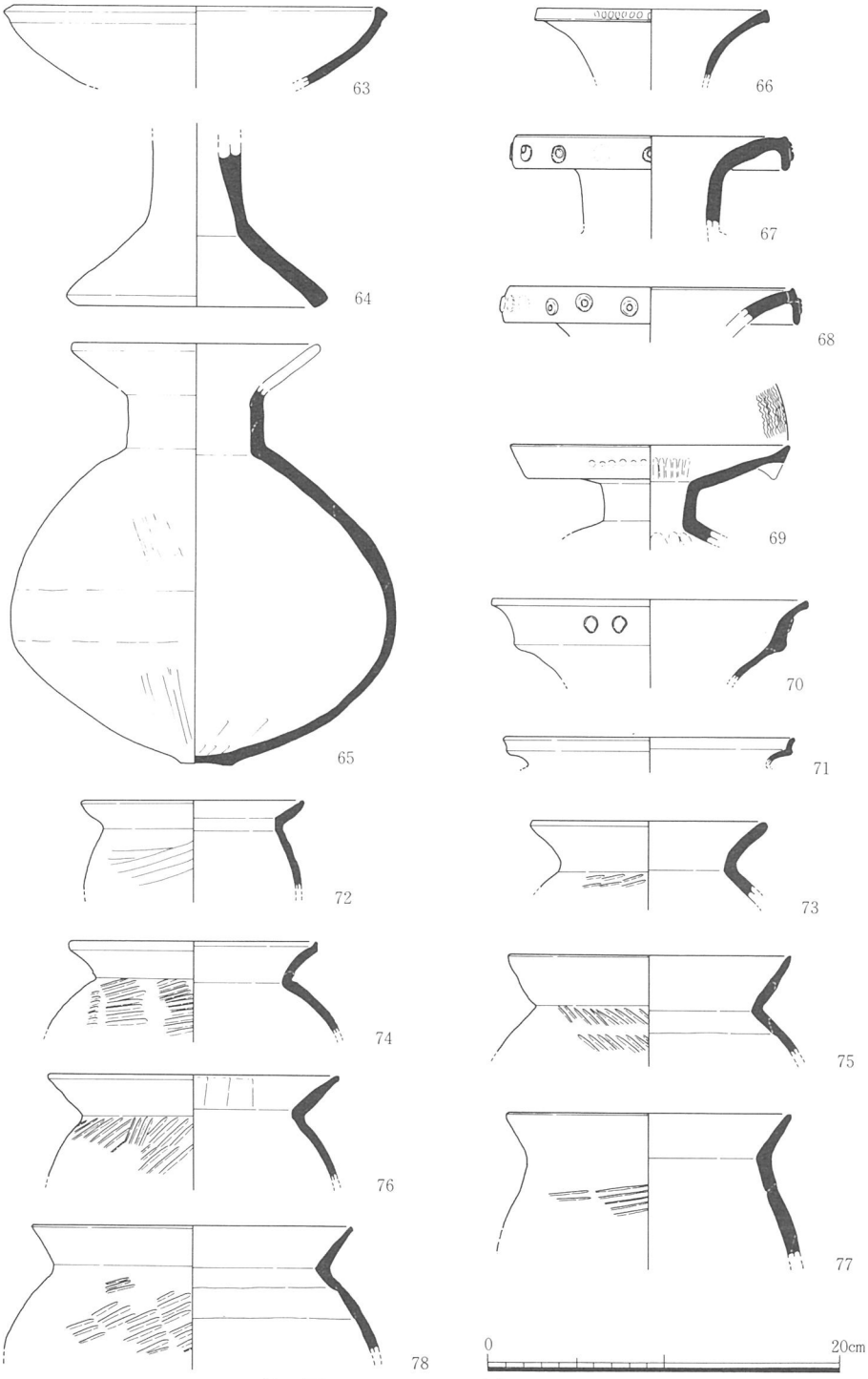
055－OR（第17～21図、図版４・21・29）



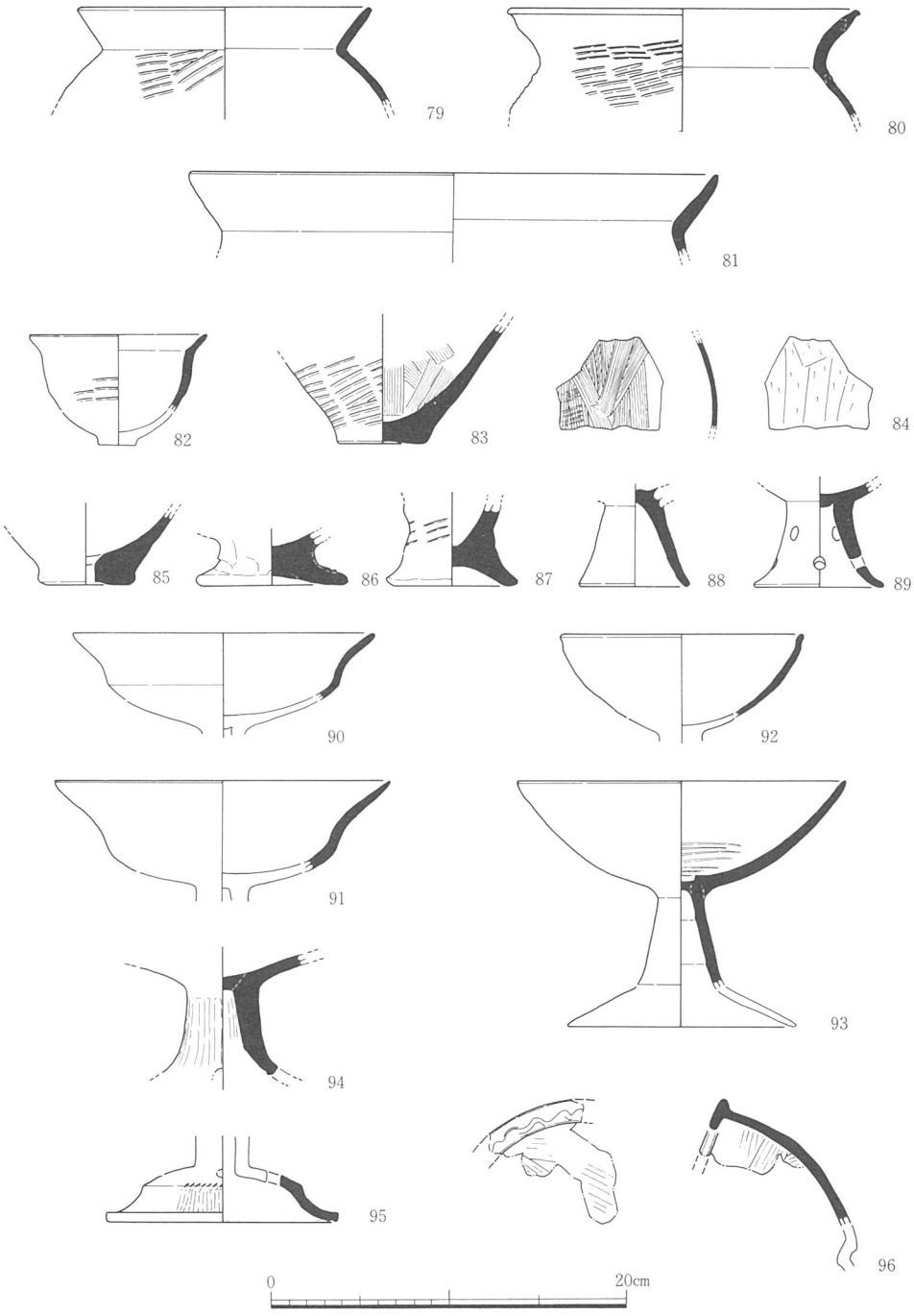
第17図　055－OR断面土層図（1/80）



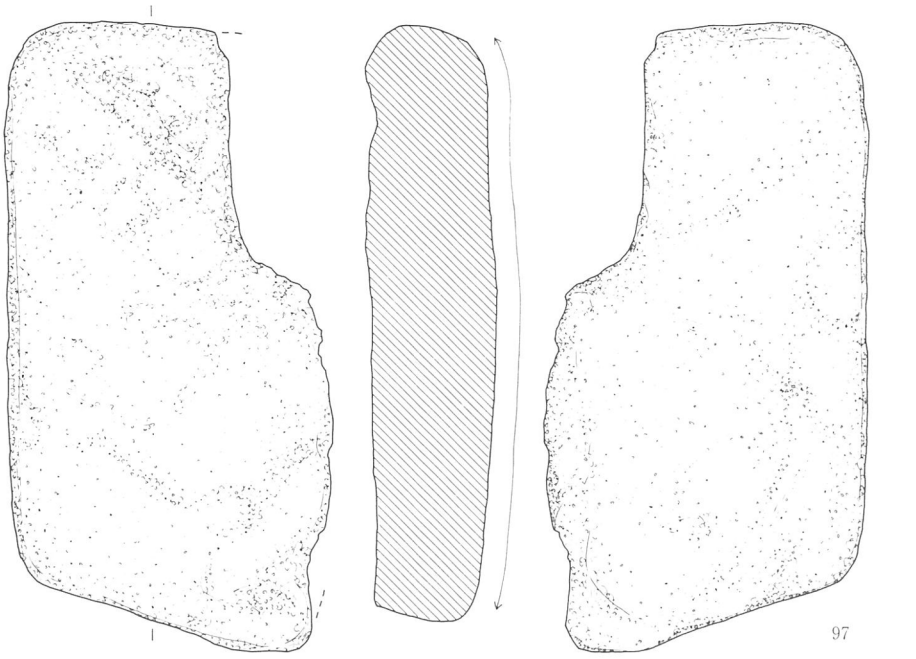
第18図　055－OR出土遺物１（1/4）

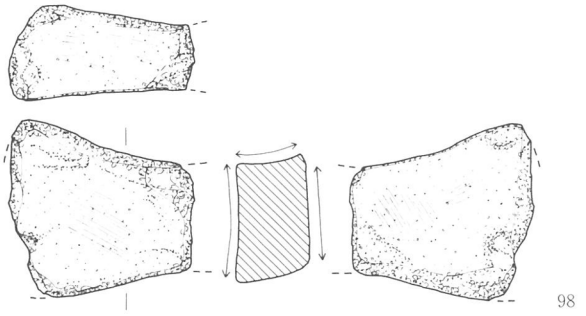


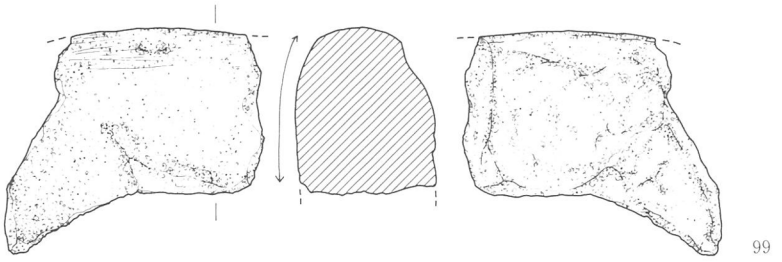
第19図　055－OR出土遺物２（1/4）



第20図　055－OR出土遺物３（1/4）







第21図　054・055－OR出土遺物（1/4）

055－ORはｆ区の西半部において調査区を横断するかたちで検出した自然河川である。幅約10.1m、深さ約2.2mを測る。埋土はその大部分が礫と砂からなり、状況から短時間に埋没したとみられる。上層は後に058－ORによって削られている。遺物を多量に検出した。

47～64は弥生時代中期の遺物である。

65～96は弥生時代後期末葉の遺物である。65～70は壺である。65は口縁部を欠損している。頸部は短く直立しており、体部は下膨れ状の球形を呈し、底部は小さくやや上げ底を呈しほとんど突出していない。体部の外面調整は上半部にはハケの後ナデを施し、下半部には縦方向のヘラミガキを施すが、ハケ調整の痕や接合痕が認められる等粗雑な仕上がりとなっている。内面調整は板状工具によるナデとみられ、底部内面にはいわゆる「くもの巣状ハケ」の痕が観察される。67・68は口縁部を垂下させ円形竹管浮紋を施している。

71～80・83・84は甕である。72～80・83は体部外面にやや粗いタタキを施している。84は庄内型甕の破片である。体部外面に細かいタタキを施した後ハケ調整を行う。内面にヘラケズリを施すことにより器壁を極めて薄く仕上げている。この他にも数例認められる。

81・82・85は鉢である。86・87は製塩土器の脚部とみられる。ともに粗雑な作りである。88は甕か鉢の脚部とみられる。

89～95高杯である。95は装飾性の強い高杯の脚部とみられる。

96は手焙形土器の蔽部とみられる破片である。蔽部端部を上下に拡張し面を作り波状紋を施す。内面に粗いハケあるいは板ナデを施す。

97は石皿である。Ｂ面と側面に使用痕が認められる。

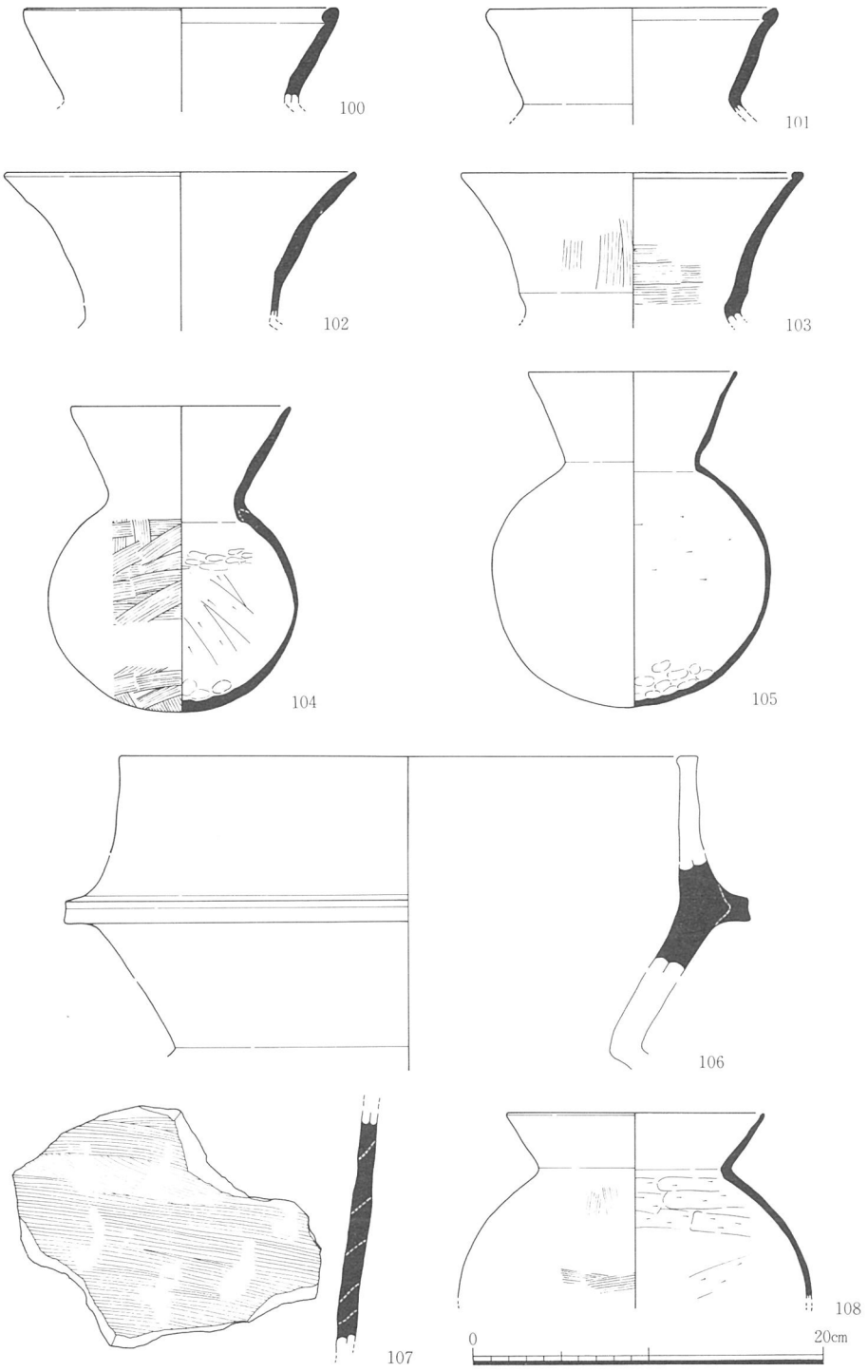
出土遺物には弥生時代中期のものが多く含まれているが、後期前葉に堆積を終える054－ORより新しいことや堆積が急激であったと考えられること、そして同一層に中期の遺物と後期後葉（庄内期）の遺物が混在していたことから、055－ORは後期後葉（庄内期）に流水が起こり、短期間の内に埋没したと推測される。

058－OR（第22～25図、図版５・21・22）

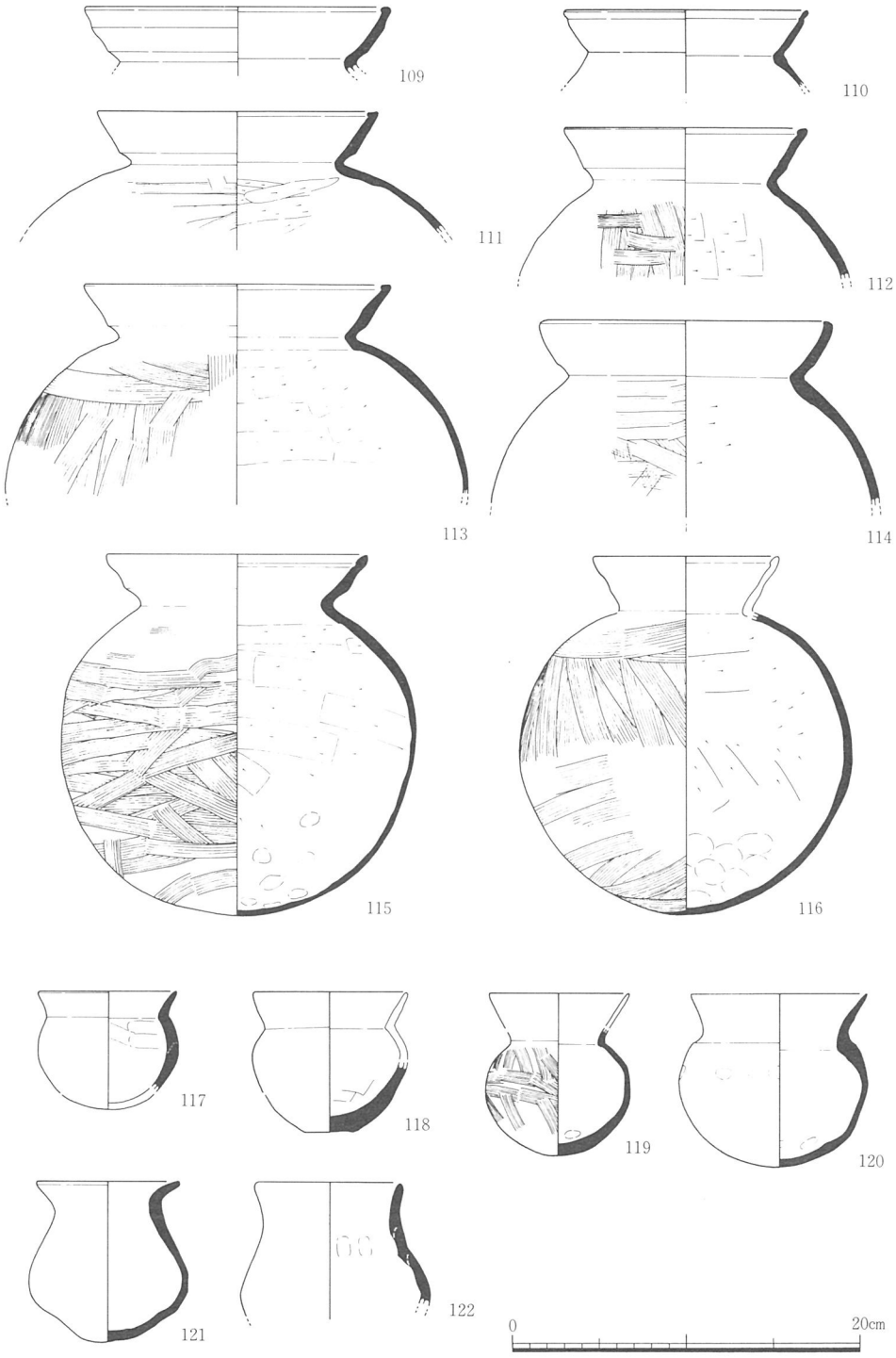
058－ORはｆ区西半部において検出した。遺構の明確な肩は検出されず、埋没時にあふれ出たとみられる砂が広範囲に渡って確認された。特に北側においては不明瞭で、砂の範囲をもって肩としている。幅10mを越えるものとみられる。深さはおよそ0.7mを測る。埋土はそのほとんどが砂からなる。

054－ORと055－ORの上層を切って流れたことが認められる。

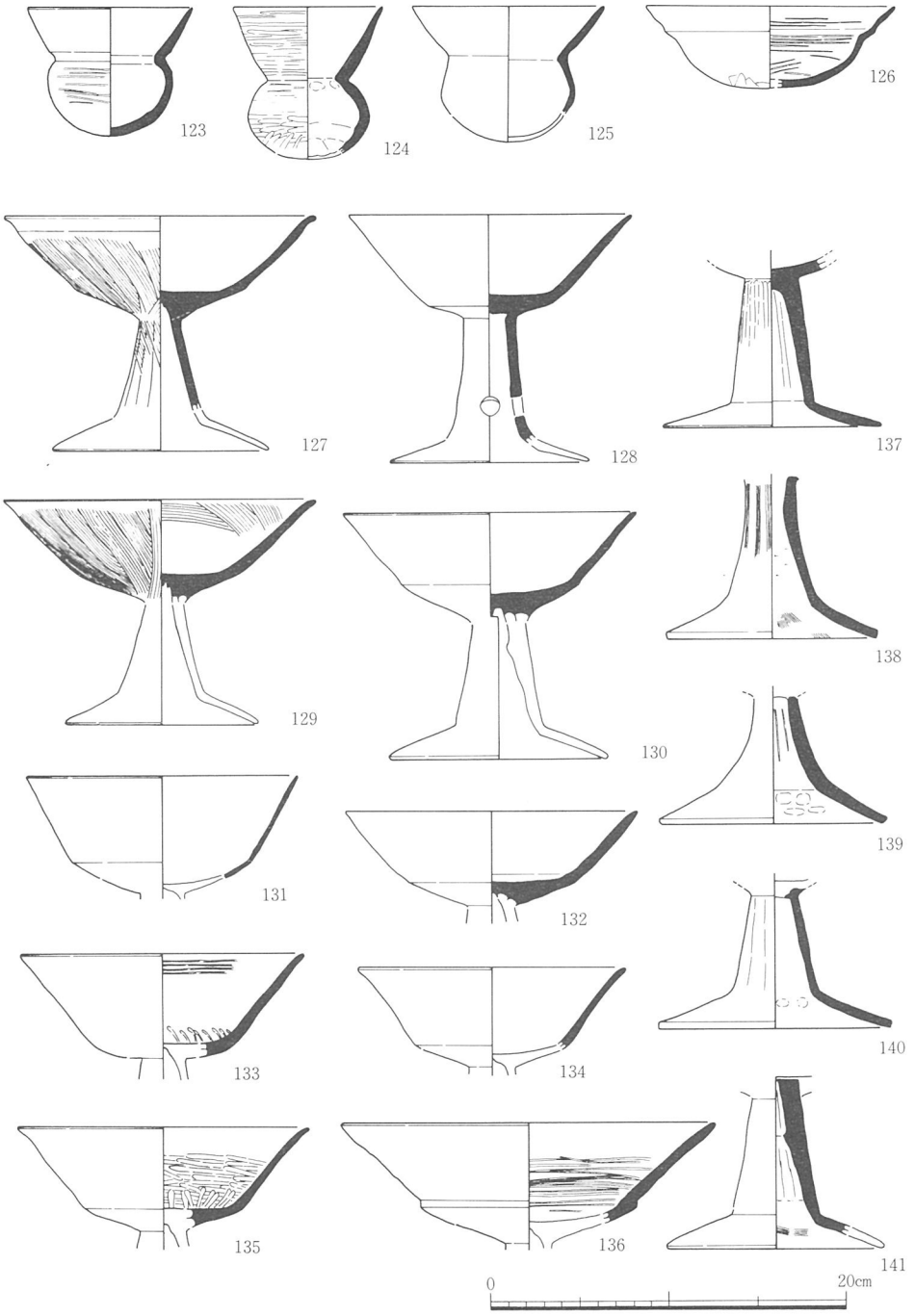
土師器および弥生土器を多量に検出した。



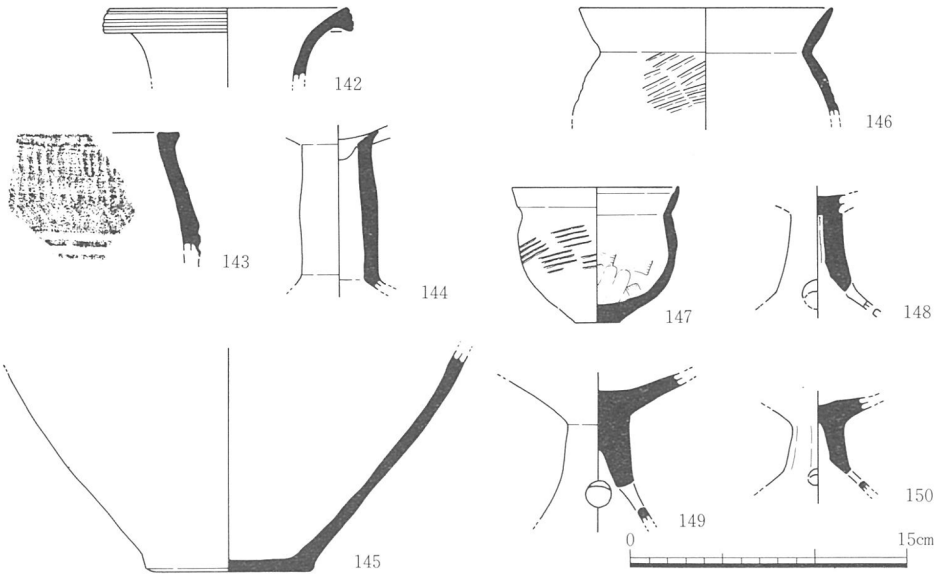
第22図　058－OR出土遺物１（1/4）



第23図　058－OR出土遺物２（1/4）



第24図　058－OR出土遺物３（1/4）



第25図　058－OR出土遺物４（1/4）

100～107は壺である。104、口縁部は直線的に開き端部を丸く仕上げている。体部はやや偏平な球形を呈する。器壁の厚さは総じて厚く体部に比べ底部を厚く作っている。体部外面にハケを施す。肩部内面に幅の狭いヘラケズリを横方向に施し、体部内面には縦方向のヘラケズリを施している。底部内面に指頭圧痕が認められる。105、口縁部はやや外反気味に開く。体部はほぼ球形を呈する。器壁を薄く作っている。106と107は同一個体と考えられる。大型の二重口縁壺とみられ、口縁部と二重口縁部の接合部外面に凸帯を巡らせている。器壁は厚く体部の破片とみられる107においては１㎝を越えている。胎土には砂粒を多く含み、灰白色を呈する。在地系のそれとは異なるものと思われる。

108～116は甕である。115、口縁部をやや内湾させ、口縁端部を肥厚させ丸く仕上げている。体部はほぼ球形を呈する。体部外面には主に横方向のハケを施し、内面にはヘラケズリを施す。底部内面に指頭圧痕が認められる。

117～122は小型の壺である。118、底部はやや上げ底状を呈している。121、口縁部は大きく開き、体部は下膨れ状を呈する。123～126は小型丸底鉢である。いずれの胎土も緻密で、焼成は良好である。外面および口縁部の内面にヘラミガキを施したものとみられる。

127～141は高杯である。127、杯部は直線的に開くが口縁部に強くナデを施すことによりやや外反させている。杯部および脚部にハケを施す。杯部内面には認められない。128、

脚部は筒状を呈し余り開かない。脚柱部にスカシが認められるがその数は不明である。

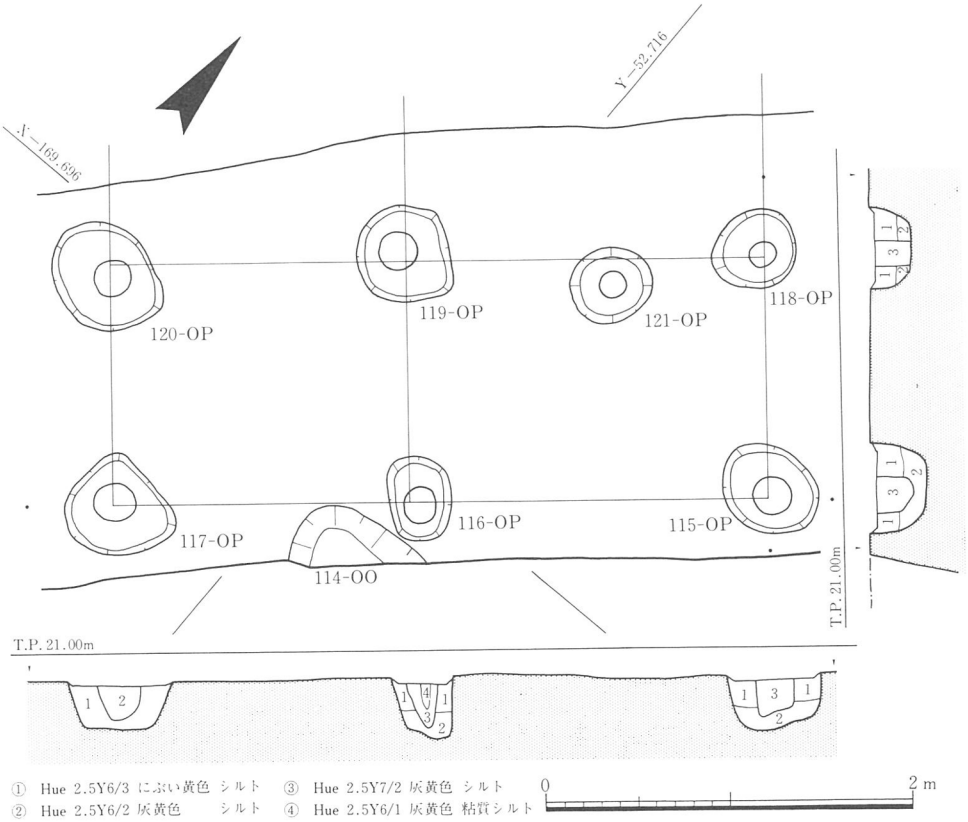
142～151は弥生土器である。

058－ORは出土遺物から古墳時代前期に比定される。

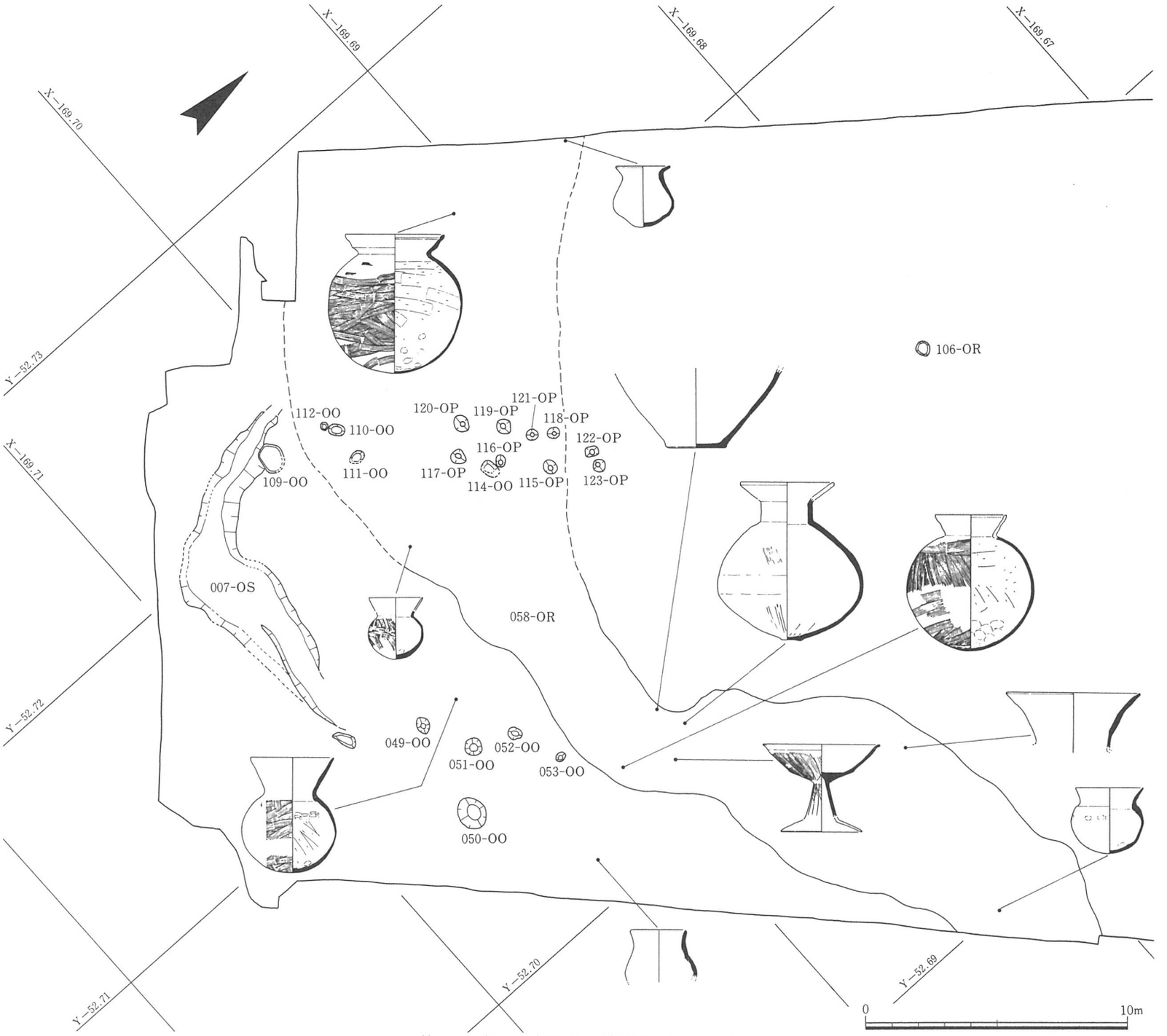
115－OB（第26図、図版６）

115－OBはｆ区において検出した掘立柱建物である。北側に現水路が走り検出できたのは２間×１間分だけである。総柱の建物とみられ、北側に延びるものと考えられる。柱間は東西方向が1.6～2.0m、南北方向がやや狭く1.3mとばらつきをみせる。主軸方向は北から西に約40度振っている。掘形の平面形は隅丸方形あるいは円形を呈する。掘形の一辺ないし径は60㎝を測る。各々の掘形において柱痕跡を確認した。柱痕跡径は約20㎝である。埋土はおおよそにぶい黄灰色系のシルトと灰黄色系のシルトの２層からなる。

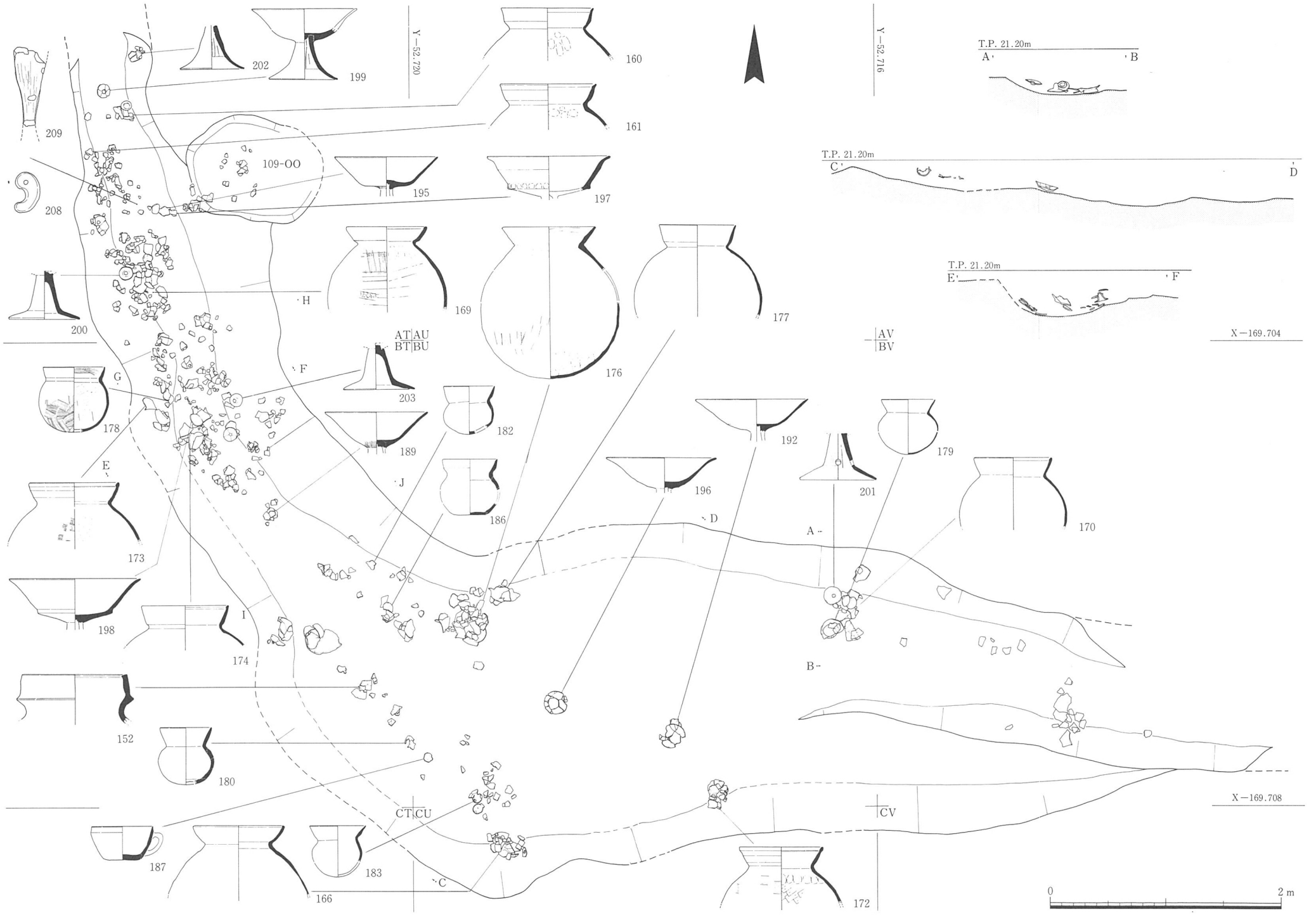
遺物は検出できなかった。そのため時期を比定し難いが周辺の遺構の状況から古墳時代前期から中期にかけてのものと考えておきたい。



第26図　115－OB平面・断面図（1/40）



第27図　第Ⅲ調査区上層遺構平面図（1/200）



第28図　007－OS平面・遺物出土状況図（1/40）

007－OS（第29～34図、図版７・８・22・23・28）

007－OSはｆ区の西側Ｃ13BT付近で検出した溝である。検出長約10m、幅0.8～3.6m、深さ約0.4mを測る。平面形は「Ｃ」字状に大きく弧をえがいている。本来の深さは不明であるが削平を受けその最深部分のみが残ったとみられ、遺構の端部は本来それぞれ延長されるものと考えられる。断面形は立ち上がりの緩やかな「Ｕ」字形を呈する。

埋土は大きく２層に分かれ、上層は灰白色系の砂質シルト、下層は黄灰色系の粘質シルトである。ともに炭化物を多く含んでいる。

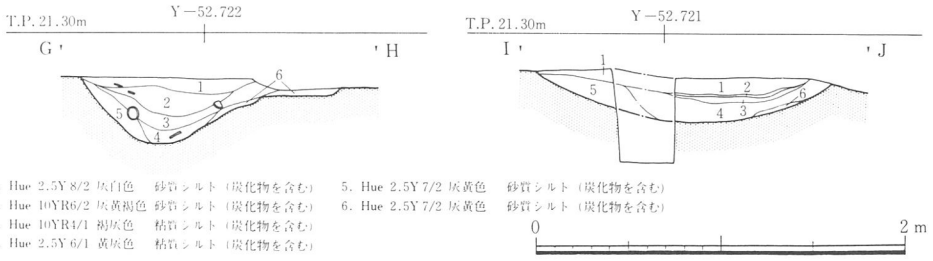
遺物は底面より重なった状態で検出した。遺物の分布には偏りがみられる。Ｃ13AT・BTに多く固まっていた。Ｘ－169.7028km、Ｙ－52.7223kmの地点から砥石と勾玉が出土した。勾玉は砥石の直下からの出土であった。

多数の土師器と石製品を検出した。須恵器は認められなかった。土師器はおよそ120個体に及ぶものと推測される。その内訳はおおよそ甕が55%、壺と高杯がそれぞれ15%前後、小型丸底壺（鉢）が10%前後となっている。器台は認められなかった。遺物の遺存状態は悪くほぼ完形の状態で検出したにも関わらず復元し得なかったものもある。

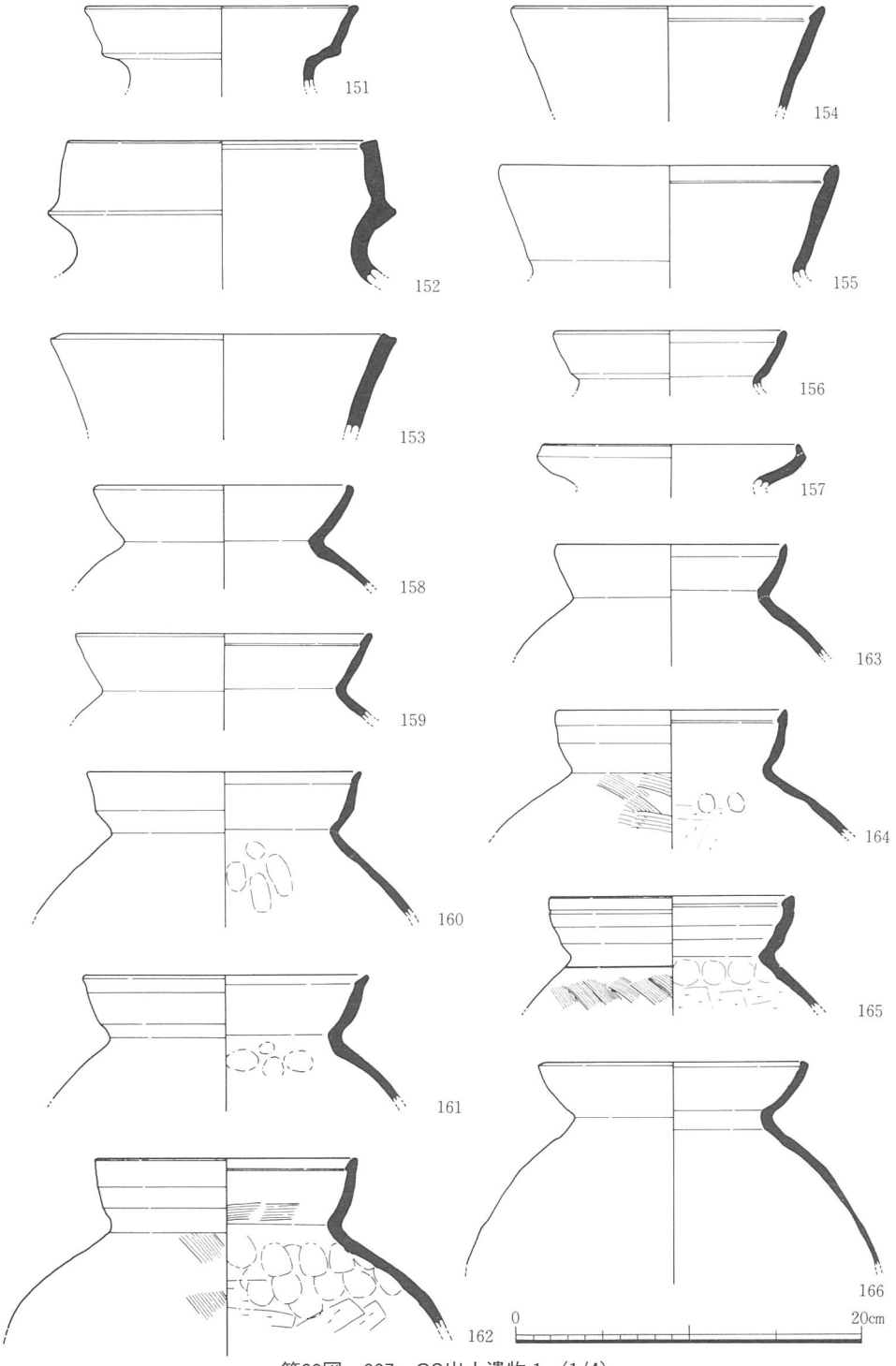
151～155は壺である。151・152は二重口縁壺である。151は二重口縁部が外傾するのに対し152のそれは内傾させている。いずれも二重口縁部の接合部は明瞭な稜線をなしている。

156～177は甕である。176はほぼ完形である。口縁部は直線的に開き端部を丸く仕上げる。体部はやや下膨れ状を呈する球形である。口縁部内面に横方向のハケを施す。外面の調整は不明瞭であるが、肩部に横方向のハケを体部下半には縦方向のハケが認められる。

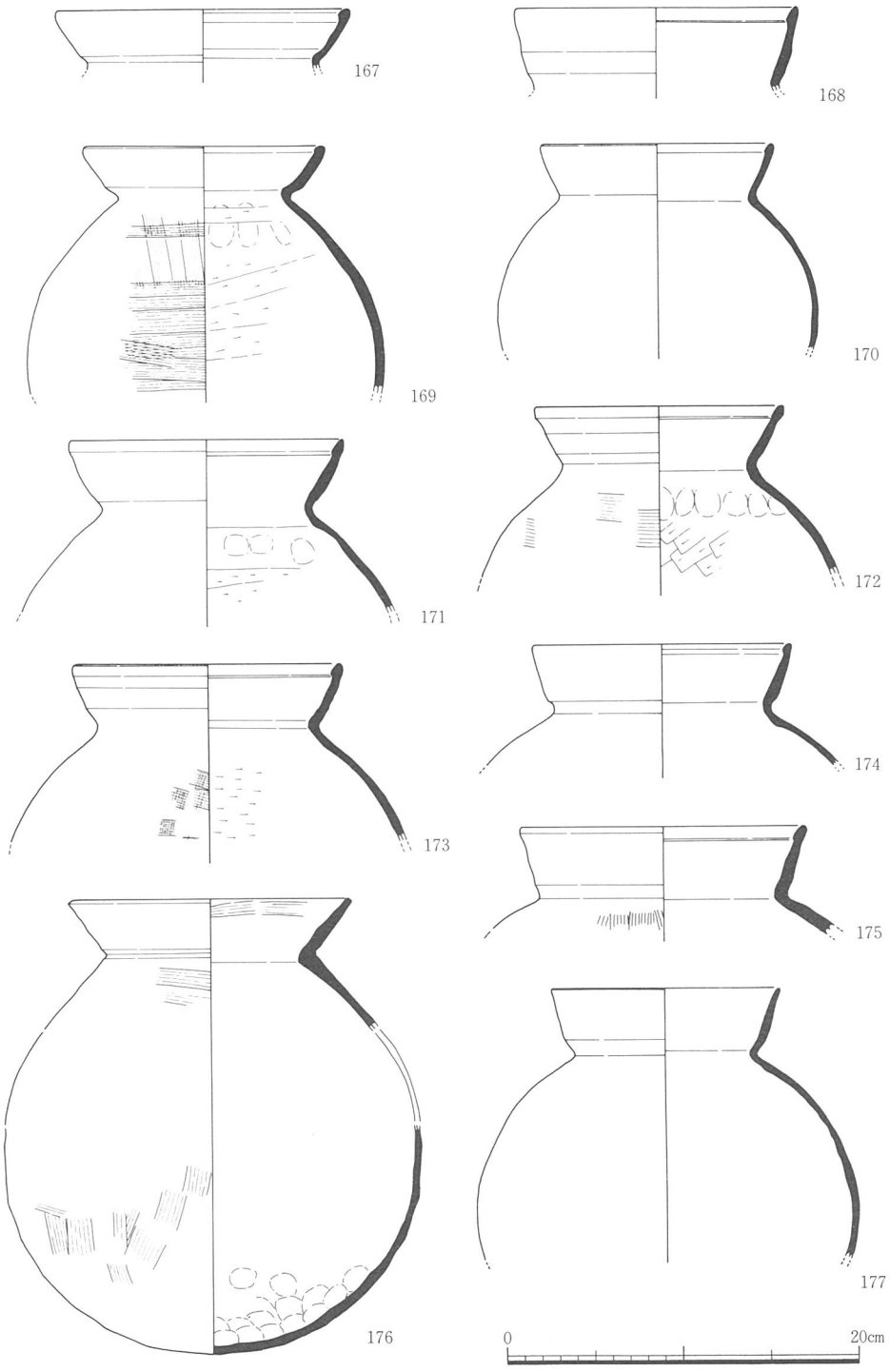
178～186は小型の壺（鉢）である。178は丸底の壺である。口縁部は短く内湾気味に立ち上がり、内面に横方向のハケを施す。体部はほぼ球形を呈し外面には細かいハケを、内面にはヘラケズリを施している。186は平底の壺である。円形の粘土板に体部を接合し成形したものとみられる。口縁部はやや受口状を呈する。



第29図　007－OS断面土層図（1/40）



第30図　007－OS出土遺物１（1/4）



第31図　007－OS出土遺物２（1/4）

187は把手付の椀とみられる。円形の粘土板に体部を接合し成形したものと思われる。底面には粘土板を轆轤に固定するための突起痕（ゲタ痕跡）が方形に認められる。体部外面に把手を接合したとみられる円形の痕跡が観察される。二次焼成を受けたとみられ器壁が赤変し、もろくなっている。韓式系土器の範疇に含まれるものと考えられる。

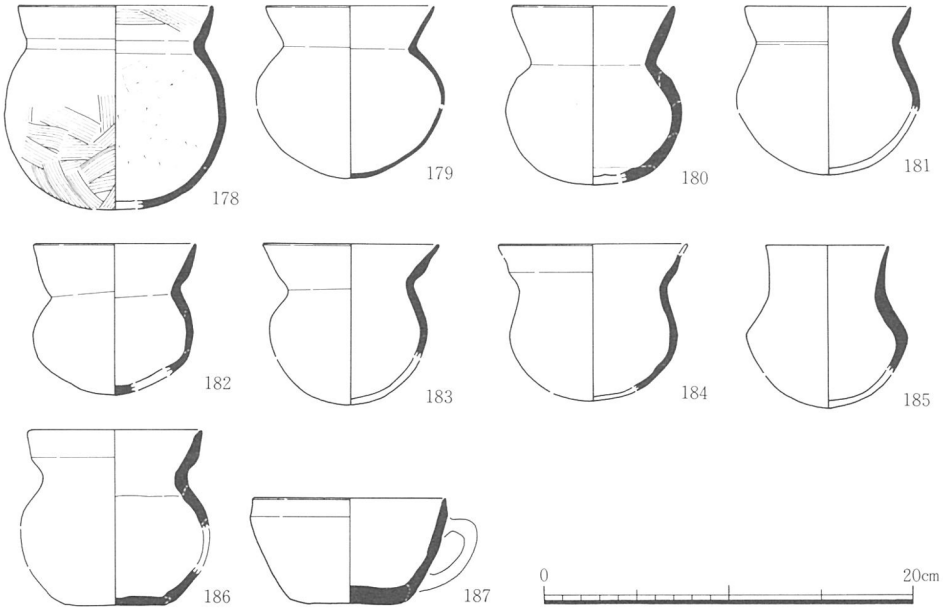
188～205は高杯である。形態や製作技法の違いが認められる。201は脚柱部に１方向のスカシを穿ち外面にヘラミガキを施している。脚柱部内面に工具によるとみられるケズリ痕が認められる。

206は叩石である。棒状を呈しておりその先端部と側面に打撃痕が観察される。

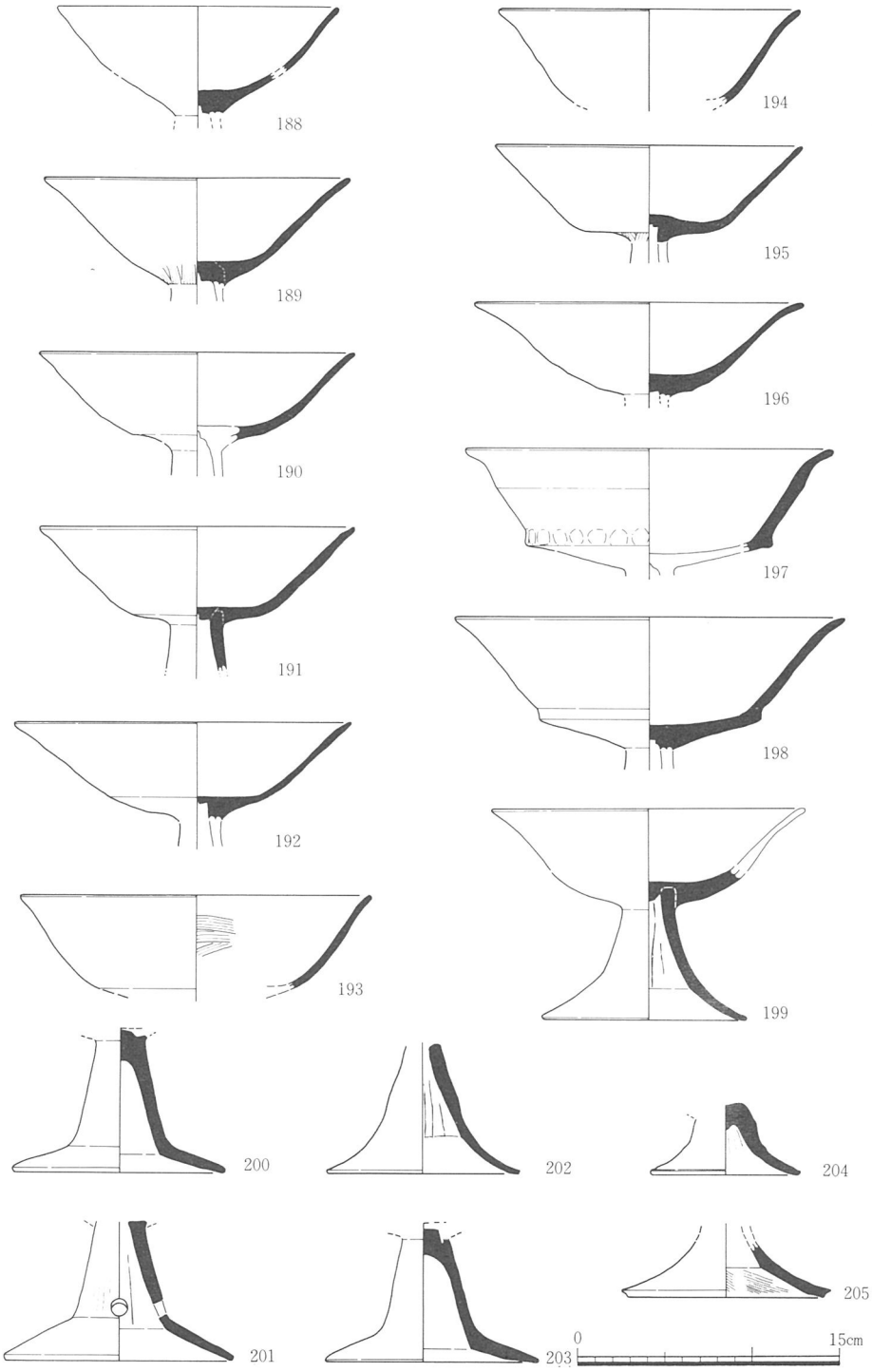
207・209は砥石である。207は平面的な石材を利用しており、両面ともに擦痕が観察される。209は板状の石材を利用している。かなりの磨滅が認められ側面形が撥形を呈している。上下面および両側面を使用している。

208は勾玉である。全長17.2㎜、厚さは頭部で3.9㎜、尾部で3.2㎜を測る。孔は片側からの穿孔で、穿孔方向に円形のくり込みが観察されるが、孔径はほとんど変わらず2.0～2.1㎜を測る。偏平な板材を加工したとみられ胴部での断面形は長方形を呈する。材質には縞模様状の筋が観察され、また表面の磨滅が著しい。材質は滑石とみられる。

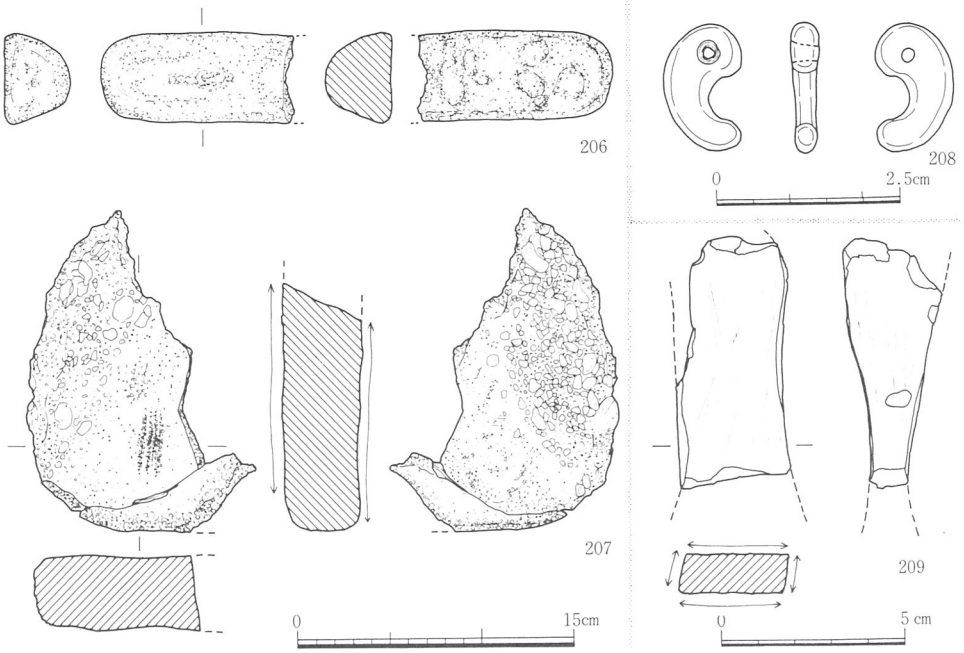
007－OSは出土遺物から古墳時代中期前葉に比定される。



第32図　007－OS出土遺物３（1/4）



第33図　007－OS出土遺物４（1/4）



第34図　007－OS出土遺物５（1/1・1/2・1/4）

049～053・106・109・114－OO

これらの土坑はｆ区の西側Ｃ13BW付近（106－OOはＣ08UX）において検出した。遺構の検出は058－OR上層の砂層の上面において行った。106－OOは現行水路により削平を受けていたため他の検出面より約0.5m低い。

埋土の多くは、炭化物を含む灰黄褐色系の砂質シルトである。

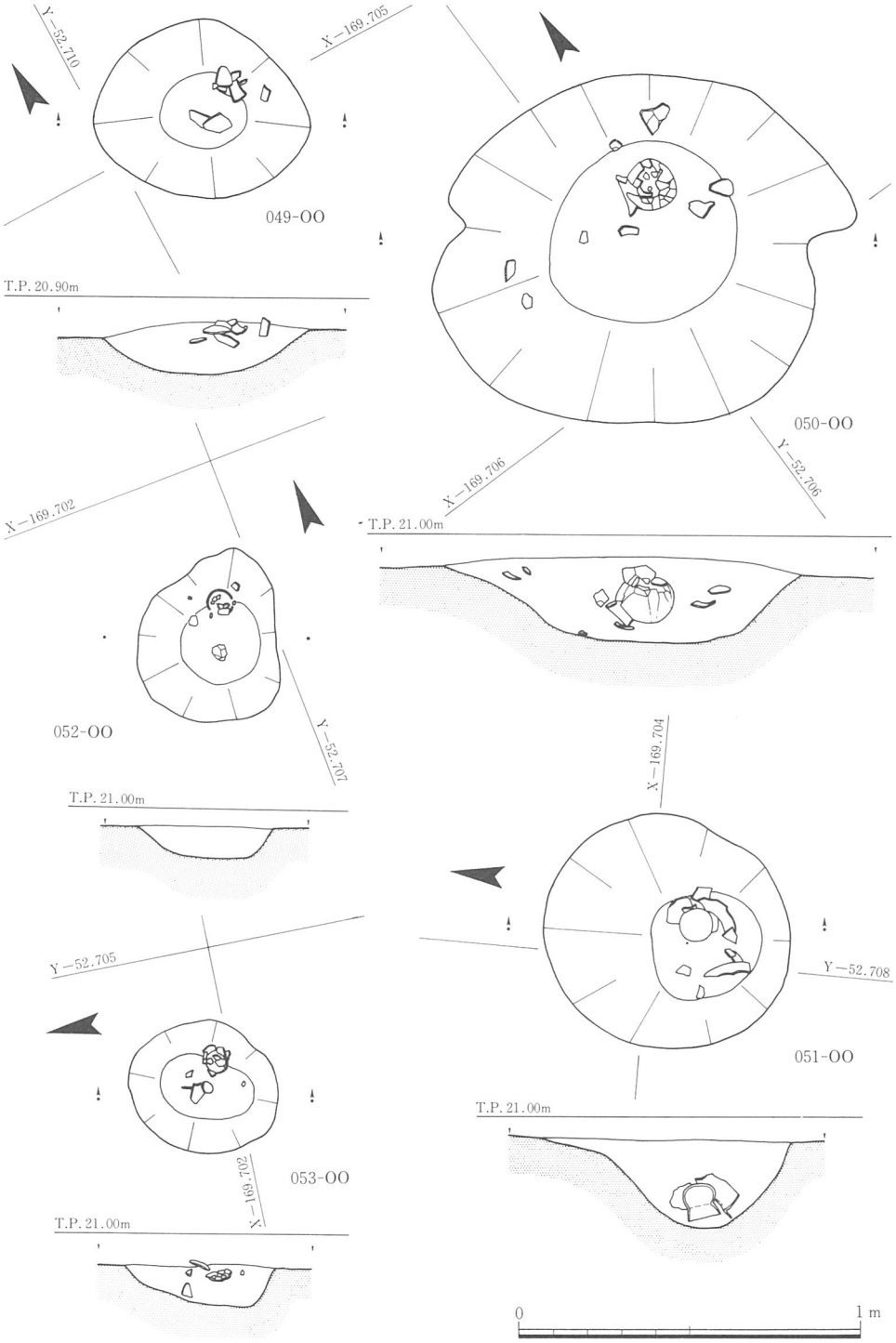
049－OO（第35・37図、図版９）

049－OOは、長径63㎝、短径52㎝の楕円形を呈する。深さ15㎝を測る。遺構の底よりやや遊離した状態で土師器の壺と高杯を検出した。

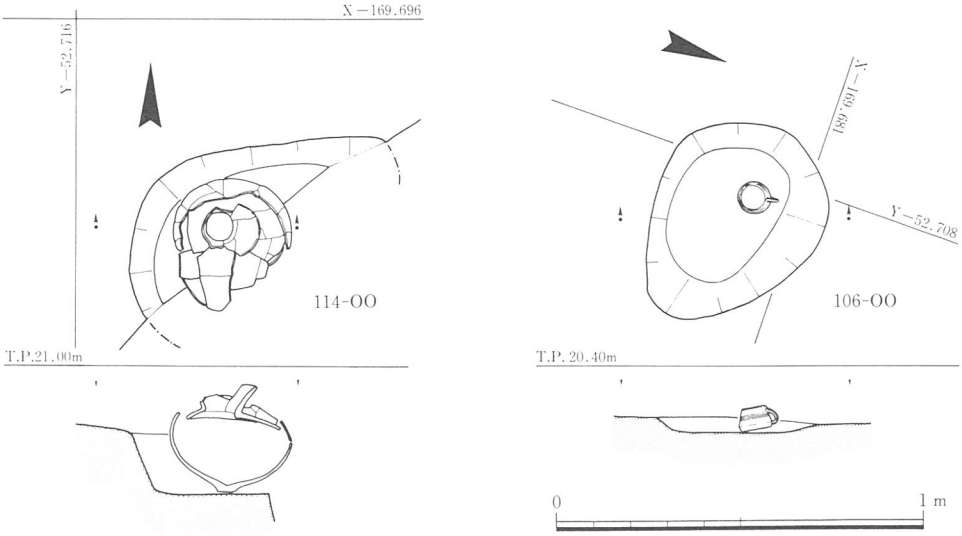
050－OO（第35・37図、図版９・23）

050－OOは長径102㎝、短径120㎝の楕円形を呈する。深さは25㎝を測る。遺構の底よりやや遊離した状態で土師器の小型の壺を検出した。壺は横転していた。

212はほぼ完形である。口縁部は直線的に開き端部においてやや外反する。体部は球形を呈するがやや偏平な感がある。体部外面には主に横方向のハケ調整を施し、肩部内面には横方向のヘラケズリを、体部内面には斜め方向のヘラケズリを施す。また底部内面には指頭圧痕が認められる。



第35図　049・050・051・052・053－OO遺物出土状況図（1/20）



第36図　106・114－OO遺物出土状況図（1/20）

051－OO（第35・37図、図版10・23）

051－OOは径66㎝～73㎝のほぼ円形を呈する。深さは26㎝を測る。埋土は大きく２層に分かれる。上層は灰黄褐色系の砂質シルトである。下層は炭化物層で筵状に編んだ植物遺体が観察される。遺構の底より土師器の小型丸底壺と甕を検出した。小型丸底壺は伏せた状態にあり、甕はそれを覆うような状態であった。

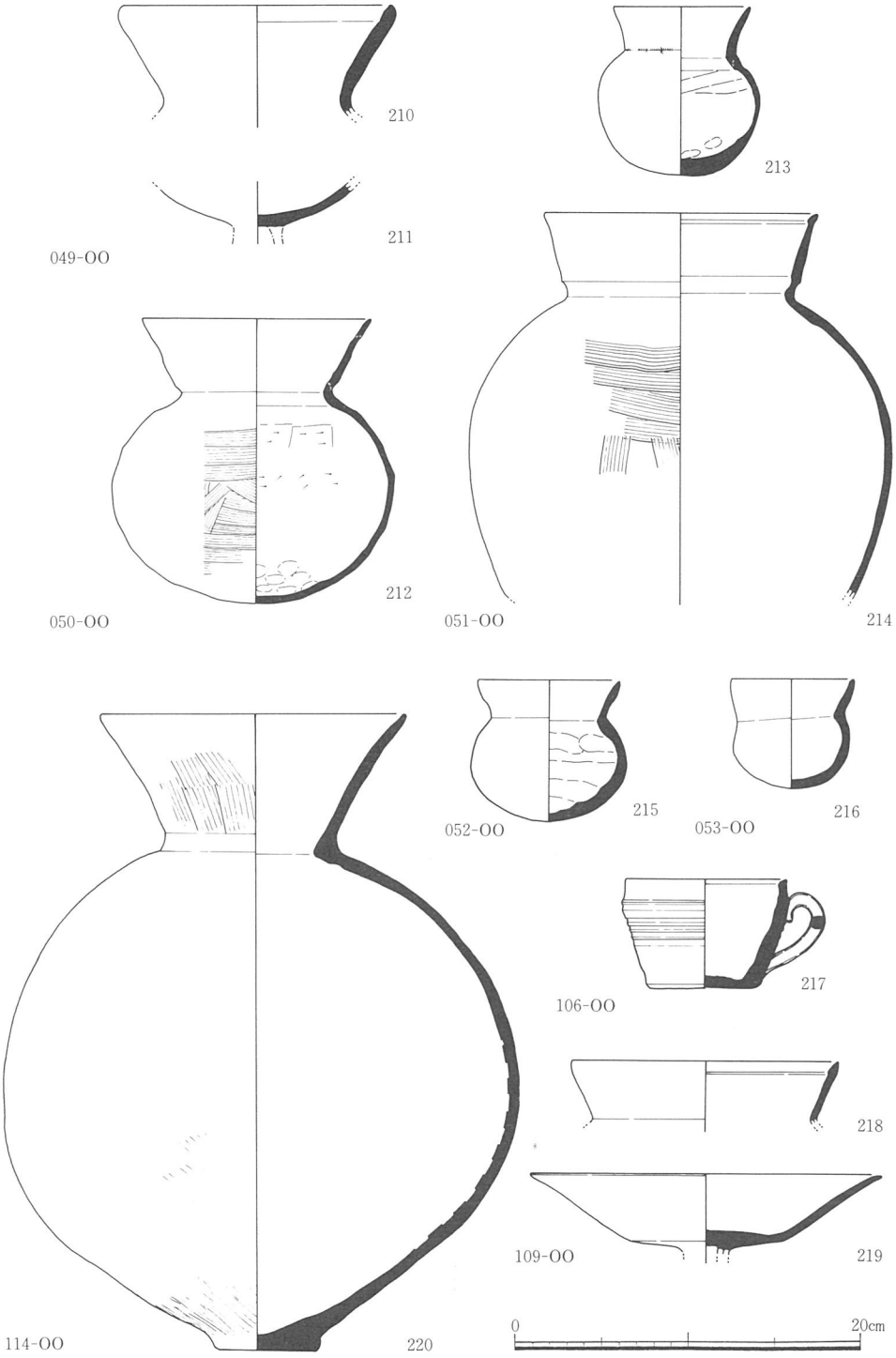
213はほぼ完形である。口縁部は短く外反気味に開く。焼成は良好、体部外面はやや摩耗しているがハケ調整は認められない。ただ口縁部と体部の接合部にわずかにハケ状工具によるとみられる圧痕が観察される。体部の器壁に比べ底部の器壁はきわめて厚く作られている。

214は約半分が残存している。口縁部と頸部の接合部は内外面に強いナデを施すことにより外面に稜線、内面に段を形成している。体部はその最大径が上半部に位置することから長胴の感がある。

052－OO（第35・37図、図版10・23）

052－OOは長径51㎝、短径43㎝の不整楕円形を呈する。深さは10㎝を測る。遺構の底よりやや遊離した状態で土師器の小型丸底壺を検出した。

215はおよそ1/3が残存している。口縁部は外反気味に開き、端部を丸く仕上げている。体部はやや偏平気味である。



第37図　049～053・106・109・114－OO出土遺物（1/4）

053－OO（第35・37図、図版11・24）

053－OOは39～45㎝のほぼ円形を呈する。深さは12㎝を測る。遺構の底よりやや遊離した状態で土師器小型丸底壺を検出した。

106－OO（第36・37図、図版24）

106－OOは長径60㎝、短径47㎝の楕円形を呈する。深さは５㎝を測る。大部分を削平されていると考えられる。埋土は灰黄色系統の砂混じりシルトである。須恵器の把手付き椀を検出した。椀は伏せた状態であった。

217は完形である。口縁端部に面取を行い、端面は内傾する。口縁部と体部の境を断面三角形の凸帯状に成形する。体部に３状の凹線を巡らせる。底面にはヘラ状工具による切り離しの後ナデを施す。陶質土器である可能性がもたれる。

109－OO（第28・37図）

109－OOは長径115㎝、短径85㎝の楕円形を呈する。深さは15㎝を測る。土師器の甕と高杯をを検出した。007－OSと重複しているが調査時の観察により007－OSより新しいことが認められた。

114－OO（第36・37図、図版11・24）

114－OOは土坑の半分を検出したにすぎない。長径60㎝の楕円形を呈するものとみられる。深さは16㎝を測る。土師器の壺を土坑の底に据えた状態で検出した。

220はほぼ完形である。口縁部は大きく外反して開き、端部を丸く仕上げる。対部はやや下膨れの球形を呈する。底部は突出するが、中心からずれているため非常に不安定である。焼成はやや不良、全体に磨滅が著しく調整は不明瞭であるが、口縁部から体部中程にかけての外面には粗いハケを、体部中程から底部にかけては縦方向のヘラミガキを施したものとみられる。

出土遺物から以上の土坑は古墳時代中期前葉に比定される。

056－OS（第38・39図、図版12・13・24）

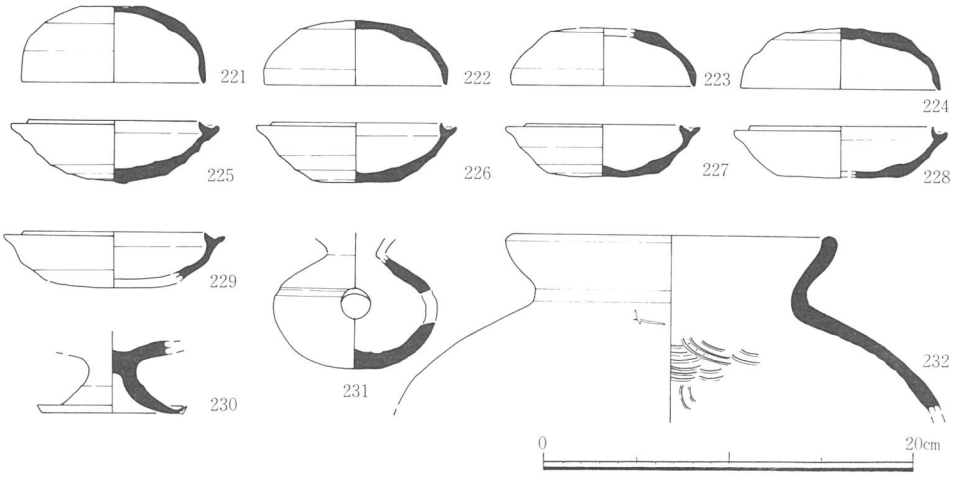
056－OSはｆ区において検出した溝である。検出長およそ38m、幅2.2～3.7m、深さ約0.5～0.7mを測る。溝底面のレベルは北側でT.P.19.75m、南側でT.P.19.65mを測る。断面形は逆台形もしくは「U」字形を呈している。埋土は黄灰色系の砂質シルトを基本とし、砂、粘質土を間層としている。また断面土層の観察により遺構の埋没後に再び掘削が行われたことが窺われる。溝底面にヒトの足跡が認められた。最初に掘削された溝の埋土中より須恵器を検出した。

221～229は杯及び杯蓋である。杯蓋は回転ヘラギリの後ナデ調整を加えるが丁寧な仕上げはしていない。また回転ヘラケズリはほぼ天井部のみに行っている。杯身の底部の形態は平底状を呈するものが多く、回転ヘラギリの後ナデ及び回転ヘラケズリを行うが底面中央部まではおよばず、中央部は未調整となっている。

230は小型の高杯である。231は甕である。体部外面に回転ナデを施し、底部外面に回転ヘラケズリを施す。肩部には１条の凹線を巡らせている。

232は甕である。口縁部は短く内湾気味に立ち上がり端部を丸く仕上げる。焼成は不良で外面調整は摩耗のため不明である。内面にはタタキの当具痕跡が観察される。肩部にヘラ記号とみられる工具痕跡が認められる。

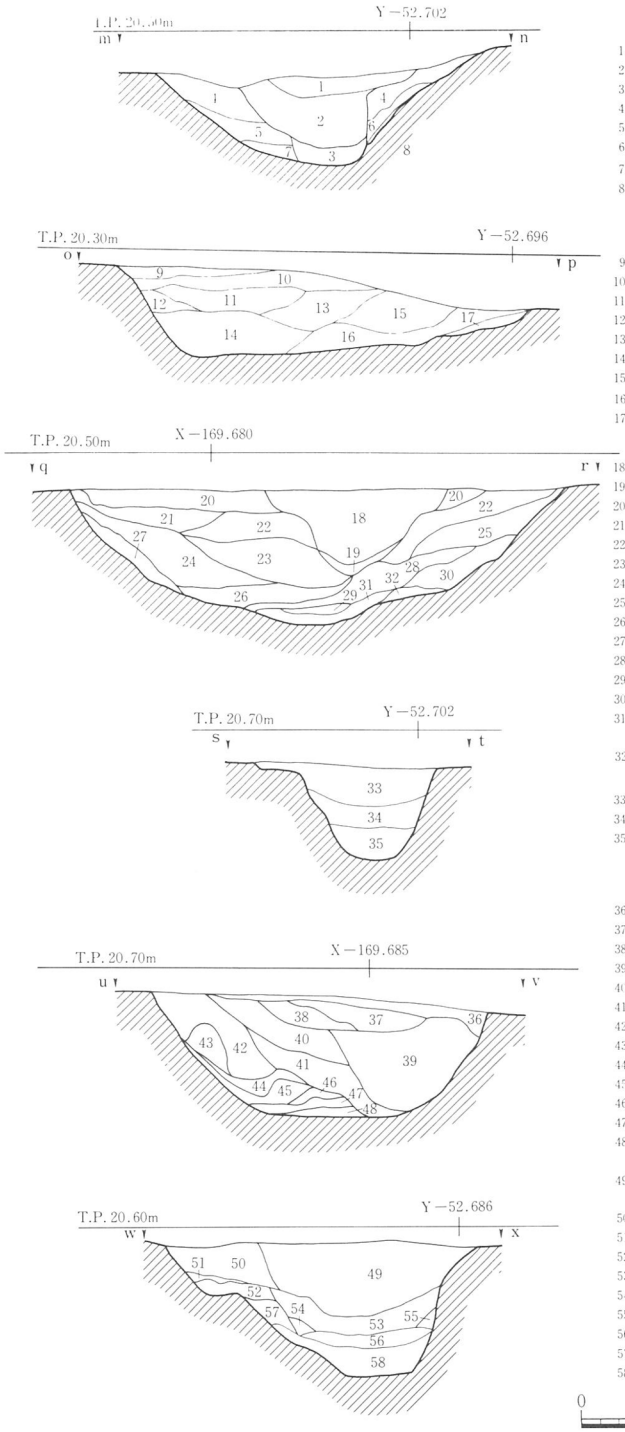
056－OSは出土遺物から７世紀前葉に比定される。



第38図　056－OS出土遺物（1/4）

057－OS（第39図、図版12・13）

057－OSはｆ区において検出した溝である。検出長およそ30m、幅1.0～1.8m、深さ約0.7を測る。溝底面のレベルは北側でT.P.20.00m、南側でT.P.19.80mを測る。断面形は逆台形もしくは「U」字形を呈している。埋土は黄褐色系の砂質シルトを基本とし、砂、粘質土を間層としている。また断面土層の観察により遺構の埋没後に再び掘削が行われたことが窺われる。遺物は検出できなかった。出土遺物がないことから時期の決定はし難いが、056－OSの西側約５ｍの地点に平行して設けられていること、両者とも埋没後に再び掘削が行われていることから、同時期に並存していた可能性が高いと思われる。（虎間）



1. Hue 10YR 7/2 にぶい黄橙色 砂質シルト
2. Hue 10YR 6/1 褐灰色 粘質土
3. Hue 10YR 6/1 褐灰色 砂質シルト
4. Hue 10YR 6/2 灰黄褐色 砂質シルト(鉄分を多く含む)
5. Hue 10YR 6/6 明黄褐色 シルト(鉄分を多く含む)
6. Hue 10YR 6/2 灰黄褐色 シルト
7. Hue 10YR 6/2 灰黄褐色 シルト(鉄分を多く含む)
8. Hue 10YR 6/1 褐灰色 砂質シルト(地山の明黄褐7/6粘質土ブロックを含む)

9. Hue 2.5Y 6/3 にぶい黄色 砂質シルト
10. Hue 10YR 6/6 明黄褐色 砂質シルト
11. Hue 10YR 5/2 灰黄褐色 粘質シルト
12. Hue 2.5Y 7/2 灰黄色 砂混りシルト
13. Hue 2.5Y 6/2 灰黄色 砂混りシルト
14. Hue 2.5Y 5/1 黄灰色 粘質シルト
15. Hue 5Y 6/2 灰オリーブ色 砂混りシルト
16. Hue 5Y 6/1 灰色 砂層
17. Hue 5Y 5/1 灰色 粘質シルト

18. Hue 10YR 5/2 灰黄褐色 砂質シルト
19. Hue 2.5Y 5/1 黄灰色 砂混りシルト
20. Hue 10YR 6/2 灰黄褐色 砂質シルト
21. Hue 2.5Y 5/1 黄灰色 粘質シルト
22. Hue 10YR 5/3 にぶい黄褐色 砂質シルト
23. Hue 10YR 5/1 褐灰色 砂混りシルト
24. Hue 10YR 5/1とHue 10YR6/6の粘質シルト ブロック土
25. Hue 10YR 4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト
26. Hue 10YR 5/6 黄褐色 砂層
27. Hue 2.5Y 6/2 灰黄色 砂混りシルト
28. Hue 2.5Y 5/1 黄灰色 粘質シルト
29. Hue 10YR 5/6 黄褐色 砂層
30. Hue 2.5Y 7/4 浅黄色 砂質シルト(地山荒れこみ)
31. Hue 2.5Y 5/1 黄灰色 砂混りシルト (砂のブロックを含む)
32. Hue 2.5Y 7/2 灰黄色 砂

33. Hue 2.5Y 6/2 灰黄色 砂質シルト
34. Hue 2.5Y 6/1 黄灰色 砂混りシルト
35. Hue 5Y 5/1 灰色 粘質シルト

36. Hue 2.5Y 6/8 明黄褐色 粘質土
37. Hue 2.5Y 4/2 暗灰黄色 砂混りシルト
38. Hue 2.5Y 3/2 黒褐色 砂混りシルト
39. Hue 2.5Y 6/2 灰黄色 砂混りシルト
40. Hue 2.5Y 5/2 暗灰黄色 砂質シルト
41. Hue 2.5Y 6/2 灰黄色 シルト
42. Hue 2.5Y 6/3 にぶい黄色 シルト
43. Hue 2.5Y 5/2 黄褐色 シルト
44. Hue 10YR 6/8 明黄褐色 砂
45. Hue 5Y 7/1 灰色 シルト
46. Hue 10YR 6/8 明黄褐色 砂
47. Hue 5Y 7/1 灰色 シルト
48. Hue 10YR 6/8 明黄褐色 砂

49. Hue 10YR 5/2 灰黄褐色 砂質土、部分的に粘質塊を含む
50. Hue 5Y 6/3 オリーブ黄色 シルト
51. Hue 10YR 8/5 黄褐色 粗砂
52. Hue 10YR 6/8 明黄褐色 シルト
53. Hue 10YR 4/2 灰黄褐色 砂混りシルト
54. Hue 2.5GY5/1 オリーブ灰色 粗砂
55. Hue 5GY 7/1 明オリーブ灰 砂混りシルト
56. Hue 7.5Y 6/2 灰オリーブ色 微砂
57. Hue 5G 7/1 明緑灰色 シルト
58. Hue 10GY 5/1 緑灰色 砂混りシルト

0 2 m

第39図　056・057－OS断面土層図（1/40）

第３節　第II調査区の調査成果

第１項　概　　要

第II調査区はさらに大きく６区に分けて調査を実施した。調査区の呼称は第１図に示す通りである。

全体に近・現代に行われたとみられる削平を受けており、溝や土坑等の遺構は浅くなっていたが、里道部分の調査箇所においては比較的良好に遺構面が保たれていた。

弥生時代の自然河川、奈良時代の溝、中・近世の溝や自然河川等を検出した。（虎間）

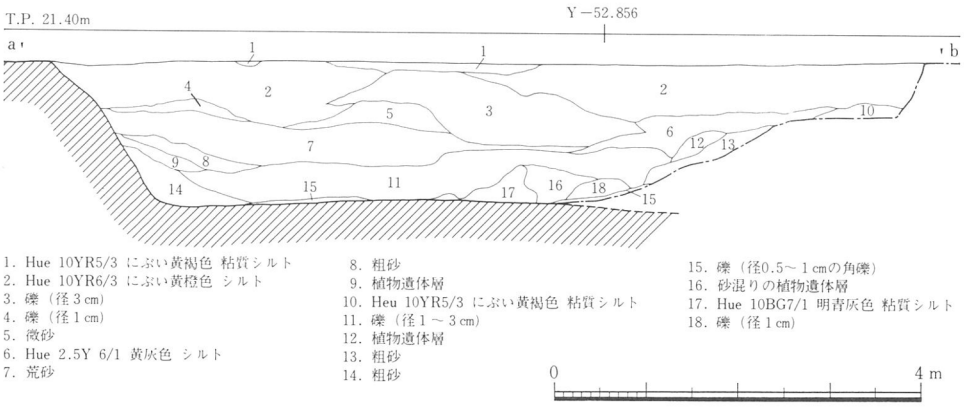
第２項　遺構各節

075－OR（第40～46図、図版14・24・28・30）

075－ORはｂ・ｄ・ｅ・ｆ区にかけて検出した自然河川である。検出長約30m、幅約11m、深さ1.5mを測る。埋土は主に砂と礫からなるが、一部にシルト層や植物遺体層が観察された。走行方向はほぼ北に向かっている。主に中層から下層にかけての層から弥生土器を多量に検出した。236は中層よりやや下位の荒砂層の中からほぼ完形の状態で検出した。横転し、口縁部は河川の走行方向に対し直行する方向を向けていた。

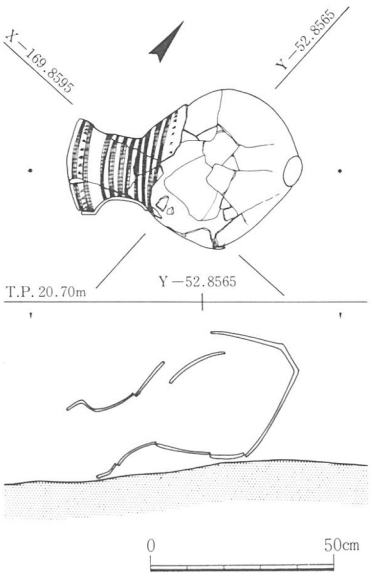
233はサヌカイト製の石鏃である。柳葉形を呈し、左面中央部から基部にかけて大剝離面が残存するほかは、両側縁部より細かい調整剝離が施されている。弥生中期の所産。

234は蓋である。口縁部は端部を上方に拡張し、二孔一対の紐孔を穿っている。体部外面に縦方向のヘラミガキを施している。胎土は黄褐色を呈し、雲母を含むことから河内産の土器とみられる。



第40図　075－OR断面土層図（1/80）

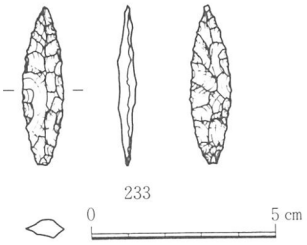
235～247は壺である。236、口縁部は内傾し立ち上がる。口縁部外面に2条の簾状紋を巡らせ、その間に扇形紋を配している。頸部から肩部にかけての外面に8条の簾状紋とその下位に扇形紋を配している。体部外面にはタタキを行った後、丁寧なナデないしはヘラミガキを施している。体部の中程から底部にかけての外面にはヘラミガキを施している。237、口縁部を垂下させ、外面に6条の凹線を巡らせ、その上に円形浮紋を配する。また内面には列点紋を配している。245、ハケ調整の後にタタキを施しているのが観察される。



第41図　075－OR遺物
出土状況図（1/20）

248～250・275は鉢である。248・249、ともに内傾する段状の口縁を呈する。249の体部外面には列点紋が施されている。250は台付の鉢である。脚裾部外面に3条の凹線を巡らせ、円形のスカシを穿っているがその数は不明である。

254～267は甕である。256～267、いずれも口縁部を「く」の字状に屈曲させ、端部を上方にあるいは上下方向に拡張し面となしている。体部の内外面に縦方向の粗いハケを施したものが多くみられる。

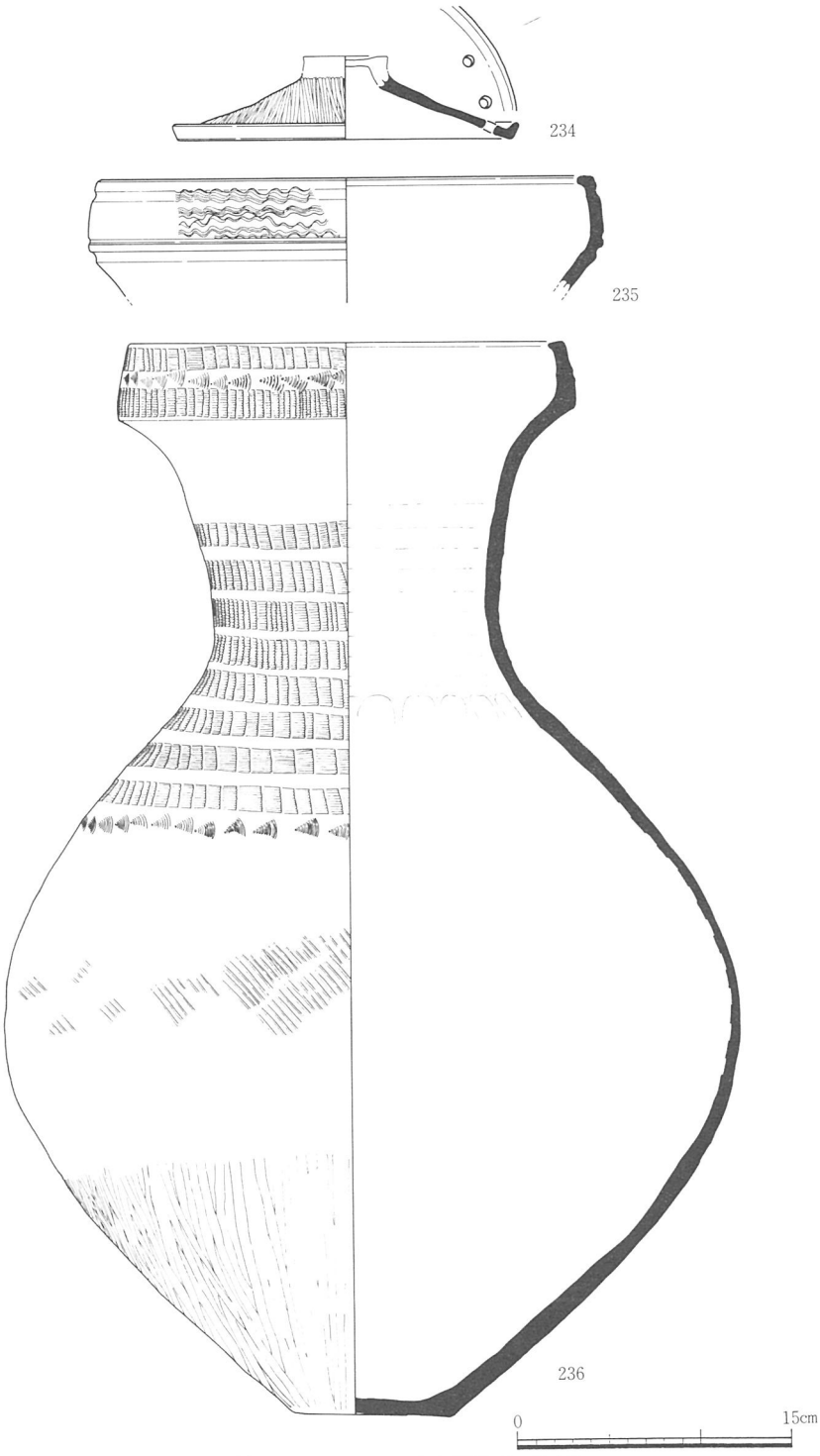


第42図　075－OR出土遺物1（1/2）

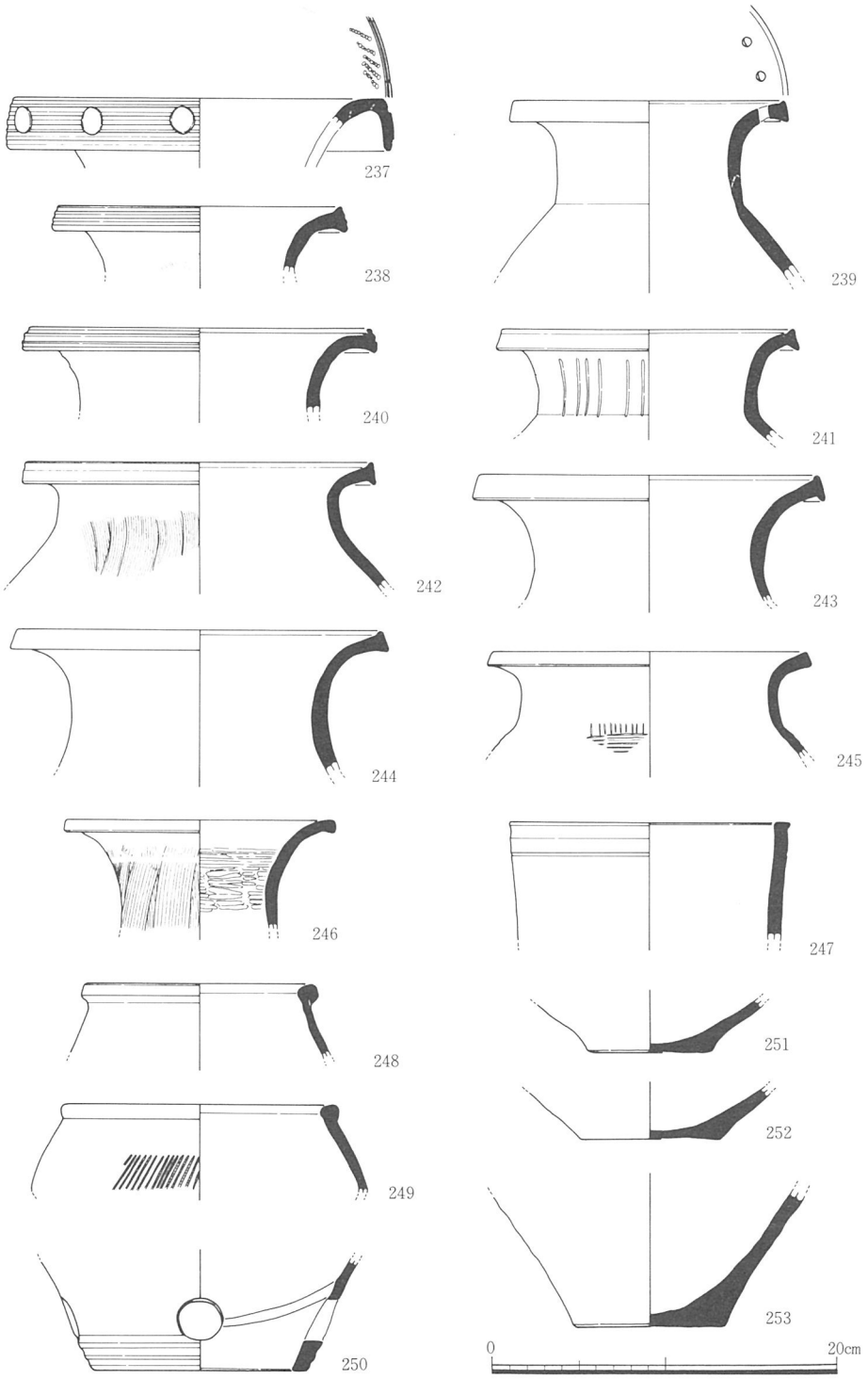
268は水差形土器である。口縁部外面に3条の凹線を巡らせている。頸部から体部にかけては直線紋と波状紋を交互に配している。

269～274は高杯である。273・274は口縁部を強く屈曲させ、杯部との境に凹線を条状巡らせる。247の口縁部内面に横方向のヘラミガキが、杯部内面に不定方向のヘラミガキがそれぞれ認められる。

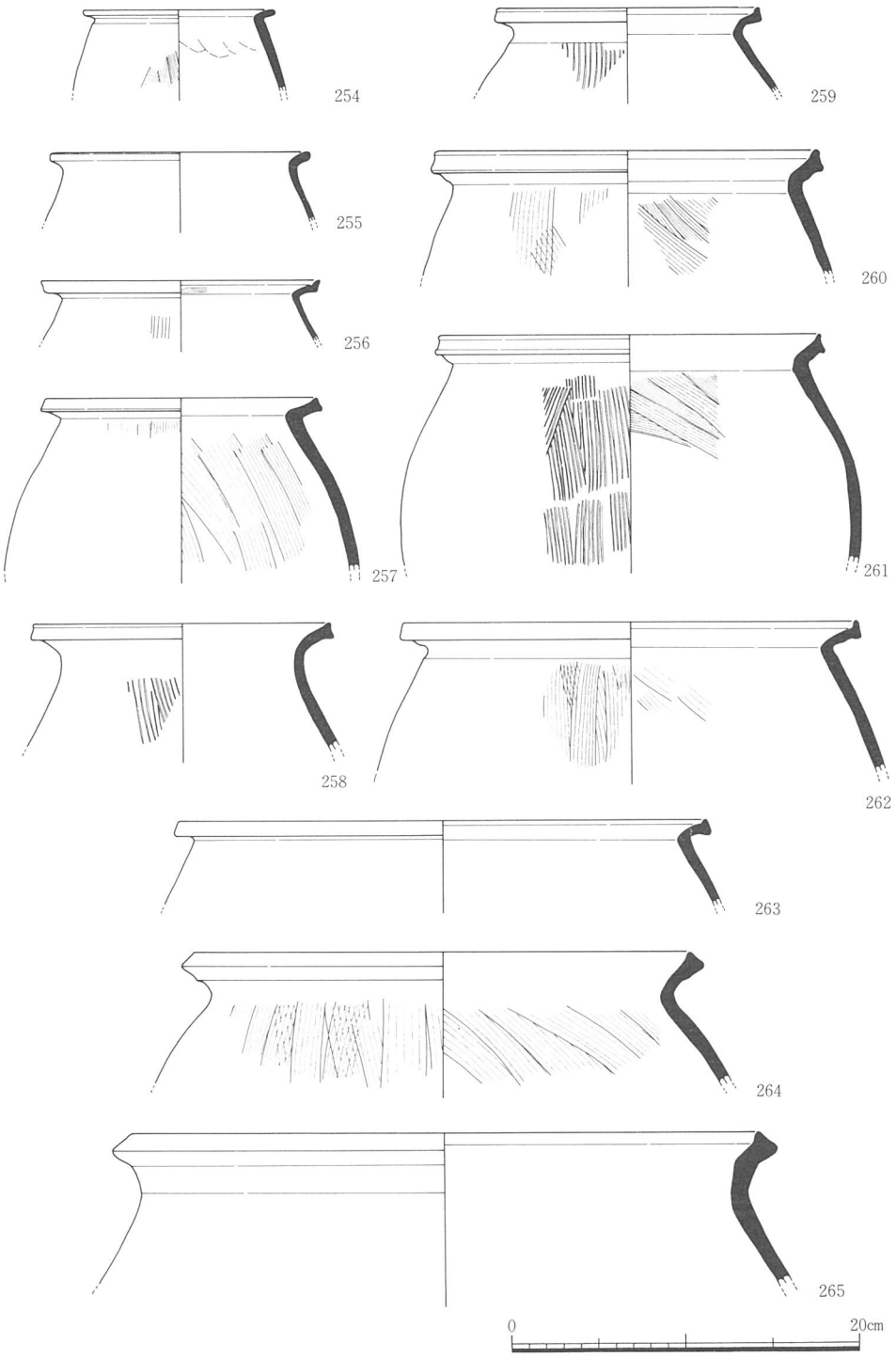
出土遺物より075－ORは弥生時代中期後葉に比定される。　（橋本・虎間）



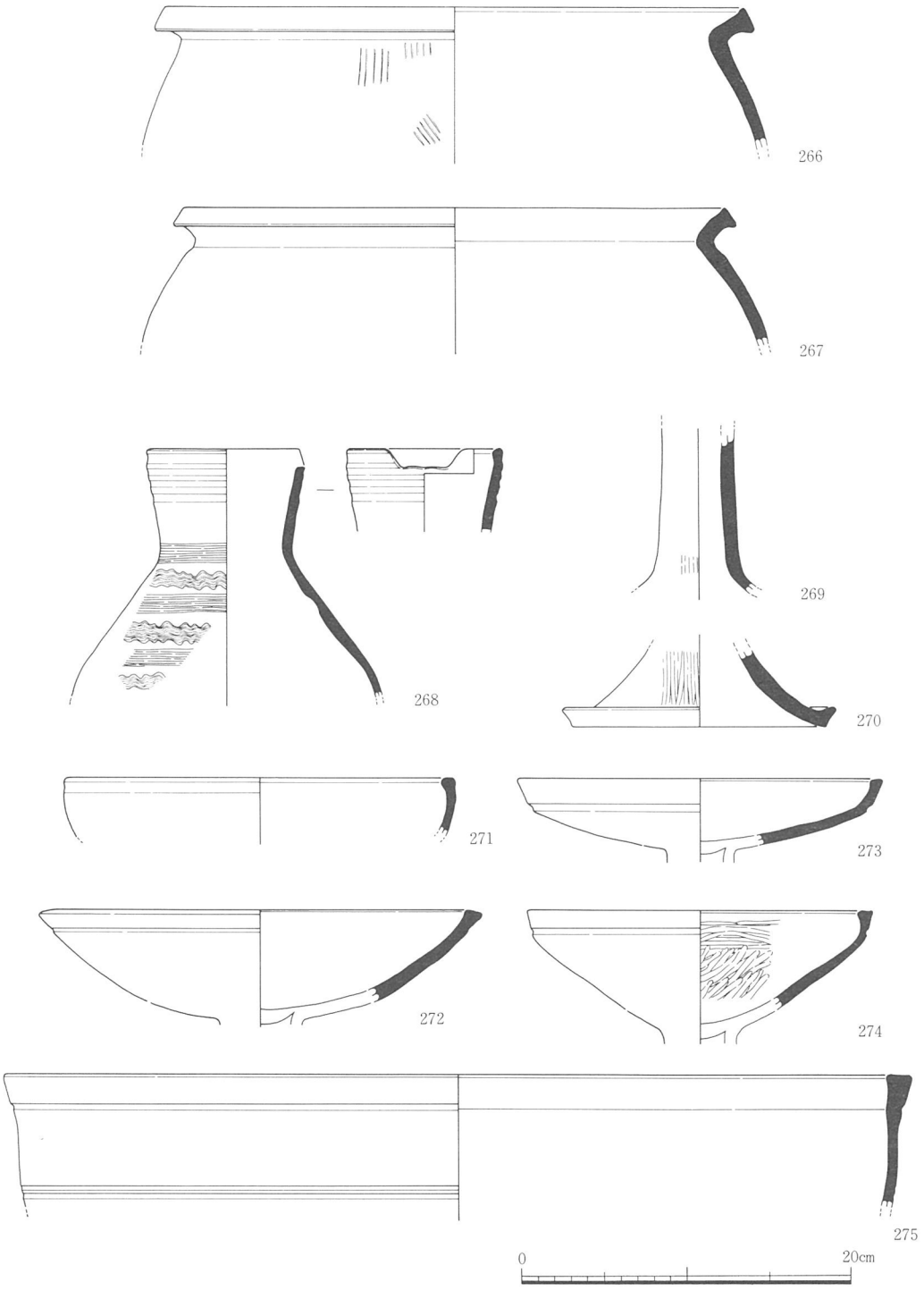
第43図　075－OR出土遺物２（1/4）



第44図　075－OR出土遺物３（1/4）



第45図　075－OR出土遺物４（1/4）

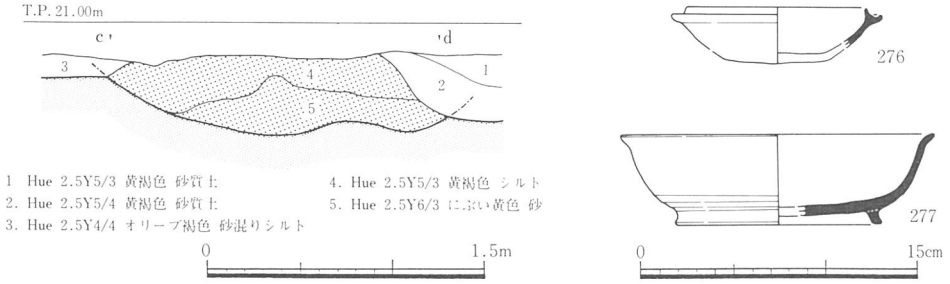


第46図　075－OR出土遺物５（1/4）

124－OS（第47図）

124－OSはｂ区の西端において検出した溝である。検出長約3.8m、幅0.7～1.9m、深さ0.5mを測る。遺構の西肩を中世の包含層により削平されている。上下２層に分かれる。上層は黄褐色系のシルト層、下層はにぶい黄色系の砂層である。埋土中より須恵器若干量を検出した。276は須恵器杯身の口縁部破片である。７世紀前半の所産と考えられる。277は須恵器杯身である。口縁部を外反させたいわゆる金属器を模倣したとみられるタイプである。杯部外面に他の個体との熔着が認められる。８世紀中頃の所産である。

出土遺物から124－OSは８世紀中頃に比定される。



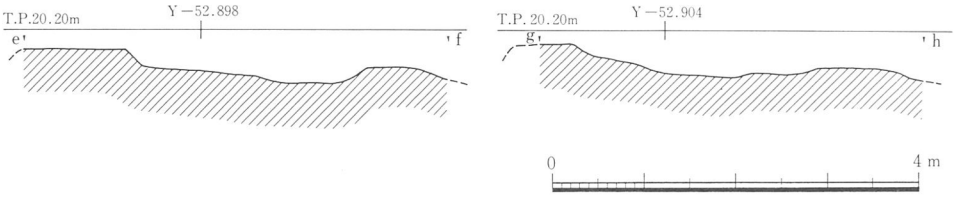
第47図　124－OS断面土層図（1/40）・出土遺物（1/4）

083－OS（第48・49、図版15）

083－OSは第Ⅱ－ａ区から第Ⅲ－ａ区にかけて、調査区にほぼ平行する形で検出した溝である。検出長およそ50m、幅1.3～2.7m、深さ0.2m前後を測る。黄褐色系の粘質土をベースとして掘り込まれ、全体が砂で覆われていた。土師質土器の羽釜、瓦器椀、瓦質土器の羽釜・鉢等を検出した。

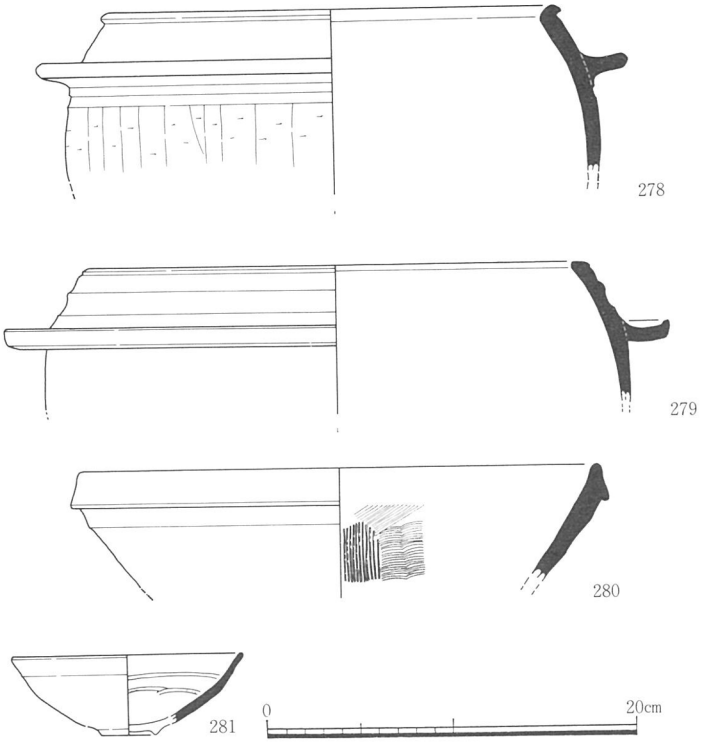
279は瓦質土器の羽釜である。280は瓦質土器の鉢である。内面にスリ目がある。ともに15世紀前葉の所産と考えられる。

以上の遺物を検出した砂層は、後述する078－ORが埋没する際にあふれ一帯に堆積した



第48図　083－OS断面図（1/80）

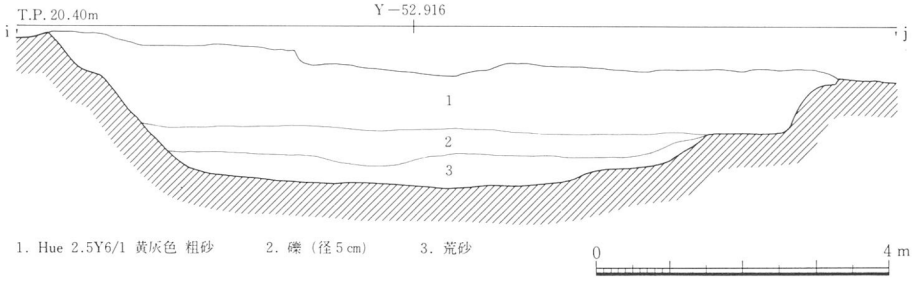
のと推測されることから、当遺構は15世紀前葉以前に比定される。また083－OSは現在見られる条里地割の方向に平行し、坪境に相当することから条里に伴う溝であった可能性が高いものと考えられる。



第49図　083－OS出土遺物（1/4）

078－OR（第50・51、図版15）

078－ORはａ、ｂ区の西側で検出した自然河川である。走行方向は調査区を横断する形で北に向かう。遺構の形状は一定しておらず、複雑に入り込み不明瞭である。埋土は砂と礫とからなり、あふれ出た砂が一面に堆積していたことから、急激な流れとともに埋没し



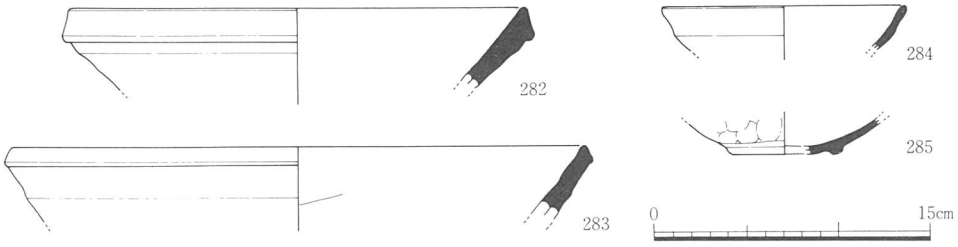
第50図　078－OR断面土層図（1/100）

たと思われる。埋土中より若干の遺物を検出した。

282・283は瓦質土器の鉢である。15世紀前葉の所産とみられる。

284・285は瓦器椀である。

出土遺物から078－ORは15世紀前葉に比定される。

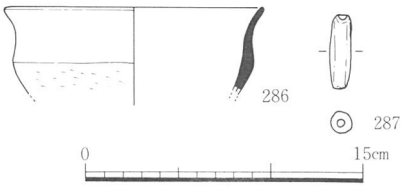


第51図　078－OR出土遺物（1/4）

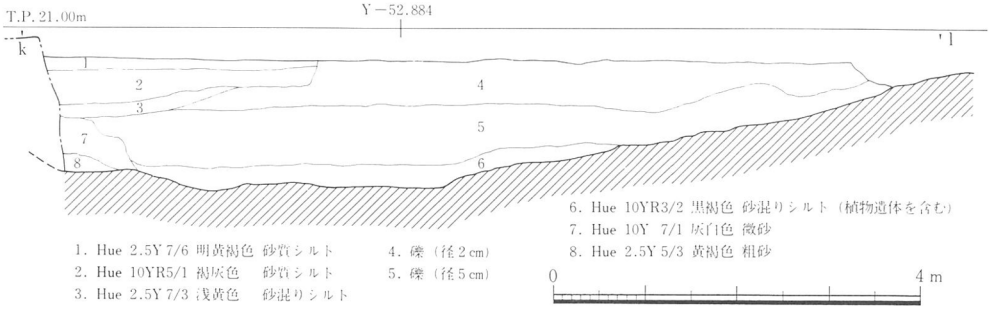
081－OR（第52・53、図版15）

081－ORはｂ区において検出した自然河川である。検出長約20m、幅6.1～8.1m、深さ1.4mを測る。埋土は大きく２層に分けられる。上層は浅黄色系の砂混じりシルト、下層は礫である。埋土中より若干の遺物を検出した。主に近世陶磁器（染付、国産陶器）の破片と瓦からなるが、縄紋土器も１点検出した。286は縄紋時代後期の鉢である。287は土師質の土錘である。時期を限定し難いが、近世においても同じタイプのものが見られることから近世の所産である可能性が高い。

出土遺物から081－ORは近世の中でも比較的新しい時期に比定される。　　（虎間）



第52図　081－OR出土遺物（1/4）



第53図　081－OR断面土層図（1/80）

第４節　第Ⅲ調査区の調査成果

第１項　概　　要

第Ⅲ調査区はさらに大きく２区に分けて調査を実施した。調査区の呼称は第１図に示す通りである。

遺構検出面が３面存在し、それぞれにおいて遺構を検出した。その結果、縄紋時代の自然河川と弥生時代の溝等を検出した。

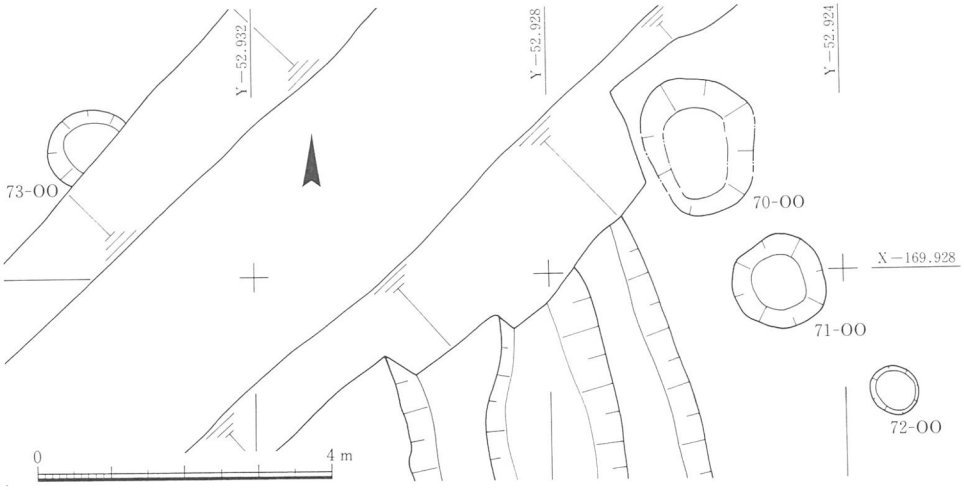
第２項　遺構各節

070－OO、071－OO、073－OO（第54・55図、図版16）

070－OO、071－OO、073－OOはａ、ｂ区において検出した土坑である。C21GS周辺に位置している。遺構検出面は、64－ORのそれよりも約0.5m近い面での検出である。

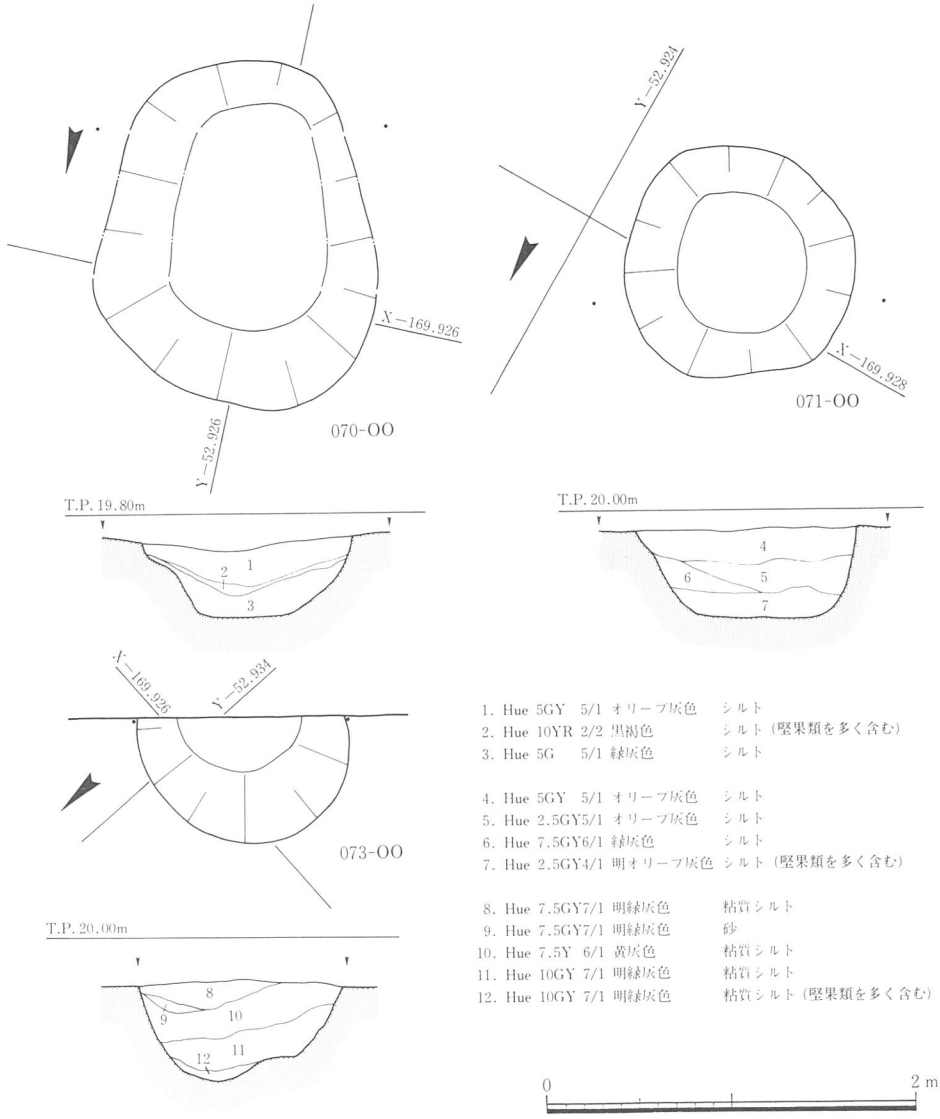
いずれも円形もしくは楕円形を呈している。径は1.1～1.9mを測る。断面形は逆台形あるいは浅い「U」字形を呈する。深さはおよそ0.4～0.5m、埋土は３～５層に分けることができる。ともに緑灰色系の粘質シルトもしくはシルトである。そして中間や最下層に植物の果実の堆積が認められた。そのほとんどがトチの実で、若干シイの実が含まれるものとみられる。土器片やサヌカイト剥片等の遺物は検出しなかった。

これらの土坑には遺物が存在しなかったことから、時期を明確にし難い。ただ遺構検出面が064－ORのそれより低いことから064－ORの時期である弥生時代中期より古いことが知れる。また性格についてはトチやシイの実の堆積から堅果類の貯蔵穴ではないかと考え



第54図　070・071・073－OO配置図（1/100）

られる。　　（虎間）



第55図　070・071・073－OO平面・断面土層図（1/40）

068－OR（第56・57、図版25）

068－ORはａ、ｂ区において検出した自然河川である。幅約6.5m、走行方向は蛇行しながら東から西に向かうとみられる。途中065－ORと交差している。断面の観察により068－ORの方が古いことが認められる。深さは、調査区の壁面保護のため川床を検出していないので不明である。検出できた深さは1.1mを測る。埋土の大半は砂と植物遺体である。

東肩部は砂が盛り上がった様な堆積を呈し、その上に縄紋晩期の包含層である第５層が堆積していることから、検出面上では一見第５層からの切込みのように観察される。

埋土中より縄紋土器を検出した。

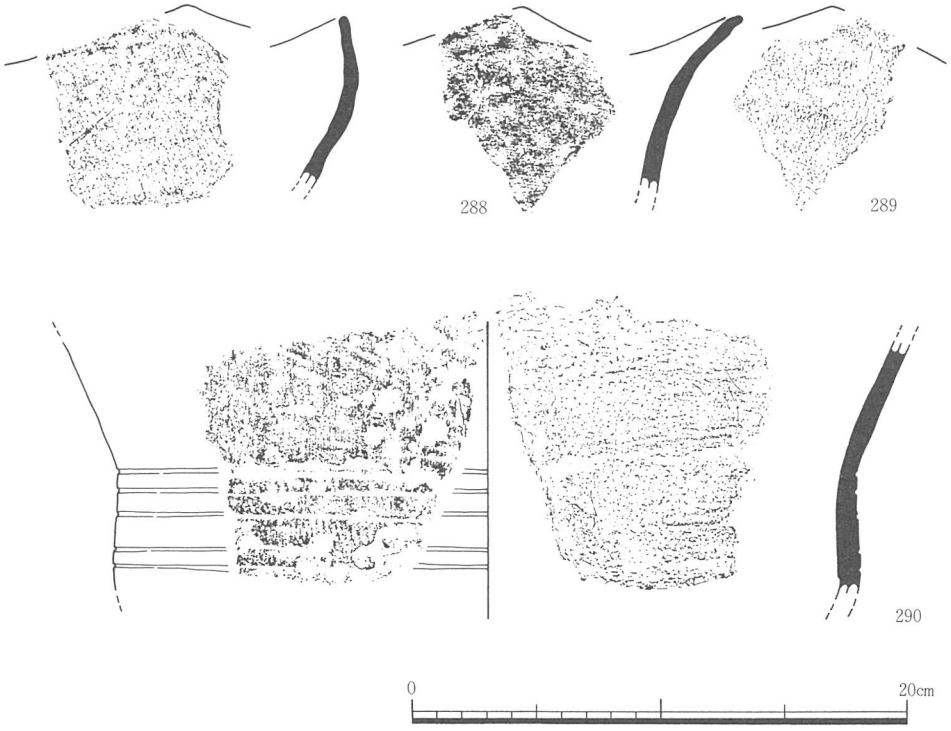
288は波状口縁を持つ粗製の深鉢の頂部付近の土器で内湾する口縁部をもつ。波頂部を意識したものか、内面に深い押圧痕を残している。外面上半と内面は押圧痕を残したまま軽くナデを施し、頸部付近は軽く器表をケズったような形跡がある。

289は波状口縁を持つ深鉢で器表面は全体に軽くナデている。口縁部内面は単なる押圧痕か意識的なものかはっきりしないが、口縁直下に浅い凹部を形成している。

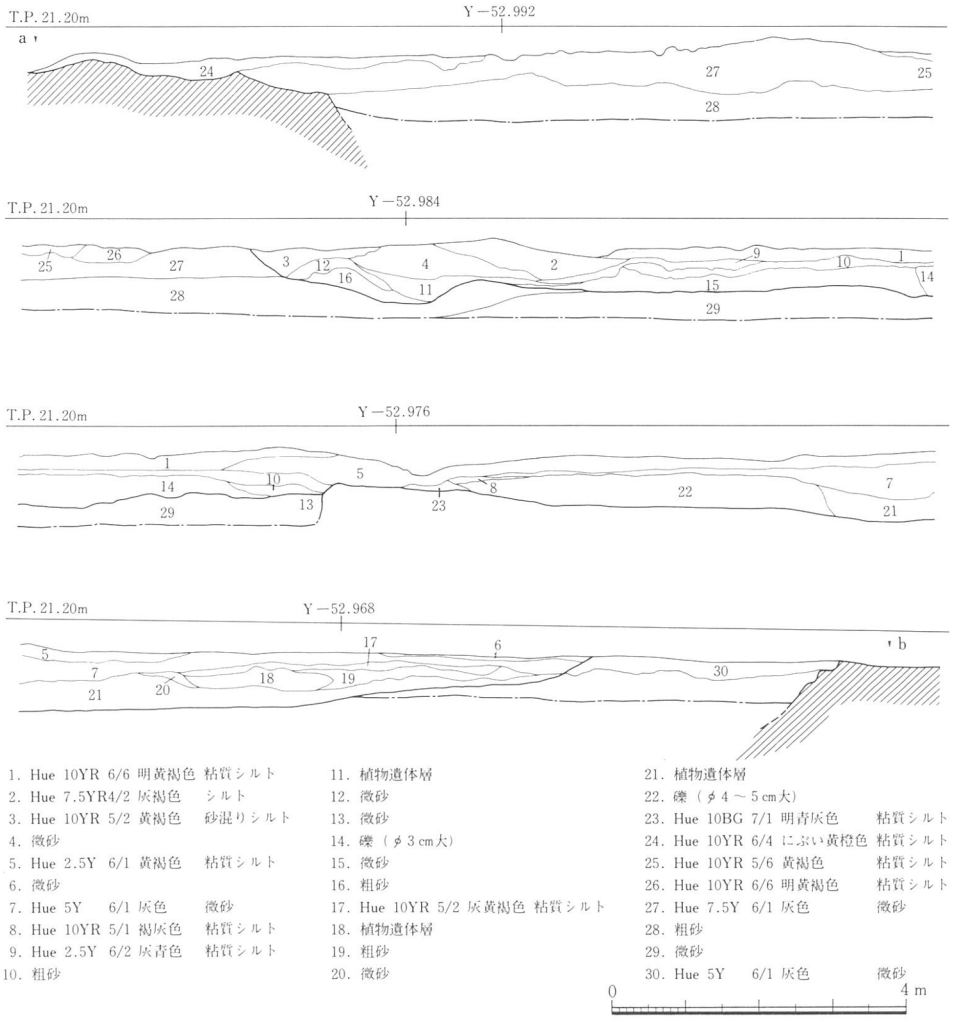
290は現存部に５条の細い沈線を巡らせる深鉢形の土器で、くびれ部から上半は軽く磨いたような器面を呈している。くびれ部の沈線間には不鮮明ながらLRの縄紋を施しているようである。

288・289は晩期に290は後期末に属すると考えられる。

出土遺物から068－ORは縄紋時代晩期に比定される。　（藤田・虎間）



第56図　068－OR出土遺物（1/3）



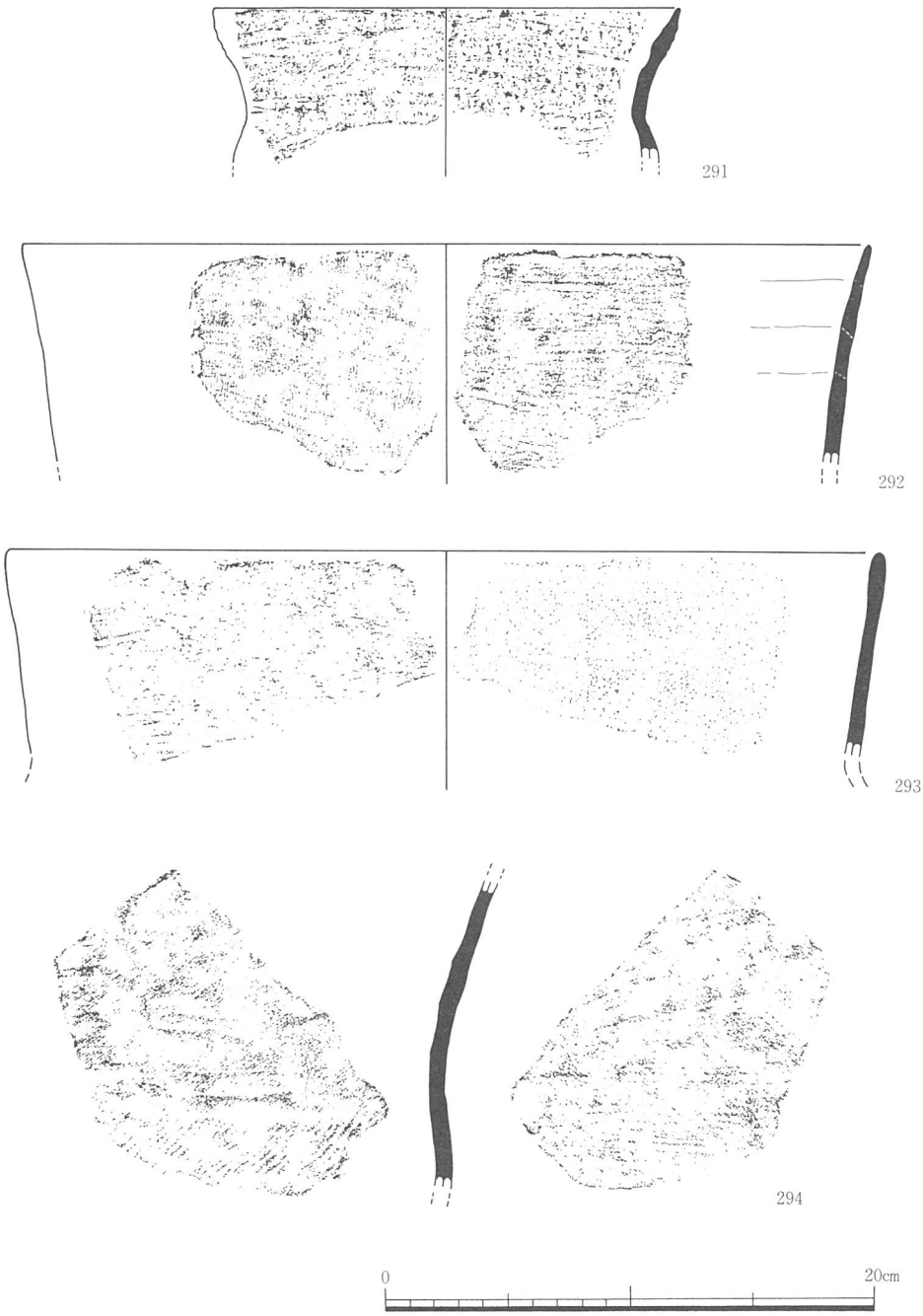
第57図　068・065－OR断面土層図（1/100）

065－OR（第57～60、図版17・26・28）

065－ORはａ、ｂ区において検出した自然河川である。幅約27mを測る。走行方向は調査区を横断する形で南から北に向かうとみられる。途中068－ORと交差している。断面の観察から068－ORの方が古いことが認められる。深さはおよそ1.0mを測る。埋土の大半が砂礫と植物遺体層からなる。なお、川床からは数カ所にドングリおよびトチが多量に集中する箇所がみられた。掘方は検出できないことから、網状のものに入れられて河川に保存していたものかもしれない。

縄紋土器、木製品、石器を検出した。

縄紋土器は全体によく磨滅している。291～293は横方向の条痕を施す深鉢である。いずれも二枚貝による条痕と思われる。291は顕著な頸部を持ち、内面はくびれの上半を板目



第58図　065－OR出土遺物１（1/3）

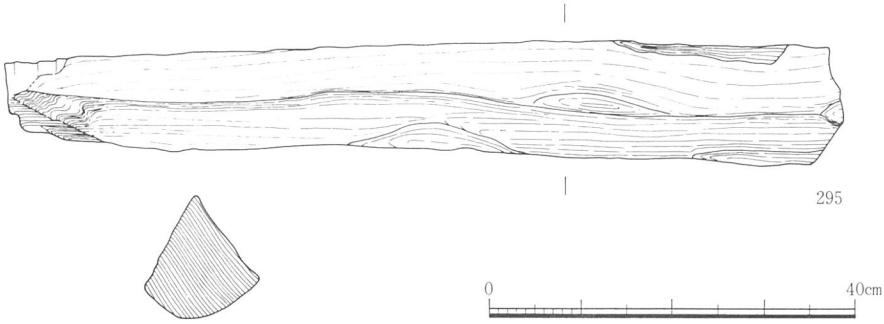
のナデを施し、くびれ部以下はケズリの様な痕跡を観察することができる。293は内面を押圧痕の上を軽くナデている。以上の土器は晩期に属する。

294は金雲母を含む河内系の土器と思われ、くびれ部の下半で上下の施紋の方法が異なる。くびれ部から下は縄紋を施し、上は縄紋を丁寧にナデ消している。内面は二枚貝条痕を施している。後期後半に属する深鉢であろうか。

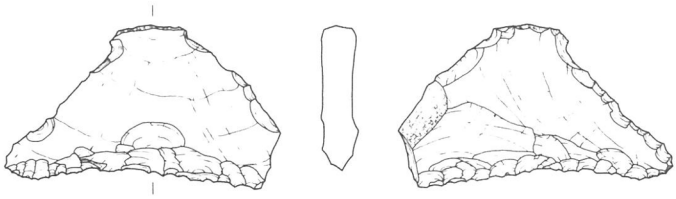
295は径約25㎝の材を推定6分割に「みかん割」を行ったとみられる部材である。表面に樹皮が認められる。

296はサヌカイト製のスクレイパーである。頂部に打瘤が認められる。頂部と左面には自然面が残る。横長剥片を素材とし、刃部は階段状の剥離である。

出土遺物から065－ORは縄紋時代晩期に比定される。　　（藤田・山本・橋本・虎間）



第59図　065－OR出土遺物２（1/8）



第60図　065－OR出土遺物３（1/2）

064－OR（第61・62、図版18・25）

064－ORはａ、ｂ区において検出した自然河川である。遺構検出面は062－OSのそれより約0.5m低い面での検出である。幅約4.5～5.5mを測る。深さはおよそ1.0m、埋土は大半が砂層からなる。遺構の断面が段状を呈していることや、062－OSと平行していることから人為的な溝である可能性がもたれる。

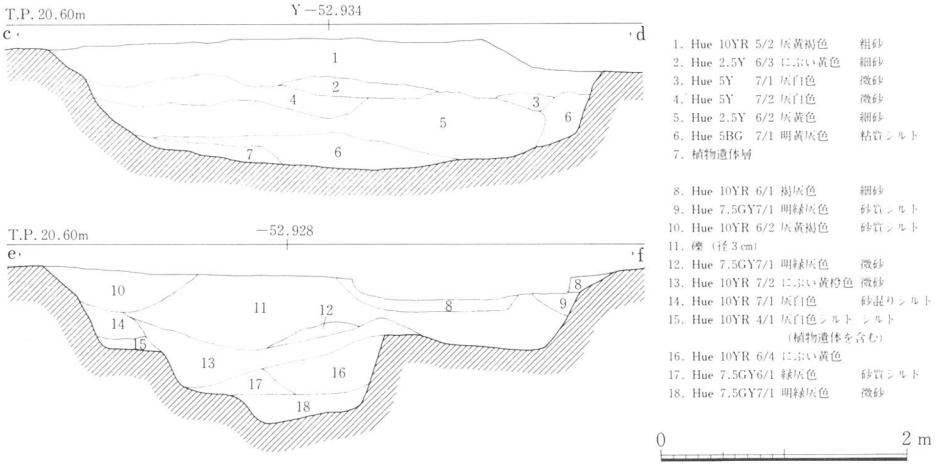
縄紋土器、弥生土器を検出した。弥生土器は図示できなかったが中期の壺の体部とみら

れる破片が出土している。

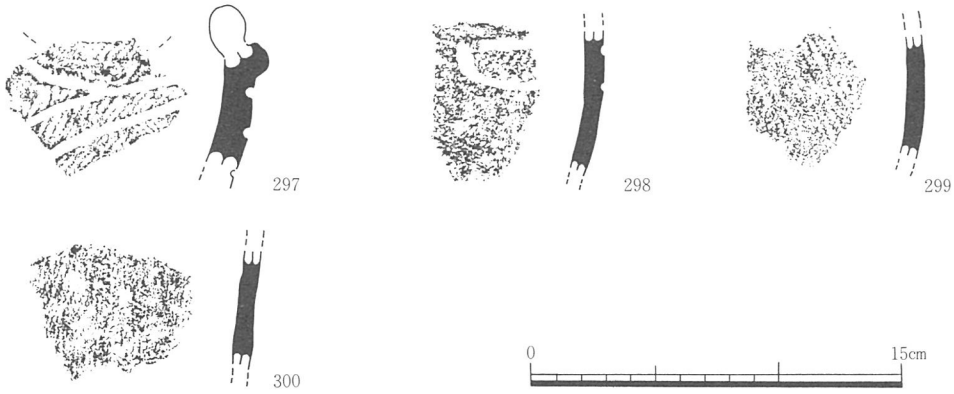
縄紋土器は全体に磨滅が著しい。297は口縁部付近の破片と考えられ、残存部上端に隆起部がある。外面全体にLRの縄紋を施し、太い沈線を巡らせる。現存部では縄紋を磨消した形跡はみられない。298は沈線が図の左上で途切れている。土器の上下関係については左右上下が90°ずれる可能性もある。299・300は器表面が荒れているものの縄紋を全体に施している。

以上の土器は後期前半に属するものと思われる。

064－ORは縄紋時代の遺物を含んでいるが、弥生時代中期のものと思われる土器も認められることから弥生時代中期頃のものと考えておきたい。　　（藤田・虎間）



第61図　064－OR断面土層図（1/60）

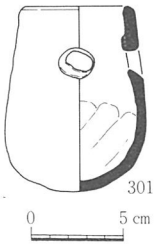


第62図　064－OR出土遺物（1/3）

069－OX（第63図）

069－OXはｂ区において検出した土坑状の遺構である。C21LQ周辺に位置している。一辺およそ12mを測る不整形な隅丸の三角形を呈する。深さ約1.4m、埋土は褐灰色系の粘質シルトである。

062－OSと重複しているが現地の観察により、当遺構の方が062－OSより先行することが確認されている。埋土にラミナ（葉層）が観察されたことから、滞水していたとみられる。遺構の西肩部で、弥生土器の蛸壺形土器を検出した。



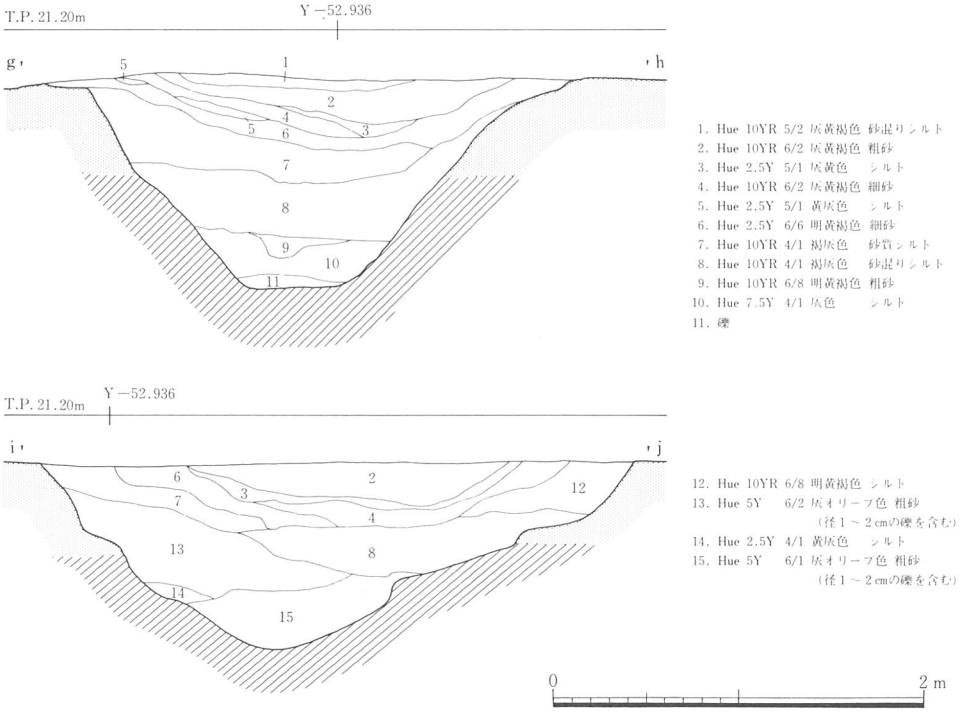
第63図　069－OX
出土遺物
(1/4)

301はコップ形を呈した小型の蛸壺形土器である。口縁部はやや内傾する。体部は下膨れ状を呈する。体部上半に紐孔を１個穿つ。

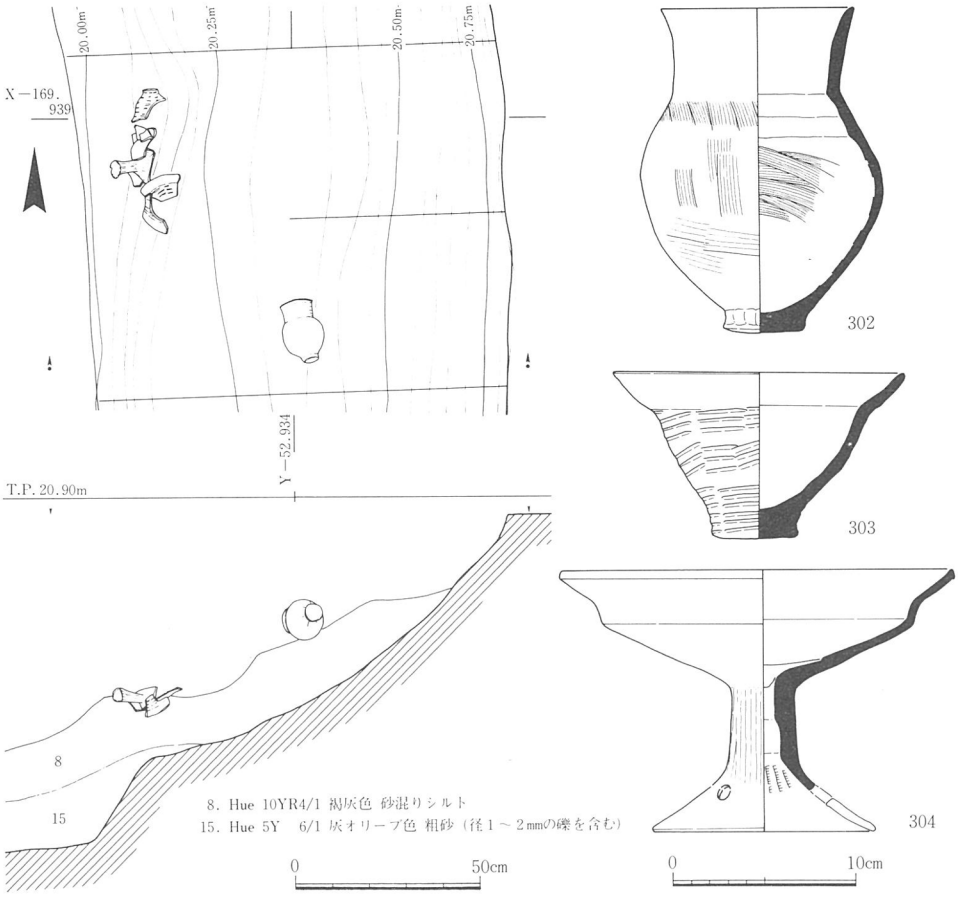
当遺構の時期は限定し難いが、062－OSにともなう遺構であった可能性も考えられることから、062－OSと同時期の弥生時代後期のものと考えておきたい。　（虎間）

062－OS（第64～68図、図版18・19・20・24・26）

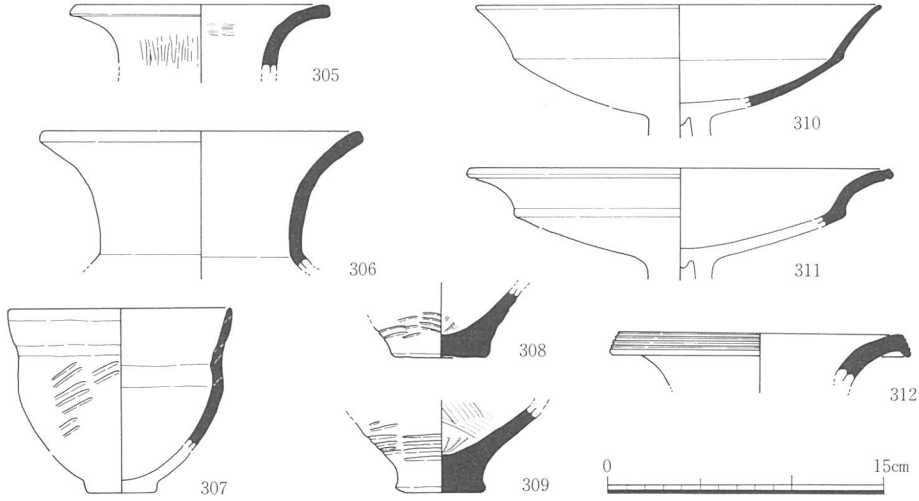
062－OSはａ、ｂ区の東側において検出した溝である。検出長約30m、幅2.6～3.2m、



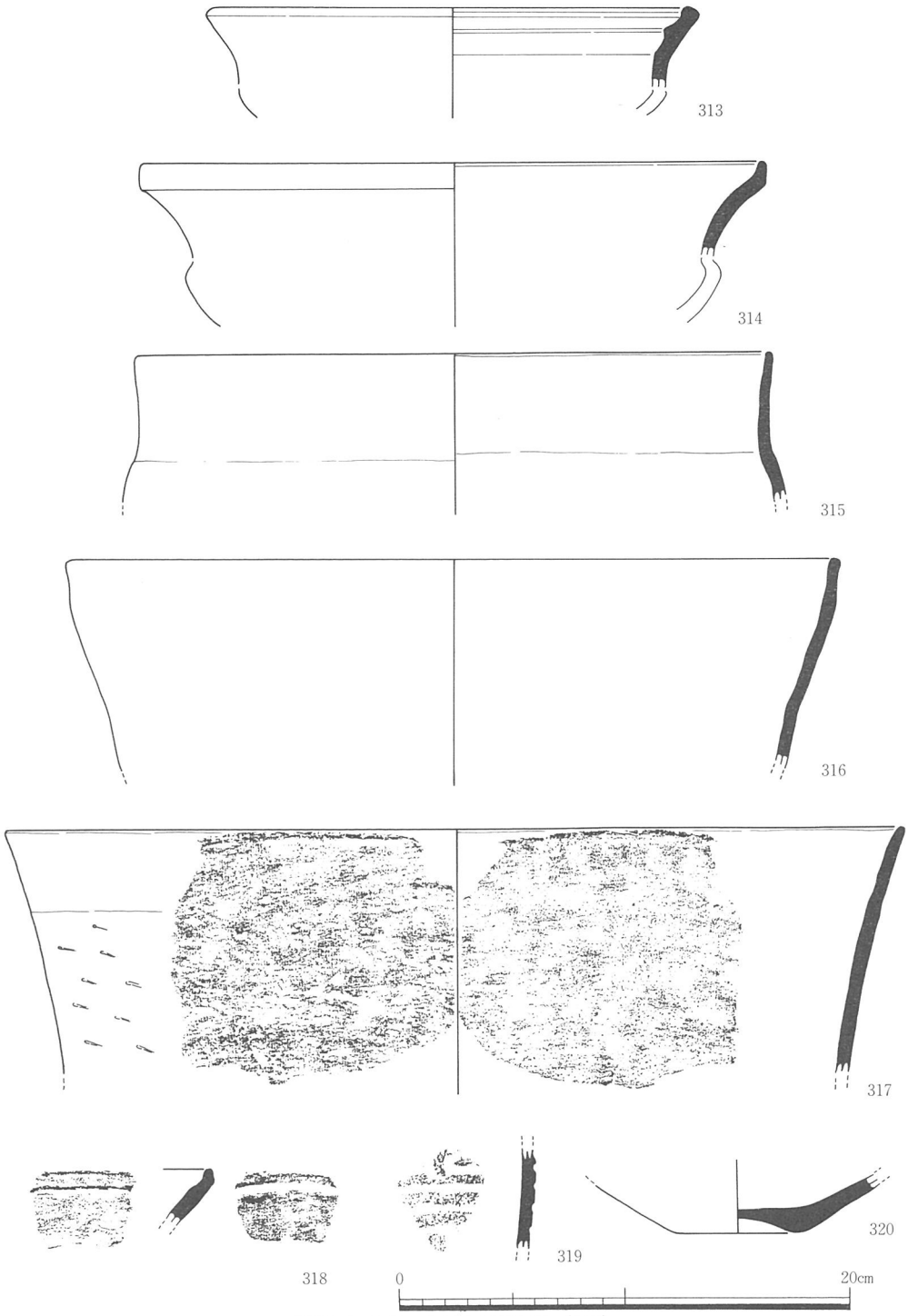
第64図　062－OS断面土層図（1/40）



第65図　062－OS遺物出土状況図（1/20）・出土遺物１（1/4）



第66図　062－OS出土遺物２（1/4）



第67図　062－OS出土遺物３（1/3）

深さ1.1mを測る。走行方向はほぼ北に向かい、064－ORに平行している。

埋土は大きく3層に分けることができる。最下層に礫が若干堆積しており、その上に灰褐色系の砂混じりシルトが堆積している。上層は砂層もしくは砂混じりのシルトである。中層の砂混じりシルトはやや粘性をもち、ラミナ（葉層）が認められた。

主に中層から縄紋土器、弥生土器、石製品を検出した。遺物の多くは細片であったが、東肩部のC21KG地点において壺と鉢、高杯をほぼ完形の状態で検出した。これらの遺物は、砂混じりシルト層のほぼ上面（第64図の8層）に、鉢と高杯がまとまった状態で、またそのやや上方に壺が横転した状態であった。

302・305・306は壺である。303・307は鉢である。308・309は甕の底部とみられる。304・310・311は高杯である。312は器台である。いずれも弥生時代後期の所産である。

縄紋土器は全体によく摩耗している。313・314は精製の浅鉢形土器で内外面を丁寧にナデもしくは研磨している。313は波状口縁の一部になるようで口縁内面をナデて段を作りだしている。

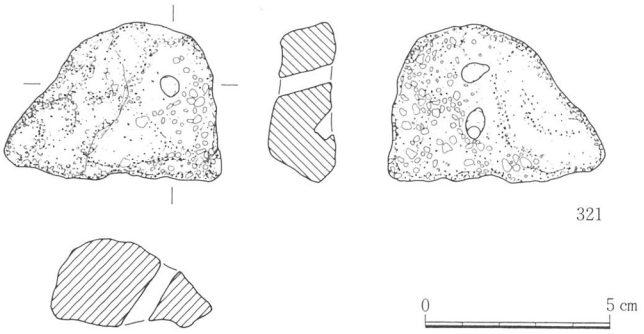
315～317は粗製の深鉢形土器で器表面の傷みが著しいが、いずれも外面に条痕紋を施し、内面を丁寧にナデている。315の口縁端部には浅いキザミを施した可能性もある。317の外面は一部に貝殻によるケズリのような痕跡を認められる。318は浅鉢形の土器であるが、外面の調整は粗雑で一部にケズリのような痕跡を残す。

319は太めのヘラ描き沈線で直線紋と曲線紋を施している。後期の可能性を持つが、他の土器はすべて晩期に属することから、ここでは晩期の中で考えておきたい。

321、用途不明の石製品である。円礫状の石材に2箇所の紐孔状の穿孔が認められる。1箇所は完全に穿孔し、もう1箇所は穿孔の途中で止めている。

出土遺物から062－OSは弥生時代後期に比定される。

（藤田・虎間）



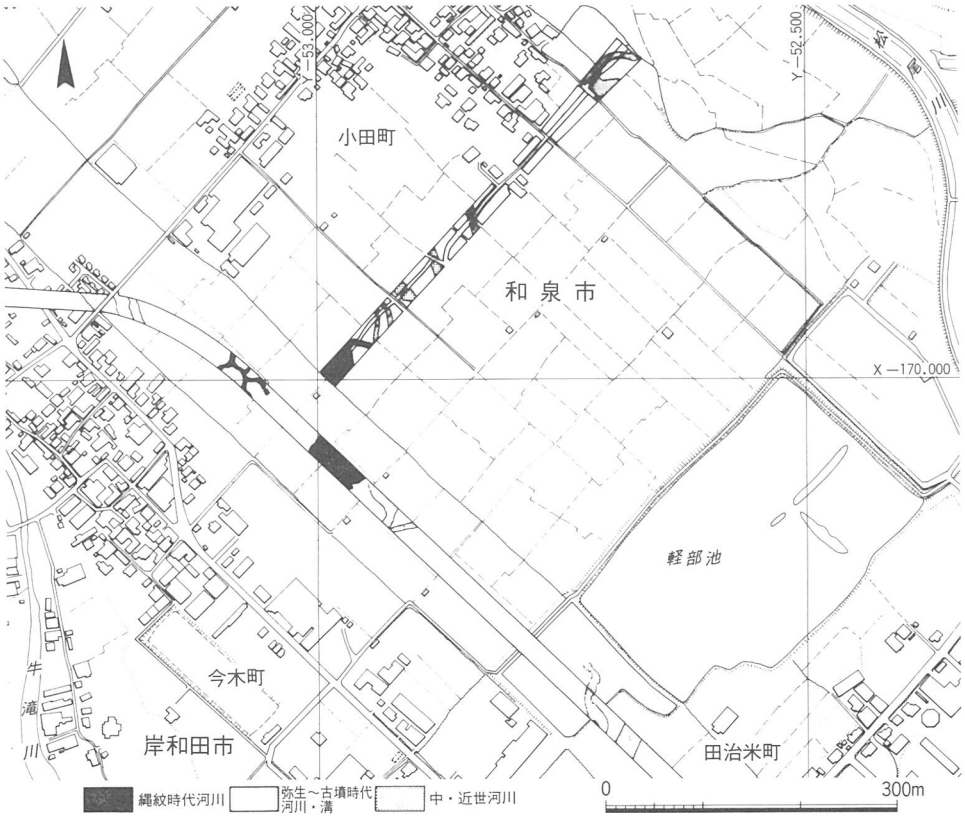
第68図　062－OS出土遺物4（1/2）

第V章　ま　と　め

小田遺跡で検出された遺構および遺物については前章までで地区ごとに詳述した。ここでは再び代表的な遺構を時期別にみることによってそれらの持つ意味なり意義をのべることによってまとめにかえたい。

縄紋時代のものでは自然河川（065－OR）を検出した。この河川は位置からみて、軽部池西遺跡で検出されている589－OR[註1]と同一と考えられる。この見解は両者から出土する土器形式からみても矛盾しない。同時期の遺構は自然河川以外には明確には認められず生活の痕跡は認めがたいが、第Ⅲ調査区で検出したドングリの貯蔵穴は同時期まで下る可能性のあることを示唆しておきたい。

弥生時代でも溝と自然河川を検出したのみである。075－ORでの完形の中期の大形土器



第69図　調査区周辺図（1/7500）

がほとんど磨滅することなく出土することからみれば周辺に同時期の集落が存在することが予測されるが、昭和初期のレンガ生産に伴う大規模な粘土取りによって削平された可能性が高い。

古墳時代の代表的な遺構としては、Ｉ－ｆ区で検出された５世紀代の掘立柱建物・土坑・溝と、７世紀代の溝がある。これらはいずれも地元の話では粘土取りをまぬがれた地域に該当しており本来は今少し南方へ拡がりをもっていた可能性が高い。前者は、いずれもほぼ同一時期に共存したと考えられ弧状を呈する溝（007－OS）については掘立柱建物と土坑群を区画するものと考えられる。なお、この溝からはわずか１点ではあるが滑石製の勾玉とその生産に関与した可能性の高い砥石が出土しており集落内において玉の生産のあった可能性を示しているといえる。なお、当該期の遺構は周辺地域ではほとんど認められない点を考えると、久米田池西方に所在する久米田池古墳群[註2]成立の基盤を考える上で意味深いものがある。また、７世紀の二条の溝の周辺では黒褐色のグライ土壌が検出されている。花粉分析を実施したところイネ科が70％を超える高い出現率を示しており水田土壌として利用されたことは疑いがなく、考古学的な検討による限り、小田遺跡における明確な水田の痕跡は当該期が上限とすることができる。蛇足ながら天平19年（747）２月11日の日付をもつ「法隆寺伽藍縁起并流記資財帳」に記載のある軽郷は当該地周辺に比定されており文献上からも注目されるところであるが、時期的には大きな矛盾のないことを指摘しておきたい。

中・近世も検出遺構の主たのものは自然河川であったが、特筆すべきものとして083－OSがある。083－OSは現行の条里制地割と同一でありその規模からみて坪境と考えて差し支えないと思われる。時期的には15世紀前葉以前の年代を与えることが可能で小田遺跡の景観が現状のあまり隔たりなくなるのはこの頃のようであり、発掘調査と周辺の事例による限りでは当地の条里制施行の上限は13世紀代とすることが可能であろう。　（山本）

註

註１　財団法人大阪府埋蔵文化財協会　『軽部池西遺跡－発掘調査報告書－』（大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第11輯）　昭和62年

註２　岸和田市　『岸和田市史』第１巻　昭和54年

付　遺物観察表

包含層出土遺物

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第4図 1 図版 25	C21NT 442	縄紋土器 深鉢	(16.0) (4.5) ——	外面 縄紋、沈線	1.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	硬	10YR 7/6 橙色 5Y 7/1 灰白色 5Y 3/1 オリーブ黒色	反転実測 5層
第4図 2 図版 25	C21MK 562	縄紋土器 浅鉢	(19.5) (7.2) ——	口縁部 ナデ 体部 ナデ	1.0㎜大の白色粒を含む。	中	5YR 6/2 褐灰色 10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	反転実測 5層
第4図 3 図版 25	C21LL 469	縄紋土器 深鉢	(26.0) (7.0) ——		1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	軟	7.5YR 7/3 にぶい橙色 7.5YR 2/1 黒色 7.5YR 2/1 黒色	反転実測 5層
第4図 4 図版 25	C21LK 443	縄紋土器 深鉢	(34.0) (6.1) ——		1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	軟	10YR 2/1 黒色 10YR 2/1 黒色 10YR 2/1 黒色	反転実測 5層
第4図 5 図版 25	C21ML 470	縄紋土器 深鉢	—— (4.0) ——	外面 沈線	1.0㎜大の白色粒を含む。	軟	10YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 5/3 にぶい褐色 10YR 3/3 暗褐色	5層
第4図 6 図版 25	C21MK 562	縄紋土器 深鉢	—— (6.2) ——	外面 沈線	1.0～4.0㎜大の白色粒を含む。	軟	10YR 5/2 灰黄褐色 10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色	5層
第4図 7 図版 27	C13LN 107	縄紋土器 深鉢	—— (3.8) ——	口縁部外面 キザミ目 突帯 半裁竹管によるキザミ目	1.0㎜大の白色粒を含む。	軟	10YR 4/2 灰褐黄色 10YR 6/3 にぶい黄橙色 10YR 4/2 灰褐黄色	2層
第4図 8 図版 25	C21IN 377	縄紋土器 浅鉢	—— (3.6) ——	口縁部内面 沈線	1.0～3.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	中	10YR 5/4 にぶい黄褐色 10YR 5/4 にぶい黄褐色 10YR 5/4 にぶい黄褐色	3層
第4図 9 図版 25	C21MK 447	縄紋土器 深鉢	—— (3.2) ——	外面 沈線	2.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 5/2 灰黄褐色 10YR 8/1 灰白色 10YR 6/2 灰黄褐色	5層
第5図 10 図版 27	—— 137	縄紋土器 深鉢	—— (3.7) ——	口縁端部 キザミ目 口縁部内面 縄紋 突帯 半裁竹管によるキザミ目	1.0㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	6層
第5図 11 図版 25	C21LL 528	縄紋土器 深鉢	—— (7.9) ——		1.0～3.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	軟	10YR 3/2 黒褐色 10YR 6/6 明黄褐色 10YR 3/2 黒褐色	5層
第5図 12 図版 27	—— 137	縄紋土器 深鉢	—— (3.7) ——	口縁部直下 キザミ目 外面 縄紋	1.0㎜大の白色粒を含む。	中	7.5YR 6/6 橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色	6層
第5図 13 図版 25	C21MN 399	縄紋土器 浅鉢	—— (2.2) ——	外面 沈線	1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	2層
第5図 14 図版 25	—— 835	縄紋土器 浅鉢	—— (2.0) ——	外面 沈線 口縁部上端 突起	1.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	中	2.5Y 3/2 黒褐色 2.5Y 5/2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 暗灰黄色	3層
第5図 15 図版	C21MK 562	縄紋土器 深鉢	—— (3.3) ——	外面 縄紋	1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 4/6 褐色	5層
第5図 16 図版	C21LL 468	縄紋土器 深鉢	—— (8.0) ——	外面 縄紋	1.0～2.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	中	10YR 8/2 灰白色 10YR 4/1 褐灰色 10YR 4/1 褐灰色	5層
第5図 17 図版	C21LL 469	縄紋土器 深鉢	—— (7.8) ——	外面 縄紋	1.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	中	10YR 4/3 にぶい黄橙色 10YR 6/3 にぶい黄橙色 10YR 4/3 にぶい黄橙色	5層
第5図 18 図版	C13JN 131	縄紋土器 深鉢	—— (4.8) 9.8	外面 羽状縄紋	1.0㎜大の白色粒を含む。	中	2.5Y 6/2 黄灰色 2.5Y 7/4 浅黄色 2.5Y 7/4 浅黄色	一部反転実測 3層

054－ＯＲ

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調（外面） （内面） （断面）	備考
第15図 40 図版	C09QC 869	弥生土器 壺	(25.4) (7.7) ——	口縁部外面　波状紋・扇状紋 口縁部内面　ヨコナデ 頸部　ナデ	1.0～ 3.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	7.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色 7.5Y　8/2 灰白色	反転実測
第15図 41 図版 21	C08UV 183	弥生土器 甕	(14.4) (27.8) 6.0	口縁部　ヨコナデ 体部外面　タタキ	2.0～ 4.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。雲母を含む。	中	10YR　5/2 黄灰褐色 10YR　4/1 褐灰色 ――――――	反転実測

002－ＯＳ

第16図 44 図版	—— 90	縄紋土器	—— (2.6) ——	口縁端部　キザミ目　口縁部外面　半裁竹管によるキザミ目　口縁部内面　縄紋	1.0㎜大の白色粒を含む。	軟	2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色 10YR　5/4 にぶい黄褐色	
第16図 45 図版	—— 90	弥生土器 甕	—— (3.2) 4.4	底部内面　板ナデ	0.1～ 0.3㎜大の白色粒を含む。	中	7.5Y　8/1 灰白色 7.5Y　8/2 灰白色 7.5Y　8/1 灰白色	
第16図 46 図版	C13TF 69	弥生土器 壺	—— (4.1) 5.2	体部外面　ナデ 底部外面　指オサエ 底部内面　ナデ	0.1～ 1.0㎜大の白色粒を含む。	中	2.5Y　8/3 灰白色 2.5Y　5/1 黄灰色 7.5YR 7/8 黄橙色	

055－ＯＲ

第18図 47 図版	—— 308	弥生土器 壺	(18.0) (5.3) ——	口縁部内面　列点紋 頸部外面　ハケ 頸部内面　ハケ	1.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	2.5Y　7/2 灰黄色 2.5Y　7/2 灰黄色 2.5Y　7/2 灰黄色	反転実測
第18図 48 図版	C08XU 949	弥生土器 壺	(14.9) (5.5) ——	口縁部内面　列点紋 頸部外面　簾状紋 頸部内面　ナデ	0.5～ 1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	2.5Y　8/4 淡黄色 7.5Y　7/6 橙色 2.5Y　4/1 黄灰色	反転実測
第18図 49 図版	C08XS 193	弥生土器 壺	(13.0) (3.6) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5㎜大の灰色・黒色粒を含む。	硬	7.5YR 8/4 浅黄橙色 10YR　7/2 にぶい黄橙色 10YR　8/3 浅黄橙色	反転実測 外面スス付着
第18図 50 図版	C08WS 197	弥生土器 壺	(16.0) (7.2) ——	口縁部　ヨコナデ 頸部外面　ハケのあとナデ 内面　ナデ　体部　ハケ	0.5㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR　7/3 にぶい黄橙色 2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色	反転実測
第18図 51 図版	—— 320	弥生土器 壺	(20.6) (3.0) ——	口縁端面　簾状紋・円形浮紋 口縁部　ヨコナデ 頸部　ナデ	0.5㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	硬	2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　7/2 灰黄色	反転実測
第18図 52 図版	C13BW 267	弥生土器 壺	(26.4) (10.2) ——	口縁端面　円形浮紋 口縁部　ヨコナデ 頸部　ナデ	0.5㎜大の白色・黒色粒を含む。	硬	7.5YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 8/2 灰白色 7.5YR 7/1 明褐灰色	反転実測
第18図 53 図版 29	C08XU 949	弥生土器 壺	(19.5) (4.8) ——	口縁部　ヨコナデ 頸部外面　ハケ 頸部内面　ナデ	2.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	硬	2.5Y　7/2 灰黄色 2.5Y　7/2 灰黄色 2.5Y　7/2 灰黄色	反転実測
第18図 54 図版 29	—— 308	弥生土器 壺	—— (5.4) ——	口縁端面　円形浮紋・指突紋	0.5～ 2.0㎜大の白色粒を多く含む。雲母を含む。	中	10YR　4/2 灰黄褐色 10YR　4/2 灰黄褐色 10YR　4/1 褐灰色	河内産
第18図 55 図版 29	—— 329	弥生土器 壺	—— (7.0) ——	口縁端面　円形浮紋・指突紋	0.5～ 2.0㎜大の白色粒を多く含む。雲母を含む。	硬	2.5Y　6/2 灰黄色 10YR　2/1 黒色 2.5Y　4/1 黄灰色	河内産
第18図 56 図版	C13AV 304	弥生土器 壺	(32.8) (4.0) ——	口縁部　ヨコナデ 頸部　ナデ	0.5～ 1.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	2.5Y　8/3 灰白色 7.5Y　8/4 浅黄橙色 7.5Y　8/2 灰白色	反転実測
第18図 57 図版 29	C13AY 287	弥生土器 壺	(36.8) (4.0) ——	口縁端面　簾状紋・指突紋 口縁部　ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	硬	2.5Y　6/3 にぶい黄色 10YR　6/4 にぶい黄橙色 10YR　7/2 にぶい黄橙色	反転実測

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第18図 58 図版	C08YW 243	弥生土器 甕	12.0 (3.5) ——	体部外面　ナデ 体部内面　ヘラケズリ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/2 灰白色 7.5YR 7/6 橙色	
第18図 59 図版	—— 321	弥生土器 甕	(12.5) (3.7) ——	口縁部　ヨコナデ 体部内面　ナデ	1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	7.5YR 6/6 橙色 10YR 8/2 灰白色 10YR 5/1 褐灰色	反転実測
第18図 60 図版 29	—— 270	弥生土器 甕	(17.0) (5.0) ——	口縁部　ヨコナデ 頸部内面　指オサエ 体部　ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 8/3 浅黄橙色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第18図 61 図版	C08XT 196	弥生土器 甕	(11.6) (6.0) ——	体部外面　ハケ	1.0㎜大の褐色粒を含む。	中	7.5YR 8/1 灰白色 10YR 8/2 灰白色 10YR 8/3 浅黄橙色	反転実測
第18図 62 図版	C08XU 949	弥生土器 甕	(29.2) (5.9) ——	口縁部　ヨコナデ 体部　ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	5YR 7/6 橙色 5YR 7/6 橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	反転実測
第19図 63 図版	C13AX 280	弥生土器 高坏	(20.6) (4.6) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	10YR 8/4 浅黄橙色 10YR 8/4 浅黄橙色 10YR 8/4 浅黄橙色	反転実測
第19図 64 図版	C08WS 197	弥生土器 高坏	—— (9.2) 13.5		1.0～2.0㎜大の灰色・黒色粒を含む。	硬	7.5YR 6/8 黄橙色 7.5YR 6/8 黄橙色 2.5YR 5/1 黄灰色	
第19図 65 図版 21	C13AY 295	弥生土器 壺	—— (21.6) 5.9	体部上半　ハケのちナデ 体部下半　ハケのちヘラミガキ　体部内面　板ナデ	2.0～4.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	2.5Y 7/2 灰黄色 2.5Y 6/1 黄灰色 2.5Y 6/1 黄灰色	一部反転実測
第19図 66 図版	—— 284	弥生土器 壺	(13.0) (3.9) ——	口縁端部　刻み目 口縁部　ヨコナデ 頸部　ナデ	0.5～2.0㎜大の赤色粒を含む。	中	7.5YR 8/1 灰白色 7.5YR 8/2 灰白色 7.5YR 8/2 灰白色	反転実測
第19図 67 図版	C13AX 316	弥生土器 壺	(15.4) (5.2) ——	口縁端面　竹管円形浮紋	1.0㎜大の白色粒を若干含む。	硬	10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色	反転実測
第19図 68 図版	C13AX 318	弥生土器 壺	(16.2) (2.1) ——	口縁端面　竹管円形浮紋	6.0㎜大の白色粒を若干含む。	軟	5YR 7/6 橙色 5YR 7/6 橙色 5YR 7/6 橙色	反転実測
第19図 69 図版 21	C08XU 949	弥生土器 壺	16.0 (4.9) ——	口縁端面　竹管紋 口縁部内面　波状紋・ヘラミガキ	3.0～5.0㎜大の白色粒を若干含む。	中	5YR 7/6 橙色 5YR 7/6 橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色	
第19図 70 図版	—— 292	弥生土器 壺	(17.8) (4.5) ——	口縁部　ヨコナデ 口縁部外面　円形浮紋 頸部　ナデ	1.0～2.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	10YR 7/6 明黄褐色 10YR 6/6 明黄褐色 10YR 6/6 明黄褐色	反転実測
第19図 71 図版	—— 285	弥生土器 甕	(16.4) (1.5) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5㎜大の白色・黒色粒を含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第19図 72 図版	—— 284	弥生土器 甕	(12.4) (5.0) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　タタキ 体部内面　ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 8/2 灰白色 5Y 4/1 灰色 10YR 8/4 浅黄橙色	反転実測
第19図 73 図版	—— 284	弥生土器 甕	(13.2) (3.7) ——	体部外面　タタキ 体部内面　ナデ	2.0～4.0㎜大の褐色粒を含む。	中	7.5YR 8/2 灰白色 7.5Y 8/1 灰白色 7.5YR 8/4 浅黄橙色	反転実測
第19図 74 図版 29	C13AY 287	弥生土器 甕	(14.0) (5.0) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　タタキ 体部内面　ナデ	0.5㎜大の白色・褐色粒を含む。	硬	2.5Y 8/3 淡黄色 10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色	反転実測
第19図 75 図版	C08XT 189	弥生土器 甕	(16.0) (5.5) ——	体部外面　タタキ	1.0㎜大の白色粒を含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 5Y 6/1 灰色 5Y 7/1 灰白色	反転実測
第19図 76 図版 29	C08XU 949	弥生土器 甕	(16.4) (5.9) ——	口縁部外面　ヨコナデ、内面板ナデ　体部外面　タタキ 内面　ナデ	0.5～2.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	硬	5YR 7/4 にぶい橙色 5YR 7/8 橙色 5YR 7/6 橙色	反転実測

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第19図 77 図版 29	C08VU 194	弥生土器 甕	(16.0) (6.5) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 タタキ	2.0～ 4.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	硬	5Y 8/1 灰白色 5Y 8/1 灰白色 5Y 8/1 灰白色	外面スス付着 反転実測
第19図 78 図版 29	—— 308	弥生土器 甕	(18.0) (9.0) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 タタキ 体部内面 ナデ	2.0㎜大の白色粒を多く含む。	硬	10YR 7/2 にぶい黄橙色 2.5Y 7/2 灰黄色 10YR 5/2 灰黄褐色	反転実測
第20図 79 図版	—— 284	弥生土器 甕	(16.2) (5.3) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 タタキ 体部内面 ナデ	0.5～ 2.0㎜大の白色粒を含む。	中	5YR 8/3 淡橙色 5YR 8/4 淡橙色 5YR 8/3 淡橙色	反転実測
第20図 80 図版 29	C13BW 283	弥生土器 甕	(19.6) (6.0) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 タタキ 体部内面 ナデ	5.0㎜大の褐色粒、7.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/1 灰白色	反転実測
第20図 81 図版	—— 320	弥生土器 鉢	(29.6) (4.3) ——	口縁部 ヨコナデ 体部 ナデ	0.5～ 1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	7.5YR 7/4 にぶい橙色 5YR 7/4 にぶい橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色	反転実測
第20図 82 図版	—— 329	弥生土器 鉢	(10.0) (4.3) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 タタキ 体部内面 ナデ	1.0～ 5.0㎜大の白色粒を含む。	中	2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色	反転実測
第20図 83 図版	C08YX 314	弥生土器 甕	—— (6.6) 4.8	体部外面 タタキ 底部外面 ナデ 底部内面 ハケ	0.5～ 3.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	10YR 8/4 浅黄橙色 10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/4 浅黄橙色	
第20図 84 図版	—— 308	弥生土器 甕	—— (5.2) ——	体部外面 タタキのちハケ 体部内面 ヘラケズリ	1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色	外面スス付着 (庄内式甕)
第20図 85 図版	C08XU 949	弥生土器 鉢	—— (4.0) 5.4		0.5㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 7/6 明黄褐色 10YR 6/6 明黄褐色 10YR 6/6 明黄褐色	底部穿孔
第20図 86 図版	—— 321	弥生土器	—— (2.4) 8.5	脚部 ナデ	2.0～ 5.0㎜大の白色・灰色・黒色粒を含む。	中	7.5YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色	
第20図 87 図版	C13AX 318	弥生土器	—— (4.6) 7.4	体部外面 タタキ 脚部外面 ナデ 脚部内面 板ナデ	2.0～ 4.0㎜大の白色粒を含む。	硬	7.5YR 7/2 明褐灰色 7.5YR 7/2 明褐灰色 7.5YR 7/6 橙色	一部反転実測
第20図 88 図版	C13AT 268	弥生土器	—— (4.5) (6.0)		1.0～ 2.0㎜大の白色粒、3.0㎜大の灰色粒を含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	一部反転実測
第20図 89 図版	—— 308	弥生土器 高坏	—— (5.9) (7.0)		1.0㎜大の白色・灰色・褐色粒を多く含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測 2段4方向スカシ
第20図 90 図版	—— 285	弥生土器 高坏	(17.0) (3.8) ——		0.5㎜大の白色粒を若干含む。	硬	7.5YR 8/4 浅黄橙色 2.5Y 6/1 黄灰色 7.5YR 8/4 浅黄橙色	反転実測
第20図 91 図版	—— 329	弥生土器 高坏	(19.0) (5.0) ——		1.0～ 3.0㎜大の白色粒を含む。	硬	5YR 7/6 橙色 5YR 7/8 橙色 5YR 7/6 橙色	反転実測
第20図 92 図版	—— 284	弥生土器 高坏	(13.6) (4.7) ——	口縁部 ヨコナデ 坏部 ナデ	0.5～ 1.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	7.5YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色	反転実測
第20図 93 図版	C08XT 189	弥生土器 高坏	(18.6) (11.4) ——	坏部 ヘラミガキ 脚部外面 ヘラミガキ	0.5㎜大の白色・灰色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 5/1 黄灰色	反転実測
第20図 94 図版	C13AX 293	弥生土器 高坏	—— (6.2) ——	坏部内面 ヘラミガキ 脚部外面 ヘラミガキ	1.0～ 2.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	硬	10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色	一部反転実測 4方向スカシ
第20図 95 図版	—— 321	弥生土器 高坏	—— (2.6) (13.0)	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 ヨコナデ	1.0～ 2.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	7.5YR 8/2 灰白色 7.5YR 8/2 灰白色 7.5YR 8/2 灰白色	反転実測 (庄内式)

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第20図 96 図版	—— 321	弥生土器 手焙形土器	—— (6.9) ——	蔵部端面　波状紋 蔵部外面　ナデ 蔵部内面　板ナデ	2.0～3.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	硬	2.5Y　8 2 灰白色 2.5Y　7 1 灰白色 10YR　4 1 褐灰色	

058－ＯＲ

第22図 100 図版	C13BV 264	土師器 壺	(17.7) (5.4) ——	口頸部　ナデ	1.0㎜大の白色・褐色粒を含む。	硬	2.5Y　8 2 灰白色 2.5Y　8 3 淡黄色 2.5Y　6 1 黄灰色	反転実測
第22図 101 図版	C09WB 273	土師器 壺	16.6 (5.9) ——		3.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	10YR　7 2 にぶい黄橙色 10YR　7 2 にぶい黄橙色 10YR　7 2 にぶい黄橙色	
第22図 102 図版 21	C09WA 225	土師器 壺	20.0 (8.2) ——	口縁部　ヨコナデ	1.0～2.0㎜大の白色粒を多く含む。	硬	7.5YR 7 6 橙色 5YR　5 8 明赤褐色 10YR　7 2 にぶい黄橙色	
第22図 103 図版	C08YY 218	土師器 壺	(19.6) (8.2) ——	口縁部　ナデ 口頸部　ハケ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	5YR　8 4 淡橙色 5YR　8 4 淡橙色 7.5YR 8 3 浅黄橙色	反転実測
第22図 104 図版 21	C13AW 271	土師器 壺	12.7 17.3 ——	口縁部　ヨコナデ　体部外面　ハケ、内面　ヘラケズリ 底部内面　指オサエ	0.5～2.0㎜大の白色・灰色・褐色粒を多く含む。	硬	5YR　7 4 にぶい橙色 10YR　8 2 灰白色 5YR　6 6 橙色	
第22図 105 図版 21	C13AW 233	土師器 壺	12.0 19.0 ——	口縁部内面　ヨコナデ 体部内面　ヘラケズリ 底部内面　指オサエ	3.0㎜大の白色・赤褐色粒を多く含む。	中	5YR　6 6 橙色 5YR　6 6 橙色	
第22図 106 図版	C09XA 198	土師器 壺	—— (7.3) ——		1.0～2.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	2.5Y　8 2 灰白色 2.5Y　7 2 灰黄色 2.5Y　8 2 灰白色	反転実測 と同一個体
第22図 107 図版	C09XA 198	土師器 壺	—— (12.9) ——	体部外面　ハケ	1.0～2.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	2.5Y　8 2 灰白色 2.5Y　8 2 灰白色 2.5Y　8 2 灰白色	と同一個体
第22図 108 図版	C13CV 269	土師器 甕	(14.6) (10.5) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ 体部内面　ヘラケズリ	1.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	2.5Y　8 2 灰白色 2.5Y　8 2 灰白色 2.5Y　8 2 灰白色	反転実測
第23図 109 図版	C13BV 264	土師器 甕	(17.4) (3.5) ——	口縁部　ヨコナデ 頸部　ナデ	0.5㎜大の褐色粒を含む。	中	7.5YR 8 4 浅黄橙色 2.5Y　8 3 淡黄色 2.5Y　8 2 灰白色	反転実測
第23図 110 図版	C13AV 289	土師器 甕	(14.0) (4.2) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ヨコナデ 体部内面　ヘラケズリ	0.5㎜大の灰色粒を含む。	硬	10YR　8 3 浅黄橙色 2.5Y　8 3 淡黄色 10YR　7 8 黄橙色	反転実測
第23図 111 図版	C13CV 269	土師器 甕	(16.2) (6.7) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ 体部内面　ヘラケズリ	0.5㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	硬	10YR　5 2 灰黄褐色 2.5Y　4 1 黄灰色 7.5YR 7 6 にぶい橙色	反転実測
第23図 112 図版	C08XB 245	土師器 甕	(13.9) (8.6) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ 体部内面　ヘラケズリ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	10YR　8 2 灰白色 10YR　6 1 褐灰色 10YR　7 2 にぶい黄橙色	反転実測
第23図 113 図版 21	C09XA 213	土師器 甕	17.6 (12.0) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ 体部内面　ヘラケズリ	0.5㎜大の黒色粒を含む。	硬	10R　5 1 赤灰色 7.5YR 4 1 褐灰色 7.5YR 5 1 褐灰色	
第23図 114 図版	—— 292	土師器 甕	(16.0) (10.3) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ 体部内面　ヘラケズリ	0.5～2.0㎜大の白色粒を含む。	中	10YR　8 2 灰白色 10YR　8 1 灰白色 10YR　7 1 灰白色	反転実測
第23図 115 図版 21	C08WT 187	土師器 甕	(15.0) 20.7 ——	口縁部　ヨコナデ　体部外面　ハケ、内面　ヘラケズリ 底部内面　指オサエ	0.5㎜大の灰色粒を含む。	硬	10YR　7 2 にぶい黄橙色 2.5Y　7 2 灰黄色 2.5Y　7 2 灰黄色	一部反転実測
第23図 116 図版	C08YY 272	土師器 甕	—— (17.2) ——	体部外面　ハケ 体部内面　ヘラケズリ 底部内面　指オサエ	1.0㎜大の白色粒を含む。	中	2.5Y　8 2 灰白色 2.5Y　5 1 黄灰色 2.5Y　8 2 灰白色	反転実測

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第23図 117 図版	—— 284	土師器 小型丸底壺	(7.9) 5.8 ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ナデ 体部内面　板ナデ	0.5～2.0㎜大の白色粒を含む。	中	5YR 8/3 淡橙色 10YR 8/3 淡黄橙色 5YR 7/6 橙色	
第23図 118 図版	C08YW 322	土師器 壺	—— (4.0) 2.6	底部内面　板ナデ	3.0㎜大の白色・灰色・褐色粒を多く含む。	硬	2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色	
第23図 119 図版 21	C13AV 294	土師器 小型丸底壺	—— (7.3) ——	頸部　ヨコナデ　体部外面　ハケ　底部外面　ナデ、内面　指オサエ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	10YR 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色	
第23図 120 図版 21	C09XC 219	土師器 壺	(10.2) 9.9 ——	口縁部　ヨコナデ　体部外面　指オサエ・ナデ、内面　ヨコナデ　底部内面　指オサエ	0.5～5.0㎜大の白色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 5YR 8/3 淡橙色	一部反転実測
第23図 121 図版 21	C08VT 192	土師器 壺	(8.3) 8.2 ——	口縁部　ヨコナデ 体部　ナデ 底部内面　指オサエ	1.0～5.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	硬	10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/3 浅黄橙色 5YR 8/3 淡橙色	一部反転実測
第23図 122 図版 21	C13AY 262	土師器 壺	8.2 (7.7) ——	頸部内面　指オサエ	0.5～4.0㎜大の白色粒を含む。	中	7.5YR 7/4 にぶい橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	
第24図 123 図版	C08WT 188	土師器 小型丸底鉢	(9.2) (7.2) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ヘラミガキ 体部内面　ナデ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第24図 124 図版	—— 320	土師器 小型丸底鉢	(8.4) (8.2) ——	口縁部外面　ヘラミガキ、内面　ナデ　体部外面　ヘラミガキ、内面　指オサエ・ナデ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色	反転実測
第24図 125 図版	C08YW 243	土師器 小型丸底鉢	(10.8) (6.1) ——		0.5㎜大の白色粒を含む。	中	5YR 7/6 橙色 2.5Y 6/8 橙色 5YR 7/6 橙色	
第24図 126 図版 21	C13BY 305	土師器 小型丸底鉢	(14.2) (4.6) ——	口縁部　ヨコナデ 体部内面　ヘラミガキ 底部外面　ヘラケズリ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色 7.5YR 7/4 にぶい橙色	反転実測
第24図 127 図版 22	C08YY 207	土師器 高坏	(17.4) (11.2) ——	坏部外面　ハケ 脚部外面　ハケのちヘラミガキ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	7.5Y 8/6 浅黄橙色 7.5YR 8/6 浅黄橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色	一部反転実測
第24図 128 図版	C08YW 265	土師器 高坏	(15.8) (12.8) ——		1.0～3.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	軟	5YR 7/4 にぶい橙色 5YR 7/4 にぶい橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色	反転実測
第24図 129 図版 22	C09WB 215	土師器 高坏	17.6 (5.7) ——	口縁部　ヨコナデ 坏部　ハケ	0.5～3.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	7.5YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 8/4 浅黄橙色	
第24図 130 図版 22	C08XU 943	土師器 高坏	(16.4) (6.1) ——		0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	中	5YR 8/4 淡橙色 7.5YR 8/6 浅黄橙色 7.5YR 8/2 灰白色	反転実測
第24図 131 図版	C13AW 266	土師器 高坏	(15.2) (5.7) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	7.5YR 7/8 黄橙色 7.5YR 7/6 橙色 7.5YR 7/8 黄橙色	反転実測
第24図 132 図版 22	C08YY 218	土師器 高坏	(16.4) (5.3) ——		3.0㎜大の白色粒を若干含む。	硬	7.5YR 7/4 にぶい橙色 7.5YR 7/4 にぶい橙色 10YR 8/2 灰白色	反転実測
第24図 133 図版	C08YX 226	土師器 高坏	(16.0) (6.8) ——	坏部内面　ヘラミガキ	0.5～2.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	10YR 6/3 にぶい黄橙色 5YR 7/4 にぶい橙色 5YR 6/6 橙色	反転実測
第24図 134 図版	—— 292	土師器 高坏	(15.0) (4.6) ——	口縁部　ヨコナデ 坏部　ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/3 浅黄橙色	反転実測
第24図 135 図版	C09YA 216	土師器 高坏	(16.4) (5.6) ——	坏部内面　ヘラミガキ	0.5～2.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	5YR 7/6 橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色	反転実測

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第24図 136 図版	C13AY 257	土師器 高坏	(20.8) (5.6) ——	口縁部　ヨコナデ 坏部外面　ナデ 坏部内面　ナデ・ヘラミガキ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	5YR 6/6 橙色 7.5YR 7/6 にぶい橙色 5YR 6/6 橙色	反転実測
第24図 137 図版	C08YT 871	土師器 高坏	—— (8.9) (12.4)	脚部外面　ヘラミガキ 脚部内面　絞り痕	0.5㎜大の白色・灰色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第24図 138 図版 22	—— 284	土師器 高坏	—— (8.9) 11.8	脚部外面　ハケのちナデ 脚部内面　ハケのちナデ・板ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 7/6 明黄褐色 10YR 5/1 褐灰色 10YR 8/4 浅黄橙色	
第24図 139 図版 22	C13CV 269	土師器 高坏	—— (7.1) (12.4)	脚部内面　指オサエ	1.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	軟	7.5YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 8/4 浅黄橙色 10YR 8/3 浅黄橙色	一部反転実測
第24図 140 図版	C13AV 288	土師器 高坏	—— (7.8) (13.1)	脚部外面　ヘラミガキ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	5YR 8/4 淡橙色 7.5YR 8/4 浅黄橙色 5YR 8/4 淡橙色	反転実測
第24図 141 図版	C08YY 218	土師器 高坏	—— (8.2) ——	脚部内面　絞り痕・ハケ	0.5㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	脚部外面モミ圧痕
第25図 142 図版	C08YY 313	弥生土器 壺	(12.8) (3.8) ——	口縁部　ヨコナデ 頸部　ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	硬	2.5Y 7/2 灰黄色 2.5Y 7/2 灰黄色 2.5Y 7/3 浅黄色	反転実測
第25図 143 図版	C09YA 221	弥生土器 鉢	—— (6.7) ——	体部外面　簾状紋	1.0㎜大の白色粒を含む。	軟	10YR 8/2 灰白色 10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 6/1 褐灰色	
第25図 144 図版	C09YA 221	弥生土器 高坏	—— (7.5) ——		1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	7.5YR 7/8 黄橙色 7.5YR 7/8 黄橙色 7.5YR 7/8 黄橙色	
第25図 145 図版	C08YX 261	弥生土器 壺	—— (11.5) (9.0)		3.0～5.0㎜大の赤色粒を含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色	
第25図 146 図版	C08YY 313	弥生土器 甕	(13.8) (5.8) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　タタキ	0.5～2.0㎜大の白色粒を含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 10YR 8/1 灰白色 10YR 8/2 灰白色	反転実測
第25図 147 図版 21	C08YY 207	弥生土器 鉢	(10.1) 7.3 2.5	口縁部　ヨコナデ 体部外面　タタキのちナデ 体部内面　板ナデのちナデ	1.0～5.0㎜大の白色粒を多く含む。	硬	2.5Y 6/2 灰黄色 10YR 4/1 褐灰色 2.5Y 5/1 黄灰色	一部反転実測
第25図 148 図版	C09XC 224	弥生土器 高坏	—— (6.2) ——		0.5～1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	5YR 8/4 淡橙色 5YR 8/3 淡橙色 5YR 7/6 橙色	
第25図 149 図版	C09XC 224	弥生土器 高坏	—— (7.3) ——		0.5～2.0㎜大の白色粒を含む。	硬	7.5YR 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 5YR 7/4 にぶい橙色	一部反転実測 2方向スカシ
第25図 150 図版	C09YA 216	弥生土器 高坏	—— (4.3) ——		0.5㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 7/4 にぶい黄橙色 2.5Y 7/3 浅黄色 2.5Y 6/2 灰黄色	一部反転実測

007－OS

第30図 151 図版	C13AT 873	土師器 壺	(15.6) (4.9) ——		2.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	5YR 6/6 橙色 5YR 7/4 にぶい橙色 5YR 4/1 褐灰色	反転実測
第30図 152 図版	C13BT 923	土師器 壺	(18.0) (7.6) ——	口縁部　ヨコナデ	1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	10YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 5/1 褐灰色	反転実測
第30図 153 図版	C13AT ・BT 875・935	土師器 壺	(18.4) (5.5) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 10YR 5/4 にぶい黄褐色 2.5Y 6/1 黄灰色	反転実測

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第30図 154 図版	C13BT 932	土師器 壺	(18.0) (6.0) ——		0.5㎜大の白色粒を含む。	硬	7.5YR 7/6 橙色 7.5YR 7/6 橙色 7.5YR 7/6 橙色	反転実測
第30図 155 図版	C13AT 874	土師器 壺	(19.4) (6.4) ——		4.0㎜大の白色・黒色粒を多く含む。	中	10YR 6/4 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 8/1 灰白色	反転実測
第30図 156 図版	C13AT 931	土師器 甕	(13.3) (3.5) ——	口縁部　ヨコナデ	1.0～2.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 8/4 浅黄橙色 10YR 8/1 灰白色	反転実測
第30図 157 図版	C13AT 875	土師器 甕	(14.7) (2.4) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	7.5YR 7/4 にぶい橙色 7.5YR 7/4 にぶい橙色 7.5YR 6/4 にぶい橙色	反転実測
第30図 158 図版	C13CU 918	土師器 甕	(14.4) (5.6) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5～1.0㎜大の白色粒を含む。	中	7.5YR 8/4 浅黄橙色 10YR 8/4 浅黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色	反転実測
第30図 159 図版	C13AT 873	土師器 甕	(17.0) (4.8) ——		1.0～4.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 8/1 灰白色 10YR 6/3 にぶい黄橙色	反転実測
第30図 160 図版 22	C13AT 888	土師器 甕	(15.8) (8.1) ——	体部内面　指オサエ	0.5～2.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色	反転実測
第30図 161 図版	C13AT 892	土師器 甕	(16.4) (7.1) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ナデ 体部内面　指オサエ	0.5～1.0㎜大の灰色粒を含む。	中	10YR 8/1 灰白色 10YR 8/2 灰白色 10YR 7/6 明黄褐色	反転実測
第30図 162 図版	C13BT 947	土師器 甕	(15.0) (9.7) ——	口縁部内面　ハケのちヨコナデ　体部外面　ハケ、内面　指オサエ・ヘラケズリ	0.5㎜大の白色・褐色・赤色粒を含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 10YR 8/1 灰白色 10YR 7/6 明黄褐色	反転実測
第30図 163 図版	C13BU 252	土師器 甕	(13.5) (6.3) ——	体部内面　指オサエ	1.0～3.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第30図 164 図版	C13BV 100	土師器 甕	(13.2) (7.0) ——	口縁部　ヨコナデ　体部外面　ハケ、体部内面　指オサエ・ヘラケズリ	0.5㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	硬	10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色 5YR 7/4 にぶい橙色	反転実測
第30図 165 図版	C13BT 947	土師器 甕	(14.0) (6.3) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ、 内面　指オサエ・ヘラケズリ	1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	10YR 8/2 灰白色 10YR 8/1 灰白色 10YR 8/1 灰白色	反転実測
第30図 166 図版 22	C13CU 918	土師器 甕	(14.8) (11.7) ——		1.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 5YR 5/8 明赤褐色	反転実測
第31図 167 図版	C13BT 937・938	土師器 甕	(16.6) (3.4) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5～1.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	7.5YR 7/4 にぶい橙色 7.5YR 8/3 浅黄色 7.5YR 8/3 浅黄色	反転実測
第31図 168 図版	C13AT 914	土師器 甕	(16.0) (4.7) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5～3.0㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	7.5YR 7/6 橙色 7.5YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 7/6 橙色	反転実測
第31図 169 図版 22	C13AT 931	土師器 甕	(13.6) (14.0) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ、 内面　指オサエ・ヘラケズリ	0.5～3.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 6/2 灰黄褐色 2.5Y 6/1 黄灰色 2.5Y 6/1 黄灰色	反転実測
第31図 170 図版 22	C13BU 250	土師器 甕	(13.2) (11.7) ——		0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	中	2.5Y 8/4 淡黄色 10YR 8/2 灰白色 10YR 7/1 灰白色	反転実測
第31図 171 図版	C13BV 099	土師器 甕	(15.4) (9.8) ——	体部内面　指オサエ・ヘラケズリ	2.0㎜大の白色・黒色・赤色粒を含む。	中	7.5YR 7/3 にぶい橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 8/1 灰白色	反転実測
第31図 172 図版	C13BU 917	土師器 甕	(14.2) (9.5) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ、 内面　指オサエ・ヘラケズリ	1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	10YR 8/2 灰白色 10YR 8/1 灰白色 10YR 8/1 灰白色	反転実測

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第31図 173 図版	C13AT 910	土師器 甕	(15.0) (10.0) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ 体部内面　ヘラケズリ	1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	7.5YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 8/4 浅黄橙色	反転実測
第31図 174 図版	C13AT 909	土師器 甕	(14.6) (6.7) ——		0.5～3.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	軟	7.5YR 7/4 にぶい橙色 7.5YR 8/3 浅黄色 7.5YR 8/3 浅黄色	反転実測
第31図 175 図版	C13BU 925	土師器 甕	(16.0) (5.7) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ハケ 体部内面　ナデ	0.5㎜大の黒色粒を含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 10YR 8/3 浅黄橙色 2.5Y 8/1 灰白色	反転実測
第31図 176 図版 22	C13BU 928	土師器 甕	(15.6) (25.8) ——	口縁下外面　ヨコナデ 内面　ハケ　体部外面　ハケ 底部内面　指オサエ	2.0㎜大の白色・褐色・黒色粒を含む。	中	2.5Y 8/1 灰白色 2.5Y 8/1 灰白色 5YR 5/8 明赤褐色	反転実測
第31図 177 図版 22	C13BU 926	土師器 甕	(12.9) (15.3) ——		1.0～3.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	10YR 6/3 にぶい黄橙色 10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/3 浅黄橙色	反転実測
第32図 178 図版 22	C13AT 911	土師器 甕	(10.6) (11.0) ——	口縁部内面　ハケのちヨコナデ　体部外面　ナデ・ハケ、内面　ヘラケズリ	1.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	7.5YR 6/1 褐灰色 10YR 6/1 褐灰色 10YR 5/3 にぶい黄褐色	反転実測
第32図 179 図版 22	C13BU 246	土師器 壺	(9.2) (9.2) ——		0.5㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 7/6 橙色 7.5YR 8/6 浅黄橙色	反転実測
第32図 180 図版 22	C13BT 921	土師器 壺	(8.8) (9.5) ——	口縁部　ヨコナデ 体部内面　ナデ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	中	10YR 8/2 灰白色 10YR 6/1 褐灰色 10YR 5/1 褐灰色	反転実測
第32図 181 図版	C13BT 947	土師器 壺	(9.0) (5.6) ——	口縁部　ヨコナデ	1.0～3.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	2.5Y 7/1 灰白色 10YR 7/1 灰白色 10YR 8/3 浅黄橙色	反転実測
第32図 182 図版 23	C13BT 933・935	土師器 壺	(8.8) (8.2) ——		0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	軟	10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色	一部反転実測
第32図 183 図版 23	C13BU 924	土師器 小型丸底鉢	9.6 (6.1) ——		1.0～5.0㎜大の白色粒を含む。	軟	5YR 7/6 橙色 7.5YR 7/6 橙色 7.5YR 7/6 橙色	
第32図 184 図版 21	C13AT 904	土師器 小型丸底鉢	—— (7.3) ——		1.0～5.0㎜大の白色粒を多く含む。	軟	10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 6/1 褐灰色 10YR 6/1 褐灰色	反転実測
第32図 185 図版 23	C13BT 877	土師器 壺	(6.7) (6.9) ——	体部内面　ナデ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 10YR 6/4 にぶい黄橙色	反転実測
第32図 186 図版	C13BT 932	土師器 壺	(9.3) (9.5) (5.2)		0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8/3 淡黄色 5Y 5/1 灰色 2.5Y 8/3 淡黄色	反転実測
第32図 187 図版	C13BT 919・923	土師器 把手付き椀	(10.4) (5.7) ——		0.5～1.0㎜大の白色・黒色粒を若干含む。	軟	10YR 5/3 赤褐色 10YR 5/3 赤褐色 10YR 5/3 赤褐色	反転実測
第33図 188 図版	C13BT 947	土師器 高坏	(16.0) (6.0) ——		0.5～3.0㎜大の白色粒を含む。	中	7.5YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 8/6 浅黄橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色	反転実測
第33図 189 図版	C13BT 936	土師器 高坏	(17.4) (6.1) ——	坏部外面　ハケ	1.0～2.0㎜大の灰色・褐色粒を含む。	中	10YR 7/6 明黄褐色 10YR 7/1 灰白色 10YR 6/1 褐灰色	反転実測
第33図 190 図版	C13BT 945	土師器 高坏	(18.0) (5.6) ——		1.0～3.0㎜大の灰色粒を含む。	中	10YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 8/8 黄橙色 7.5YR 7/6 橙色	反転実測
第33図 191 図版	C13BT 947	土師器 高坏	(17.8) (8.1) ——		0.5㎜大の白色粒を含む。	中	7.5YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 8/6 浅黄橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色	一部反転実測

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第33図 192 図版 23	C13BU 916	土師器 高坏	19.2 (5.5) ——		0.5㎜大の灰色粒を含む。	中	7.5YR 7/6 橙色 5YR 6/6 橙色 5YR 6/6 橙色	
第33図 193 図版	C13BT 947	土師器 高坏	(19.9) (5.4) ——	坏部内面 ハケ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	7.5YR 7/4 にぶい橙色 7.5YR 5/2 灰褐色 10YR 8/3 浅黄橙色	反転実測
第33図 194 図版	C13BT 945	土師器 高坏	(17.2) (5.4) ——		0.5㎜大の白色・黒色粒を含む。	中	2.5Y 8/4 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色	反転実測
第33図 195 図版	C13AT 890	土師器 高坏	(17.6) (5.5) ——	脚部外面 ハケ	2.0㎜大の灰色粒を含む。	中	10YR 8/4 浅黄橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 8/3 浅黄橙色	反転実測
第33図 196 図版 23	C13AT 915	土師器 高坏	18.8 (5.3) ——		0.5㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 6/1 褐灰色 10YR 7/6 明黄褐色	
第33図 197 図版 23	C13AT 891・902	土師器 高坏	(20.8) (5.8) ——	口縁部 ヨコナデ 坏部外面 ナデ・指オサエ	1.0～2.0㎜大の白色・灰色・褐色粒を含む。	中	10YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 7/6 橙色 7.5YR 7/6 橙色	反転実測
第33図 198 図版 23	C13AT 907・908	土師器 高坏	22.2 (7.5) ——		0.5～3.0㎜大の白色粒を含む。	中	2.5Y 6/6 橙色 10YR 8/4 浅黄橙色 7.5Y 6/6 橙色	
第33図 199 図版 23	C13AT 886	土師器 高坏	—— (8.3) (11.4)	脚部内面 ナデ	0.5～3.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	7.5YR 7/6 橙色 5YR 8/3 淡黄色 5YR 8/4 淡黄色	一部反転実測
第33図 200 図版 23	C13AT 898	土師器 高坏	—— (7.6) 11.9		0.5㎜大の白色粒を含む。	軟	5YR 7/8 橙色 5YR 6/8 橙色 5YR 7/8 橙色	
第33図 201 図版 23	C13BU 249	土師器 高坏	—— (7.4) 13.0	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 ナデ	0.5～1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 8/1 灰白色 10YR 6/1 褐灰色 10YR 8/1 灰白色	1方向スカシ
第33図 202 図版	C13AT 885	土師器 高坏	—— (7.2) 11.0	脚部内面 絞り痕	1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	軟	2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 7/1 灰白色	
第33図 203 図版 23	C13AT 905	土師器 高坏	—— (6.9) 12.0		0.5㎜大の白色粒を含む。	中	5Y 7/6 橙色 5Y 7/6 橙色 5Y 7/6 橙色	
第33図 204 図版	C13AT 873	土師器 高坏	—— (3.0) (8.4)	脚部外面 ナデ	0.5㎜以下の赤色粒を含む。	中	10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色	反転実測
第33図 205 図版	C13BT 945	土師器 高坏	—— (3.1) (11.2)	脚部内面 ハケ	0.5～1.0㎜大の黒色粒を含む。	硬	2.5Y 7/1 灰白色 10YR 7/2 にぶい黄橙色 7.5YR 7/6 橙色	反転実測

049－OO

第37図 210 図版	C13BW 151 153	土師器 壺	(15.5) (6.1) ——	口縁部 ヨコナデ	3.0㎜大の白色・褐色粒を含む。	軟	7.5Y 8/2 灰白色 7.5Y 8/2 灰白色 5YR 6/6 橙色	反転実測
第37図 211 図版	C13BW 150	土師器 高坏	—— (2.2) ——		2.0㎜大の白色粒を多く含む。	中	7.5YR 7/6 橙色 7.5YR 7/4 にぶい橙色 7.5YR 7/4 にぶい橙色	

050－OO

第37図 212 図版 23	C13BX 182	土師器 壺	13.1 16.3 ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ、 内面 ヘラケズリ・指オサエ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	硬	10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	

051－ＯＯ

挿図 No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値 h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第37図 213 図版 23	C13BX 154	土師器 壺	(7.9) 9.7 ——	口縁部 ヨコナデ 頸部外面 ハケ 体部内面 ナデ・指オサエ	1.0㎜大の白色・褐色粒を多く含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	一部反転実測
第37図 214 図版 23	C13BX 155 162	土師器 甕	(15.8) (22.0) ——	体部外面 ハケ	3.0～5.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	軟	10YR 7/1 灰白色 5YR 6/6 橙色 5YR 6/6 橙色	反転実測

052－ＯＯ

第37図 215 図版 23	C13AX 166	土師器 壺	8.1 8.1 ——	口縁部 ヨコナデ 体部内面 ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	2.5Y 7/2 灰黄色 2.5Y 7/1 灰白色 10YR 7/4 にぶい黄橙色	反転実測

053－ＯＯ

第37図 216 図版 24	C13AX 172	土師器 小型丸底鉢	(6.9) 6.3 ——		1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	軟	10YR 8/3 浅黄橙色 2.5Y 8/3 淡黄色	一部反転実測

106－ＯＯ

第37図 217 図版 24	C08UX 851	須恵器 把手付き椀	9.1 6.3 6.0	口縁部 回転ナデ 体部 ナデ 底部外面 ヘラ切りのちナデ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 6/0 灰色 N 6/0 灰色	

109－ＯＯ

第37図 218 図版	C13AT 944	土師器 甕	(15.4) (3.5) ——		0.5㎜大の白色粒を含む。	軟	10YR 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 7/1 灰白色	反転実測
第37図 219 図版	C13AT 944	土師器 高坏	(20.4) (4.5) ——		2.0㎜大の白色粒を若干含む。	軟	5YR 8/3 淡黄色 5YR 8/3 淡黄色 5YR 8/3 淡黄色	反転実測

114－ＯＯ

第37図 220 図版 24	C08YV 853	土師器 壺	17.4 36.7 5.9	口縁部外面 ハケ 体部外面 上半 ハケ、下半 ヘラミガキ 体部内面 板ナデ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	5YR 7/4 にぶい橙色 7.5YR 6/1 褐色 10YR 8/1 灰白色	

056－ＯＳ

第38図 221 図版	C09UF 209	須恵器 坏蓋	(9.8) 4.1 ——	口縁部 回転ナデ 天井部外面 ヘラケズリ 天井部内面 ナデ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 6/0 灰色 N 7/0 灰色 N 8/0 灰色	反転実測
第38図 222 図版 24	C09UE 205	須恵器 坏蓋	(10.7) 3.3 ——	口縁部 回転ナデ 天井部外面 ヘラケズリ 天井部内面 ナデ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 6/0 灰色 N 6/0 灰色 10R 5/3 赤褐色	反転実測
第38図 223 図版 24	C09TC 200	須恵器 坏蓋	(9.8) 3.5 ——	口縁部 回転ナデ 天井部外面 ヘラケズリ 天井部内面 ナデ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 7/0 灰白色 N 7/0 灰白色 N 7/0 灰白色	反転実測
第38図 224 図版 24	C09TD 203	須恵器 坏蓋	(10.0) (3.1) ——	口縁部 回転ナデ 天井部外面 ヘラケズリ 天井部内面 ナデ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 7/0 灰白色 N 7/0 灰白色 N 7/0 灰白色	反転実測

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調（外面） （内面） （断面）	備考
第38図 225 図版 24	C08TD 204	須恵器 坏身	9.3 3.4 ——	口縁部 回転ナデ 体部外面 ナデ・ヘラケズリ 体部内面 ナデ	3.0㎜大の白色粒を若干含む。	硬	7.5Y 6/1 灰色 10Y 7/1 灰白色 10Y 7/1 灰白色	
第38図 226 図版 24	C09UE 205	須恵器 坏身	(9.1) 3.2 ——	口縁部 回転ナデ 体部外面 ナデ・ヘラケズリ 体部内面 ナデ	0.5～2.0㎜大の白色粒を含む。	硬	N 7/0 灰白色 N 7/0 灰白色 2.5Y 8/1 灰白色	反転実測
第38図 227 図版 24	C09UE 205	須恵器 坏身	(8.4) 2.8 ——	口縁部 回転ナデ 体部外面 ナデ・ヘラケズリ 体部内面 ナデ	3.0㎜大の白色粒を含む。	硬	N 5/0 灰色 N 5/0 灰色 N 5/0 灰色	反転実測
第38図 228 図版	C09TD 203	須恵器 坏身	(10.0) (2.6) ——	口縁部 回転ナデ 体部外面 ナデ・ヘラケズリ 体部内面 ナデ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 7/0 灰白色 N 7/0 灰白色 5R 6/1 赤灰色	反転実測
第38図 229 図版	C09UE 205	須恵器 坏身	(9.8) (2.6) ——	口縁部 回転ナデ 体部外面 ナデ・ヘラケズリ 体部内面 ナデ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 7/1 灰白色 10GY 6/1 緑灰色 10GY 6/1 緑灰色	反転実測
第38図 230 図版	C09UE 205	須恵器 高坏	—— (3.2) ——	坏部 ナデ 脚部 ナデ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	中	10Y 8/1 灰白色 10Y 8/1 灰白色 10Y 8/1 灰白色	反転実測
第38図 231 図版	C08RY 1021	須恵器 甕	—— (6.2) ——	体部 回転ナデ	1.0㎜大の白色粒を若干含む。	中	N 7/1 灰白色 N 8/1 灰白色 5YR 8/1 灰白色	反転実測
第38図 232 図版	C09TD 208	須恵器 甕	(17.2) (9.2) ——	口縁部 回転ナデ 体部内面 タタキ	2.0～3.0㎜大の灰色粒を含む。	軟	10YR 3/1 黒褐色 10YR 6/1 褐灰色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測 肩部外面にヘラ記号

075－OR

第43図 234 図版	C17JL 718	弥生土器 蓋	(18.2) (3.7) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ヘラミガキ	2.0㎜大の白色・黒色粒を若干含む。 雲母を含む。	硬	10YR 5/3 にぶい黄褐色 10YR 5/3 にぶい黄褐色 10YR 5/3 にぶい黄褐色	反転実測 河内産
第43図 235 図版	C17KK 727	弥生土器 壺	(27.0) (6.3) ——	口縁部外面 波状紋、内面ヨコナデ 頸部外面 ヘラミガキ、内面 ヨコナデ	0.5㎜大の白色粒を多く含む。	硬	2.5Y 7/2 灰黄色 2.5Y 7/2 灰黄色 2.5Y 6/1 黄灰色	反転実測
第43図 236 図版 24	C17OK 756	弥生土器 壺	23.6 59.0 8.6	口頸部外面 波状紋・扇形紋 体部外面上半 タタキのちナデ、下半 ヘラミガキ	2.0～3.0㎜大の白色・灰色粒を若干含む。	硬	10YR 8/2 灰白色 10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	
第44図 237 図版	C17OL 715	弥生土器 壺	(21.4) (3.0) ——	口縁端面 円形浮紋 口縁部内面 指突紋	0.5～1.0㎜大の白色粒を多く含む。	中	7.5YR 8/3 浅黄橙色 2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色	反転実測
第44図 238 図版	C17QK 769	弥生土器 壺	(16.3) (3.8) ——	口縁部 ヨコナデ 頸部外面 ハケ 頸部内面 ハケ	0.5㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	7.5YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/1 灰白色 10YR 8/1 灰白色	反転実測
第44図 239 図版	C17IM 714	弥生土器 壺	(15.6) (9.8) ——		0.5～5.0㎜大の白色・灰色・褐色粒を含む。	軟	10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色 5YR 8/3 淡橙色	反転実測
第44図 240 図版	C17QK 758	弥生土器 壺	(19.6) (4.8) ——	口縁部 ヨコナデ 頸部 ナデ	0.5㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	2.5Y 7/3 浅黄色 2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色	反転実測
第44図 241 図版 30	—— 729	弥生土器 壺	(16.8) (5.9) ——	口縁部 ヨコナデ 頸部外面 ヘラミガキ	0.5㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	2.5Y 7/2 灰黄色 2.5Y 7/2 灰黄色 2.5Y 7/1 灰白色	反転実測
第44図 242 図版 30	C17LK 719	弥生土器 壺	(20.0) (7.0) ——	口縁部 ヨコナデ 頸部外面 ハケ 頸部内面 ナデ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 5/1 黄灰色	反転実測
第44図 243 図版	C17KK 716	弥生土器 壺	(19.4) (7.2) ——		0.5～4.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	軟	10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色	反転実測

挿図 No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第44図 244 図版	C17NJ 685	弥生土器 壺	(21.0) (7.9) ——	口縁部 ナデ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	10YR 7/2 にぶい黄橙色 2.5Y 7/3 浅黄色 2.5Y 7/3 浅黄色	反転実測
第44図 245 図版 30	C17KL 721	弥生土器 壺	(16.0) (5.7) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケのちタタキ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色	反転実測 外面スス付着
第44図 246 図版 30	C17KK 727	弥生土器 壺	(15.4) (6.2) ——	口縁部 ナデ 頸部外面 ハケ 頸部内面 ヘラミガキ	0.5～1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	2.5Y 7/3 浅黄色 2.5Y 7/3 浅黄色 2.5Y 7/3 浅黄色	反転実測 外面スス付着
第44図 247 図版 30	C17KL 721	弥生土器 壺	(16.2) (6.7) ——	口縁部 ヨコナデ	0.5～1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第44図 248 図版	—— 761	弥生土器 鉢	(12.9) (4.0) ——	口縁部 ヨコナデ 体部内面 ナデ	0.5㎜以下の灰色粒を多く含む。	中	2.5Y 8/3 淡黄色 7.5Y 7/6 橙色 2.5Y 8/3 淡黄色	反転実測
第44図 249 図版	C17QK 758	弥生土器 鉢	(15.6) (5.0) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 指突紋 体部内面 ナデ	0.5～3.0㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 6/2 灰黄褐色 7.5YR 4/2 灰褐色 10YR 5/1 褐灰色	反転実測
第44図 250 図版	C17JL 718	弥生土器 台付鉢	—— (6.2) (12.2)		0.5㎜大の白色粒を多く含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第44図 251 図版	C17LK 719	弥生土器	—— (2.7) (7.2)	底部内面 ナデ	0.5㎜大の白色粒を多く含む。	中	10YR 7/3 にぶい黄橙色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第44図 252 図版	C17QK 758	弥生土器	—— (2.6) (8.0)	底部内面 ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	硬	N 3/0 暗灰色 5Y 5/1 灰色 N 4/0 灰色	反転実測
第44図 253 図版	C17JK 724	弥生土器	—— (7.4) (8.6)		3.0～5.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	軟	10YR 7/6 明黄褐色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 7/3 浅黄色	反転実測
第45図 254 図版 30	C17JM 125	弥生土器 甕	(11.0) (4.7) ——	口縁部 ナデ 体部外面 ハケ 体部内面 板ナデ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	中	7.5YR 5/3 にぶい褐色 7.5YR 5/3 にぶい褐色 7.5YR 5/3 にぶい褐色	反転実測
第45図 255 図版 30	—— 764	弥生土器 甕	(14.8) (3.9) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ナデ	0.5㎜以下の白色・灰色粒を含む。	硬	10YR 7/2 にぶい黄橙色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第45図 256 図版	—— 764	弥生土器 甕	(16.0) (3.4) ——	口縁部外面 ヨコナデ、内面ハケのちナデ、体部外面 ハケ、内面 板ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	中	7.5YR 5/2 灰褐色 10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色	反転実測 外面スス付着
第45図 257 図版	C17JL 726	弥生土器 甕	(15.6) (9.8) ——	口縁部 ヨコナデ 体部 ハケ	0.5～1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 5/2 灰黄褐色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第45図 258 図版	C17JK 724	弥生土器 甕	(17.0) (7.0) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ 体部内面 ナデ	0.5㎜以下の白色粒を多く含む。	中	10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 7/3 にぶい黄橙色	反転実測 外面スス付着
第45図 259 図版	C17QK 772	弥生土器 甕	(15.0) (4.7) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	中	10YR 8/2 灰白色 10YR 8/2 灰白色 7.5YR 8/3 浅黄橙色	反転実測
第45図 260 図版 30	—— 764	弥生土器 甕	(22.0) (7.1) ——	口縁部 ヨコナデ 体部 ハケ	0.5㎜大の灰色粒を含む。	中	N 4/0 灰色 10YR 6/3 にぶい黄橙色 10YR 7/4 にぶい黄橙色	反転実測
第45図 261 図版 30	C17OK 757	弥生土器 甕	(22.0) (13.1) ——	口縁部 ヨコナデ 体部 ハケ	1.0㎜大の白色粒を若干含む。	硬	10YR 5/2 灰黄褐色 10YR 5/3 にぶい褐色 7.5YR 7/3 にぶい橙色	反転実測 外面スス付着
第45図 262 図版	—— 764	弥生土器 甕	(26.0) (8.5) ——	口縁部 ヨコナデ 体部 ハケ	0.5㎜大の白色粒を若干含む。	中	10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/3 浅黄橙色 10YR 8/3 浅黄橙色	反転実測 外面スス付着

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調（外面） （内面） （断面）	備考
第45図 263 図版	—— 764	弥生土器 甕	(30.3) (4.8) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	中	2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色	反転実測 外面スス付着
第45図 264 図版 30	C17QL 760	弥生土器 甕	(28.6) (7.4) ——	口縁部　ヨコナデ 体部　ハケ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色	反転実測 外面スス付着
第45図 265 図版	C17LK 719	弥生土器 甕	(32.6) (8.2) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5～ 5.0㎜大の白色粒を含む。	中	10YR　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色	反転実測
第46図 266 図版	C17PL 752	弥生土器 甕	(34.8) (8.4) ——	体部外面　ハケ	0.5㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	中	2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色	反転実測
第46図 267 図版	C17KK 720	弥生土器 甕	(36.0) (8.7) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5～ 2.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	硬	2.5Y　8/3 淡黄色 2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色	反転実測
第46図 268 図版 24	C17OK 757	弥生土器 水差形土器	(9.6) (14.8) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　波状紋・直線紋 体部内面　指オサエ	0.5㎜以下の白色・灰色粒を含む。	硬	2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色 2.5Y　8/2 灰白色	反転実測
第46図 269 図版	—— 761	弥生土器 高坏	—— (9.4) ——	脚部外面　ヘラミガキ	0.5～ 1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	7.5YR 5/3 にぶい褐色 7.5YR 5/3 にぶい褐色 7.5YR 5/1 褐灰色	反転実測
第46図 270 図版	C17PL 683	弥生土器 高坏	—— (4.7) (15.5)	脚部外面　ヘラミガキ 脚部内面　ナデ	0.5㎜大の白色・灰色・黒色粒を多く含む。	中	2.5Y　7/2 灰黄色 7.5YR 7/2 明褐灰色 10YR　4/1 褐灰色	反転実測
第46図 271 図版	C17JK 724	弥生土器 高坏	(23.4) (3.6) ——	口縁部　ヨコナデ	1.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	軟	2.5Y　8/3 淡黄色 2.5Y　8/3 淡黄色 2.5Y　8/3 淡黄色	反転実測
第46図 272 図版	C17OJ 681	弥生土器 高坏	(25.0) (5.5) ——		0.5～ 2.0㎜大の白色粒を多く含む。	硬	10YR　8/2 灰白色 2.5Y　8/3 淡黄色 2.5Y　8/3 淡黄色	反転実測
第46図 273 図版	C17KL 721	弥生土器 高坏	(22.0) (4.0) ——		1.0㎜大の白色粒を若干含む。	中	2.5YR 7/4 淡赤橙色 10YR　8/2 灰白色 10YR　8/2 灰白色	反転実測
第46図 274 図版	—— 764	弥生土器 高坏	(20.8) (5.9) ——	口縁部　ヨコナデ 坏部内面　ヘラミガキ	0.5㎜以下の白色・灰色粒を多く含む。	中	2.5Y　8/2 灰白色 10YR　7/3 にぶい黄橙色 10YR　7/3 にぶい黄橙色	反転実測
第46図 275 図版	C17QK 772	弥生土器 鉢	(54.6) (8.1) ——	口縁部　ヨコナデ	0.5～ 1.0㎜大の白色・灰色粒を多く含む。	硬	10YR　7/2 にぶい黄橙色 2.5Y　7/2 灰黄色 2.5Y　7/2 灰黄色	反転実測

124－ＯＳ

第47図 276 図版	C21FW 971	須恵器 坏身	(9.7) (2.2) ——	口縁部　回転ナデ	1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	N　7/0 灰色 N　7/0 灰色 N　7/0 灰色	反転実測
第47図 277 図版	C21FW 971	須恵器 坏身	(16.9) 4.9 (11.0)	口縁部　回転ナデ 体部外面　ヘラケズリ	1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	N　7/0 灰白色 10Y　8/1 灰白色 N　7/0 灰白色	反転実測 外面に窯着

083－ＯＳ

第49図 278 図版	C16YW 732	土師質 羽釜	(24.0) (8.8) ——	口縁部　ヨコナデ 体部外面　ヘラケズリ 体部内面　ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	硬	7.5YR 6/6 橙色 7.5YR 6/6 橙色 7.5YR 6/6 橙色	反転実測
第49図 279 図版	C17WC 773	瓦質 羽釜	(26.4) (7.6) ——	口縁部　ナデ	0.5㎜大の白色粒を含む。	硬	N　3/0 暗灰色 N　6/0 灰色 2.5GY 8/1 灰白色	反転実測

挿図 No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第49図 280 図版	C17VB 738	瓦質 鉢	(27.8) (6.3) ——	口縁部 ヨコナデ 体部内面 ハケ、スリ目	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 5/0 灰色 N 4/0 灰色 7.5Y 8/1 灰白色	反転実測
第49図 281 図版	C16XY 737	瓦器 椀	(12.4) (3.7) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 指オサエ 体部内面 ヘラミガキ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 6/0 灰色 N 6/0 灰色	反転実測

078－OR

第51図 282 図版	C16YX 731	瓦質 鉢	(14.6) (4.4) ——	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ヘラケズリ	0.5～1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	N 3/0 暗灰色 N 3/0 暗灰色 7.5Y 8/1 灰白色	反転実測
第51図 283 図版	C16YX 745	瓦質 鉢	(31.0) (4.0) ——	口縁部 ヨコナデ 体部内面 ハケ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 6/0 灰色 N 6/0 灰色 7.5Y 8/1 灰白色	反転実測
第51図 284 図版	C16YX 731	瓦器 椀	(13.2) (2.4) ——	口縁部 ヨコナデ	0.5㎜以下の白色粒を含む。	硬	N 4/0 灰色 N 5/0 灰色 7.5Y 8/1 灰白色	反転実測
第51図 285 図版	C16YX 745	瓦器 椀	—— (2.2) (6.2)	底部内面 ヘラミガキ	0.5㎜大の白色粒を含む。	硬	N 4/0 灰色 N 5/0 灰色 N 8/0 灰白色	反転実測

081－OR

第52図 286 図版	—— 707	縄紋土器 鉢	(14.0) (4.8) ——	口縁部 ナデ 体部外面 ケズリ	1.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	中	2.5Y 3/2 黒褐色 7.5Y 3/2 黒褐色 7.5Y 3/2 黒褐色	反転実測
第52図 287 図版	C17TH 980	土師質 土錘	40.0 × 7.2	ナデ	0.5㎜以下の白色粒・灰色粒を含む。	硬	2.5Y 7/2 灰黄色	

068－OR

第56図 288 図版 25	C21KP 556	縄紋土器 深鉢	—— (7.2) ——	口縁部外面 ナデ 体部内面 指オサエ	1.0～2.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	中	7.5YR 5/1 褐灰色 7.5YR 3/1 黒褐色 7.5YR 4/1 褐灰色	反転実測
第56図 289 図版 25	C21KP 556	縄紋土器 深鉢	—— (7.8) ——	体部外面 ナデ 体部内面 指オサエ	1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 6/2 灰黄褐色 10YR 7/4 にぶい黄橙色 10YR 4/3 にぶい黄橙色	
第56図 290 図版 25	C21OJ 564	縄紋土器 深鉢	—— (10.0) ——	体部外面 ミガキ・条痕 沈線間 縄紋 体部内面 横方向の巻貝条痕	1.0㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 8/2 灰白色 10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	反転実測

065－OR

第58図 291 図版 26	—— 845	縄紋土器 深鉢	(18.8) (6.4) ——	口縁部外面 条痕 口縁部内面 ナデ	1.0～2.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	硬	5Y 2/1 黒色 7.5Y 4/1 灰色 5Y 6/1 灰色	反転実測 外面スス付着
第58図 292 図版 26	—— 498	縄紋土器 深鉢	(35.0) (8.9) ——	口縁部 二枚貝条痕	1.0㎜大の白色粒を含む。	中	7.5YR 6/3 にぶい褐色 10YR 8/4 浅黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	反転実測 外面スス付着
第58図 293 図版 26	C21HQ 453	縄紋土器 深鉢	(36.0) (8.2) ——	口縁部外面 二枚貝条痕 口縁部内面 条痕	1.0㎜大の白色粒を含む。	中	10YR 3/2 黒褐色 10YR 6/6 明黄褐色 10YR 6/6 明黄褐色	反転実測 外面スス付着
第58図 294 図版 26	C21WH 950	縄紋土器 深鉢	—— (12.3) ——	体部外面上半 二枚貝条痕 体部外面下半 縄紋 体部内面 二枚貝条痕	1.0㎜大の白色粒を含む。 雲母を含む。	硬	10YR 2/2 黒褐色 2.5Y 2/1 黒色 10YR 2/2 黒褐色	

064－ＯＲ

挿図 No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値 h. b.	技法	胎土	焼成	(外面) 色調 (内面) (断面)	備考
第62図 297 図版 25	C21SF 446	縄紋土器 深鉢	—— (5.1) ——	外面 縄紋・沈線	1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 6/2 灰黄褐色 10YR 4/1 褐灰色 10YR 6/2 灰黄褐色	
第62図 298 図版 25	C21QF 444	縄紋土器 深鉢	—— (5.8) ——	外面 縄紋・沈線	1.0㎜大の白色粒を含む。	軟	2.5Y 3/2 黒褐色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	
第62図 299 図版 25	C21QF 444	縄紋土器 深鉢	—— (4.9) ——	外面 縄紋	1.0㎜大の白色粒を含む。	軟	2.5Y 3/2 黒褐色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	
第62図 300 図版 25	C21QF 444	縄紋土器 深鉢	—— (4.8) ——	外面 縄紋	1.0㎜大の白色粒を含む。	軟	2.5Y 3/2 黒褐色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	

069－ＯＲ

第63図 301 図版	C21MP 425	弥生土器 蛸壺形土器	6.0 9.2 ——	体部内面 指オサエ	3.0～5.0㎜大の白色・灰色・黒色粒を多く含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	

062－ＯＲ

第65図 302 図版 24	C21KQ 432	弥生土器 壺	10.4 17.5 4.4	口縁部 ヨコナデ 体部外面 ハケ・タタキ、内面 ナデ・ハケ 底部外面 指オサエ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	中	10YR 8/2 灰白色 10YR 6/2 灰黄褐色 5YR 8/3 淡橙色	
第65図 303 図版 24	C21KQ 433・435	弥生土器 鉢	(15.8) 8.9 4.2	口縁部 ヨコナデ 体部外面 タタキ	2.0㎜大の白色・灰色粒を含む。	中	10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	一部反転実測
第65図 304 図版 24	C21KQ 434	弥生土器 高坏	(21.1) (11.6) ——	脚部外面 ヘラミガキ 脚部内面 ハケ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	7.5YR 8/3 浅黄橙色 7.5YR 4/1 褐灰色 7.5YR 4/1 褐灰色	一部反転実測 3方向スカシ
第66図 305 図版 24	C21NP 819	弥生土器 壺	13.8 (3.5) ——	口縁部 ナデ 頸部外面 ヘラミガキ 頸部内面 ハケ	0.5㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	10YR 7/2 にぶい黄橙色 2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 5/1 黄灰色	
第66図 306 図版	C21JQ 430	弥生土器 壺	(19.2) (7.2) ——		0.5～1.0㎜大の白色粒を含む。	硬	10YR 8/3 浅黄橙色 2.5Y 7/1 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測
第66図 307 図版	C21MP 816	弥生土器 鉢	(12.0) (7.7) ——	口縁部 ナデ 体部外面 タタキ 体部内面 ヘラケズリ	1.0㎜大の白色・赤色粒を含む。	中	5YR 7/4 にぶい橙色 5YR 7/6 橙色 5YR 7/6 橙色	反転実測
第66図 308 図版	C21NP 818	弥生土器 甕	—— (3.6) 4.9	体部外面 タタキ	1.0～5.0㎜大の白色粒を含む。	中	2.5Y 6/1 黄灰色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色	
第66図 309 図版	C21KQ 422	弥生土器 甕	—— (4.3) 4.4	体部外面 タタキ 体部内面 ハケ 底部外面 ナデ	2.5㎜大の白色粒を多く含む。	中	2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 8/2 灰白色 2.5Y 6/1 黄灰色	
第66図 310 図版	C21MQ 817	弥生土器 高坏	(22.0) (5.5) ——		1.0～3.0㎜大の白色粒を含む。	中	7.5YR 8/6 浅黄橙色 7.5YR 8/6 浅黄橙色 7.5YR 8/6 浅黄橙色	反転実測
第66図 311 図版	C21KQ 422	弥生土器 高坏	(22.6) (3.2) ——		0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	2.5Y 8/3 淡黄色 2.5Y 8/3 淡黄色 7.5YR 7/3 にぶい橙色	反転実測
第67図 312 図版	C21KQ 422	弥生土器 器台	(15.4) (2.8) ——	頸部外面 ヨコナデ	0.5㎜以下の白色粒を若干含む。	硬	7.5YR 7/3 にぶい橙色 7.5YR 7/3 にぶい橙色 2.5Y 8/2 灰白色	反転実測

挿図No. 図版	地区 登録番号	器種 器形	l. 計測値h. b.	技法	胎土	焼成	色調 (外面) (内面) (断面)	備考
第67図 313 図版 26	C21KQ 422	縄文土器 精製浅鉢	(21.0) (3.5) ——	口縁部 研磨	1.0mm大の白色粒を含む。 雲母を含む。	硬	7.5YR 5/2 灰褐色 10YR 3/1 黒褐色 7.5YR 5/2 灰褐色	反転実測
第67図 314 図版 26	C21MP 816	縄文土器 精製浅鉢	(27.8) (4.2) ——	口縁部 研磨	1.0mm大の白色粒を含む。 雲母を含む。	中	10YR 3/2 黒褐色 10YR 2/1 黒色 10YR 3/2 黒褐色	反転実測
第67図 315 図版 26	C21KQ 422	縄文土器 深鉢	(28.0) (6.4) ——	口縁部 ナデ 体部外面上半 ケズリ	1.0mm大の白色粒を含む。	中	10YR 7/2 にぶい黄橙色 10YR 4/1 褐灰色 10YR 7/2 にぶい黄橙色	反転実測
第67図 316 図版 26	C21MQ 817	縄文土器 浅鉢	(34.0) (9.4) ——	外面 条痕	1.0～ 2.0mm大の白色粒を含む。雲母、シャモットを含む。	軟	10YR 5/3 にぶい黄褐色 10YR 5/6 黄褐色 10YR 5/3 にぶい黄褐色	反転実測
第67図 317 図版 26	C21MQ 817	縄文土器 深鉢	(40.0) (11.0) ——	口縁部外面 ナデ・ケズリ 口縁部内面 ナデ	1.0～ 3.0mm大の白色粒を含む。	中	7.5YR 4/2 灰褐色 7.5YR 4/1 褐灰色 7.5YR 4/1 褐灰色	反転実測
第67図 318 図版 26	C21MQ 817	縄文土器 浅鉢	—— (2.5) ——	口縁部 ナデ	0.5～ 1.0mm大の白色・赤色粒を含む。	中	2.5Y 4/2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 暗灰黄色	
第67図 319 図版 26	C21KQ 422	縄文土器 深鉢	—— (4.5) ——		1.0～ 2.0mm大の白色粒を含む。	中	10YR 7/3 にぶい黄橙色 10YR 6/4 にぶい黄橙色 10YR 6/4 にぶい黄橙色	
第67図 320 図版	C21NP 818	縄文土器 底部	—— (2.2) (5.5)		1.0～ 3.0mm大の白色粒を含む。 雲母を含む。	軟	2.5Y 5/3 黄褐色 2.5Y 4/1 黄灰色 2.5Y 4/1 黄灰色	反転実測

No.	挿図 図版	地区 登録番号	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
19	第6図 図版27	C21PI 452	石砲丁	13.1 4.5	0.9 77.0	緑泥片岩	
20	第6図 図版	C21TI 418	石砲丁	7.7 5.4	0.5 36.9	緑泥片岩	
21	第6図 図版	C21TJ 790	石砲丁	6.4 2.8	0.6 12.0	緑泥片岩	
22	第6図 図版27	C21TG 362	石鏃	2.2 1.5	0.3 0.63	サヌカイト	
23	第6図 図版27	C21MK 447	石鏃	2.1 1.6	0.3 0.7	サヌカイト	
24	第6図 図版27	137	石鏃	2.5 1.3	0.6 1.8	サヌカイト	
25	第6図 図版27	C21RJ 426	石鏃未製品	3.6 2.3	0.8 4.3	サヌカイト	
26	第6図 図版	C21MJ 542	石鏃の未製品	3.6 3.0	0.8 8.6	サヌカイト	
27	第6図 図版	474	スクレイパー	2.0 1.5	0.4 1.3	サヌカイト	
28	第7図 図版	C13UF 46	スクレイパー	6.4 4.3	0.8 27.5	サヌカイト	
29	第7図 図版27	137	二次加工のある剝片	5.4 4.2	0.9 19.2	サヌカイト	
30	第7図 図版27	C13JO 119	二次加工のある剝片	2.6 3.0	0.8 5.6	サヌカイト	
31	第7図 図版27	C13VE 50	二次加工のある剝片	4.8 3.9	0.9 16.0	サヌカイト	
32	第7図 図版	C13GL 1020	スクレイパー	10.2 5.3	1.2 47.7	サヌカイト	
33	第7図 図版	2	石核	4.9 1.8	2.7 23.7	サヌカイト	
34	第7図 図版27	C21HO 560	石核	6.0 5.2	1.6 41.7	サヌカイト	
35	第7図 図版	136	石核	5.7 3.2	1.4 31.6	サヌカイト	
36	第7図 図版27	C13KN 121	石核	5.6 5.1	3.0 90.2	サヌカイト	

003－ＯＯ出土石器

No.	挿図 図版	地区 登録番号	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
37	第12図 図版 28	C13VE 72	スクレイパー	4.9 2.4	1.1 11.6	サヌカイト	

008－ＯＯ出土石器

38	第12図 図版 28	C13FQ 133	石鏃	2.6 2.2	0.3 1.0	サヌカイト	
39	第12図 図版 28	C13GS 129	剝片	5.8 4.76	0.9 17.8	サヌカイト	

054－ＯＲ出土石器

42	第15図 図版 28	C08SW 195	スクレイパー	3.0 1.3	0.8 2.2	サヌカイト	
43	第15図 図版 28	C09RC 870	石剣	19.1 3.8	1.5 147.6	サヌカイト	

055－ＯＲ出土石器

97	第21図 図版	C09XB 297	石皿	34.0 17.3	6.9 約6800		
98	第21図 図版	C08YW 327	砥石	9.6 10.0	4.0 597.4		054－ＯＲ・055－ＯＲいずれの出土か不明
99	第21図 図版	330	石皿	12.2 14.0	7.5 1334.8		054－ＯＲ・055－ＯＲいずれの出土か不明

007－ＯＳ出土石器

206	第34図 図版	C13AT 913	叩石	4.9 10.2	3.6 306.3		
207	第34図 図版	C13BT 941・946	砥石	17.5 12.2	4.3 1095.1		
208	第34図 図版 28	C13AT 872	勾玉	17.2	4.0 0.9	滑石	
209	第34図 図版	C13BT 912	砥石	6.8 3.1	2.6 49.8		

075－ＯＲ出土石器

233	第42図 図版 28	771	石鏃	4.3 1.1	0.5 2.0	サヌカイト	

065－ＯＲ出土木製品・石器

No.	挿図 図版	地区 登録番号	種類	現長 現幅	最大厚 重量	材質	備考
295	第59図 図版	C21OY	部材	90.8 12.7	13.6 ———	木	
296	第60図 図版 28	C12PI 456	スクレイパー	4.0 7.3	1.0 29.1	サヌカイト	

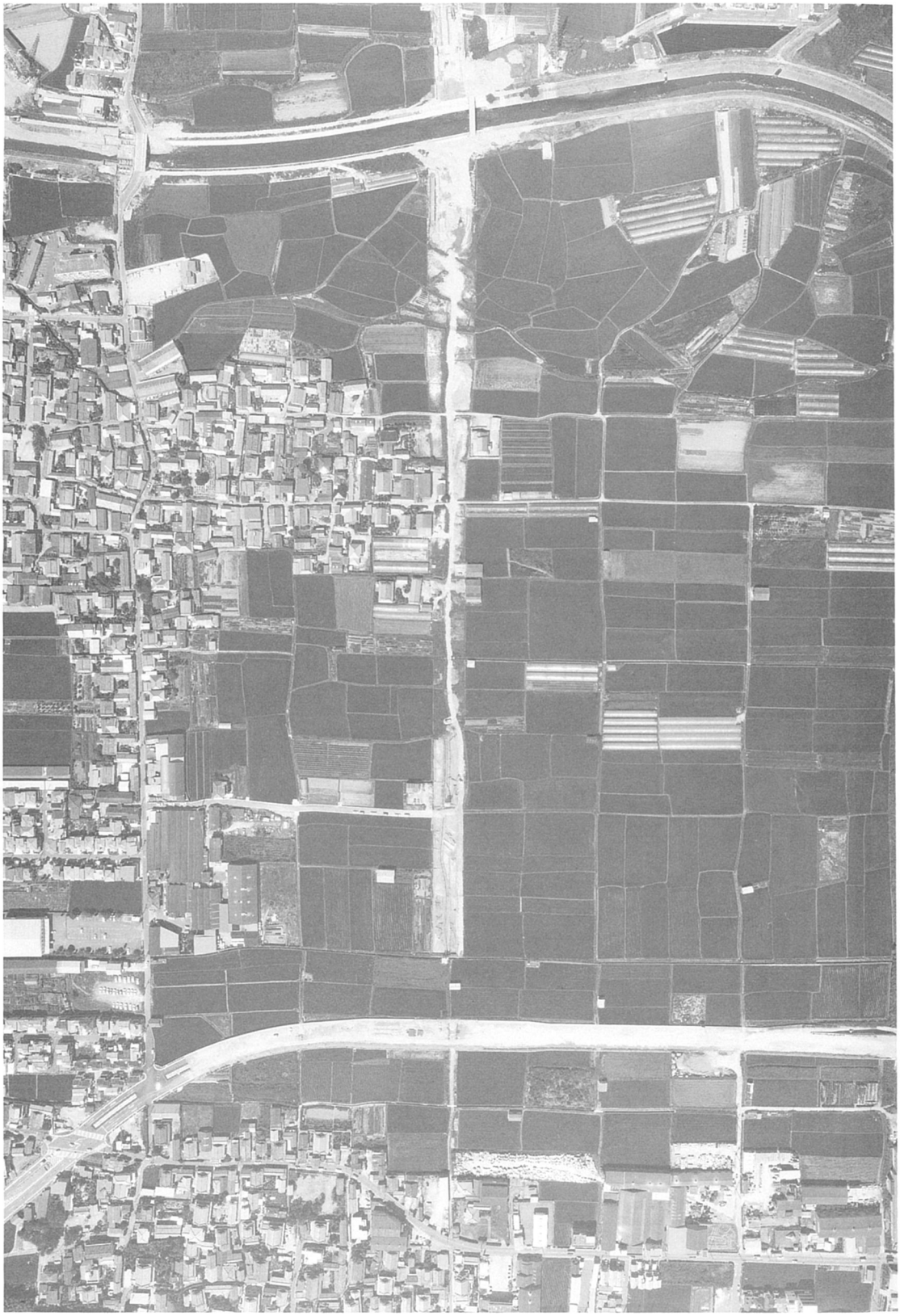
062－ＯＳ出土石器

321	第68図 図版	C21MQ 817		5.9 4.2	2.1 65.4		

図　　版

小田遺跡から軽部池・摩湯山古墳を望む

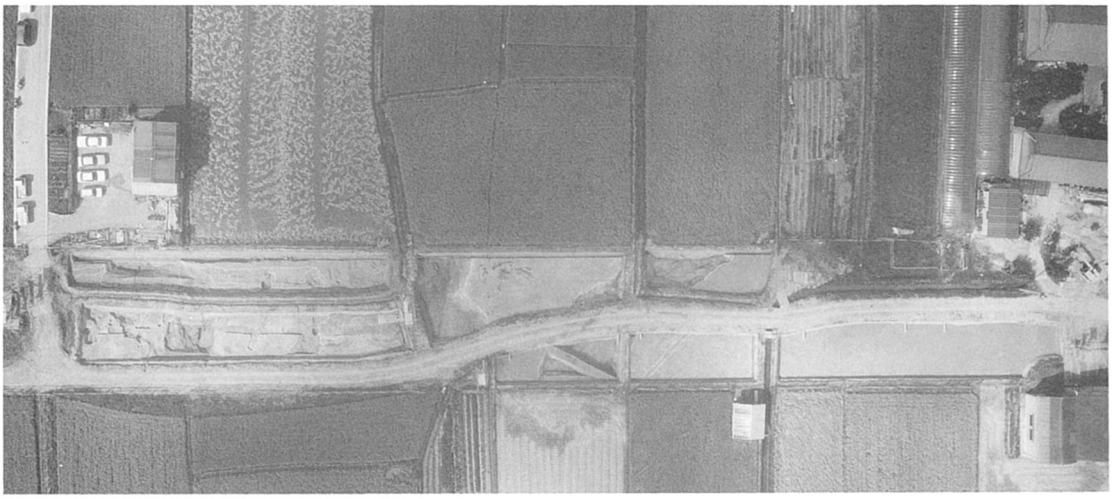
図版一　遺跡全景



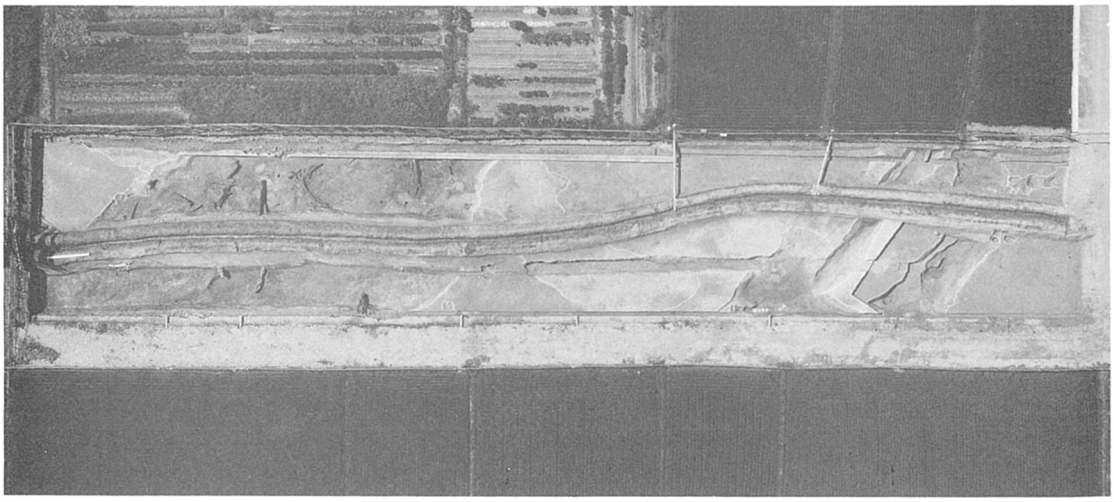
遺跡全景（航空写真）

図版二　調査区全景

a　第Ⅰ調査区全景（航空写真）

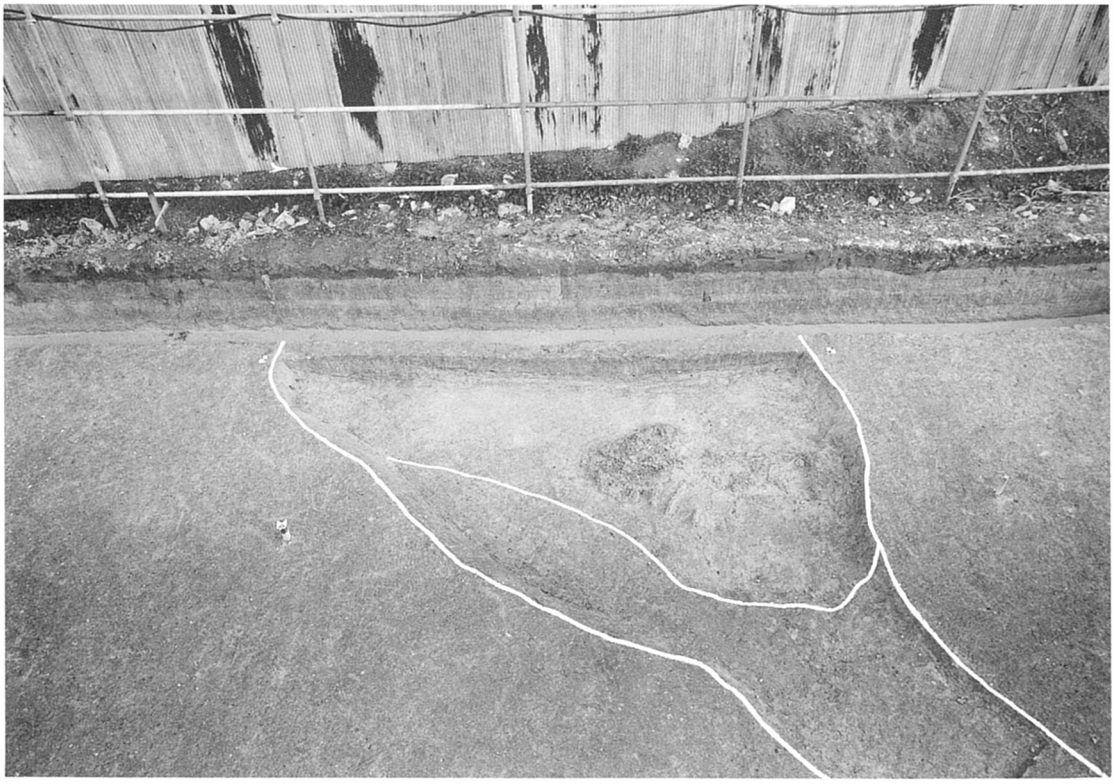


b　第Ⅱ調査区全景（航空写真）

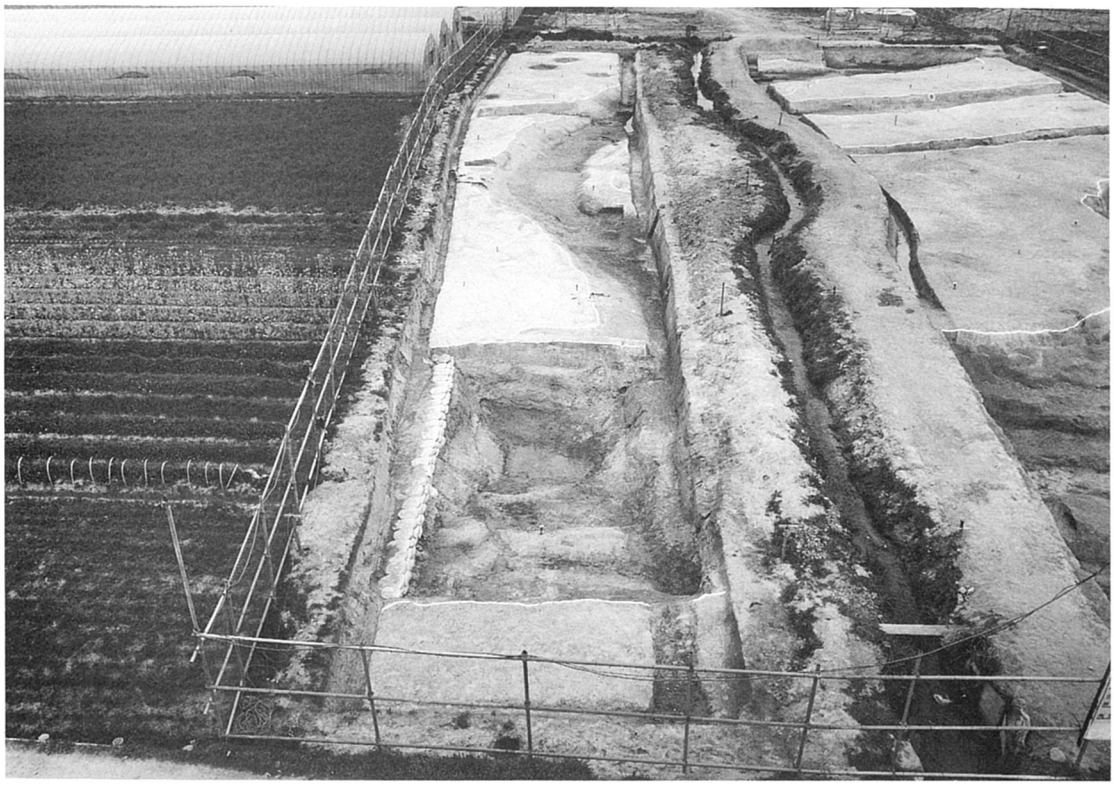


c　第Ⅲ調査区全景（航空写真）

a　002－ＯＳ近景（西から）



b　008－ＯＯ近景（北から）



a　054－ＯＲ、055－ＯＲ全景（西から）

b　054－ＯＲ、055－ＯＲ全景（西から）